

徳島県立博物館年報

第19号 (平成21年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 19 (for the fiscal year of 2009)

徳島県立博物館年報

第19号(平成21年度)

二〇一〇

目 次

徳島県立博物館の使命	2	2. 分野別（個別）調査研究	32
I 展 示		3. 科学研究費補助金等による研究	35
1. 常設展	3	4. 他機関との共同研究	35
2. 企画展	5	5. 研究成果の公表	36
3. 特別陳列	7	VI 資料の収集・保存と活用	
4. 企画展示室の会場提供	9	1. 採集資料	40
5. 館外での展示	10	2. 購入資料	40
6. 常設展の更新及び活性化に 向けての取り組み	10	3. 寄贈資料	40
7. 展示関係出版物	12	4. 寄託資料	42
II 普及教育		5. 資料の貸し出し	42
1. 普及行事	13	6. 写真・映像の提供	42
2. 学校教育支援事業	16	7. 資料の提供	43
3. 博物館友の会	19	8. 資料の交換	43
4. 県民参画活動の推進	20	9. 館蔵資料数	43
5. 普及教育関係出版物	22	10. 資料収集委員会	43
6. 徳島新聞「こども新聞」への協力	22	11. 文献資料の収集	43
III シンクタンクとしての社会貢献		12. 資料の保存	44
1. レファレンス業務	23	VII マネージメント	
2. 各種委員会委員等の受諾	23	1. 組織・職員	45
3. 講師の派遣	24	2. 予算	45
4. 大学教育への寄与	25	3. 博物館協議会	45
5. 学会・研究会等の運営への寄与	26	4. 視察等博物館関係来訪者	46
6. 博物館ネットワーク	26	VIII 中期活動目標と自己点検・評価	
IV 情報の発信と公開		1. 中期活動目標	47
1. 博物館の広報活動	28	2. 21年度実績と自己点検・評価	53
2. テレビ・ラジオへの出演等	28	IX 観覧者統計	65
3. インターネットによる情報提供	29	X 施設の概要	
4. 外部ネットワークとの連携	29	1. 沿革	68
5. 情報システムの概要	30	2. 施設の概要	68
V 調査研究		3. 博物館各室面積	70
1. 課題調査	31	XI 例 規	72

徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱
—県民とともに成長する博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史・文化についての資料・情報に
もとづく学びの場として、県民のみなさんとともに成長していきます。

知 知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について情報を発信し、県民のみなさんとともに楽しく学ぶ場を創ります。

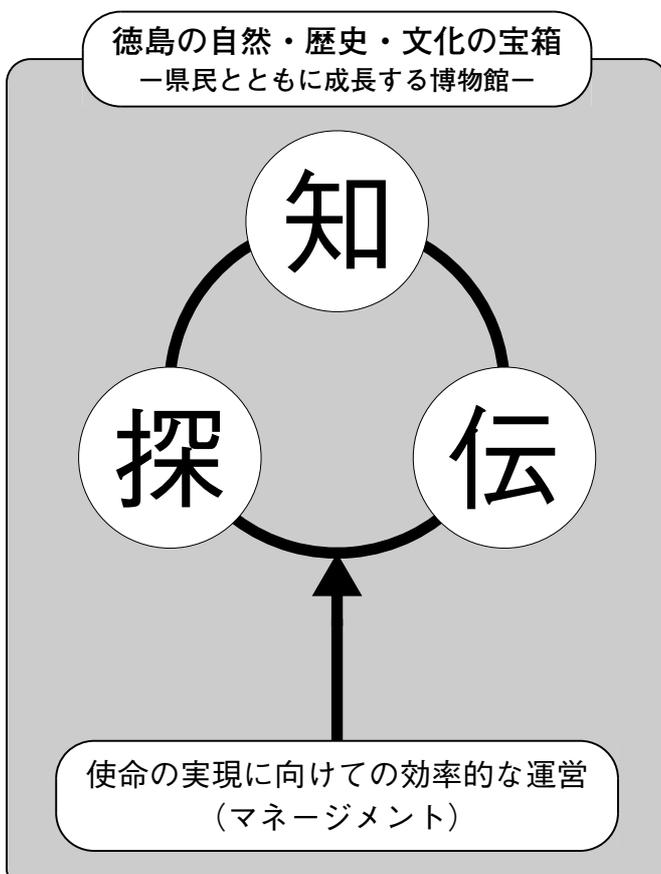
探 地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、地域の魅力を見つけます。

伝 未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

博物館では、効率的な運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。



使命と事業の関係

- 1 知—知と出会う博物館
 - (1) 展示
 - (2) 普及教育
 - (3) シンクタンクとしての社会貢献
 - (4) 情報の発信と公開
- 2 探—地域の魅力を探る博物館
 - (1) 調査研究
- 3 伝—未来にまもり伝える博物館
 - (1) 資料の収集・保存と活用
- 4 使命の実現に向けての効率的な運営
 - (1) マネージメント

本文における事業の配列は、この構成にもとづいたものである。

I 展示

博物館の展示は、主として常設展と企画展から成る。常設展は、徳島の自然や歴史・文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについて理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。したがって、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていないなど、常設展の更新（リニューアル）が大きな課題となっている。しかし、厳しい財政状況のもとで、開館20周年が近づいているものの、事業化のめどは立っていない。そこで、「リフレッシュ事業」として、平成22年度に可能な範囲での改善を集中的に行うこととした（年報第18号参照）。しかし平成22年度は、開館20周年記念事業や当館が運営にかかわっている鳥居龍蔵記念博物館のオープンなどで業務の多忙化が予測されることから、予定していた時期を早めて、平成21年度の末に一部の中項目や小項目の変更等の中規模な更新を行った。

企画展は、専用の企画展示室を使って行うことにしている。従来は年3回行っていたが、平成21年度は予算削減等の理由から2回とし、削減した1回分をより低予算の「特別陳列」に変更した。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりを持つ資料の展示など様々なテーマをおりませ、2、3年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。しかしながら、年々企画展予算が削減され、規模の大きな企画展の開催は難しくなっている。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1. 日本列島と四国のおいたち

2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：近世の焼き物／徳島の歴史・民俗資料 など
 自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。主な展示資料：

- メガテリウム全身骨格（レプリカ）
- パノクツス全身骨格及び甲羅
- マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
- トクソドン全身骨格（レプリカ）
- スミロドン全身骨格（レプリカ）
- ヒッピーディオン全身骨格（レプリカ）
- ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。多様な資料の公開をはかるため、平成20年度から、自然史関係の展示も行うことにした。

●新着資料紹介「笠井氏の見た大阪万博」「粟飯原家所蔵人形頭コレクション」

前年度～5月24日（日）

故笠井正一氏が収集した大阪万博に係る資料（平成19年度受贈）と粟飯原家所蔵の人形頭（同年度受託）を新着資料として紹介した。

●東かがわ市歴史民俗資料館出前展示「阿波街道一讃岐と阿波を結ぶ道一」

5月26日（火）～7月12日（日）

東かがわ市歴史民俗資料館との交流事業として実施した。阿讃山脈を抜ける街道を介した讃岐と阿波との交流の歴史を紹介した。

4 展示

●佐藤忠邦氏の石器コレクション

7月14日(火)～10月25日(日)

平成18年度に寄贈を受けた佐藤忠邦氏のコレクションを紹介した。佐藤忠邦氏は三好市三野町出身で、このコレクションは三野町を中心に収集した石器類と一部土器類などからなる。



「佐藤忠邦氏の石器コレクション」展示解説

●人形頭と人形芝居

10月27日(火)～11月29日(日)

「阿波人形浄瑠璃月間～ジョールリ100公演～」にあわせ、人形師の作品としての人形頭と、それをつかった人形芝居のようすを、当館所蔵資料を中心に紹介した。

●里山のケモノ 一狸と狐ー

12月1日(火)～2月14日(日)

タヌキとキツネについての分類や形態、生態を紹介するとともに、信仰、伝承、民芸などについても触れた。

●ヘルマン・ヘッセ昆虫展一少年の日の思い出ー

2月9日(火)～3月22日(月)

中学校の教科書に掲載されている「少年の日の思い出」に登場するヨーロッパ産の昆虫標本と、ヘッセに関係する各種資料を紹介した。

●絵に見る中世

2月16日(火)～3月22日(月)

館蔵の中世絵画資料(模本、複製)を通じて、中世の人々の生活や信仰などを紹介した。



「ヘルマン・ヘッセ昆虫展」展示風景

(3) トピックコーナーの再開

部門展示(人文)の定期的な展示替えの中に自然系も含めることにしたためトピックコーナーを休止していたが、常設展に変化をつける効果は無視できないし、スペースがそれほど必要でない展示もあるので、再開した。平成22年度は、次の展示を行った。更新は計画化せず、随時行う予定である。

●四国で発見された東アジア初のオウムガイ化石

7月21日(火)～

高知県四万十市の白亜紀後期の地層(中村層)中の石灰岩から産出した東アジア初となるオウムガイ化石アツロイデアを紹介した。また、当館に収蔵されている、その他の種類のオウムガイ化石も一緒に展示した。



トピックコーナー展示風景



「里山のケモノ」展示風景

2. 企画展

平成21年度は、次の2回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「シーラカンス展

ーブラジルの化石と大陸移動の証人たちー
ユーラシア、アフリカ、南北アメリカなどの6つの大陸はかつてパンゲアとよばれる一つの超大陸であった。この大陸に生息していた植物や動物の化石が現在世界各地の地層から発見されている。特にブラジルから産出するシーラカンスなどの化石は南アメリカとアフリカがかつて一つの大陸であったことを示す重要な証人である。

この企画展では、生きている化石として知られるシーラカンスやブラジル産の魚類化石を通して、大陸移動や大西洋ができ始めた頃の海の様子、かつて地球上にパンゲアと呼ばれる一つの超大陸があったことを



会場風景

徳島県立博物館 平成21年度第1回企画展

シーラカンス展

ブラジルの化石と大陸移動の証人たち

**世界初公開の
世界最大シーラカンスが
徳島上陸!!**

全長 3.8m

マサチューセッツ州/今までの最大記録

**2009
4/25~6/14日**

土

【開催時間】 午前9時30分～午後5時
 【休館日】 月曜日（但し5月4日は開館。5月7日(木)は休館）
 【会場】 徳島県立博物館企画展示室（1階）【文化の森総合公園内】
 【観覧料】 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生60円
 ※20名以上の団体は2割引。土・日・祝日の小・中・高校生および学校教育での利用は無料

【主催】 徳島県立博物館 【共催】 財団法人 福岡文化財団
 【協力監修】 北九州市立自然史・歴史博物館 【協力】 アクアマリンふくしま／海と船の博物館ネットワーク

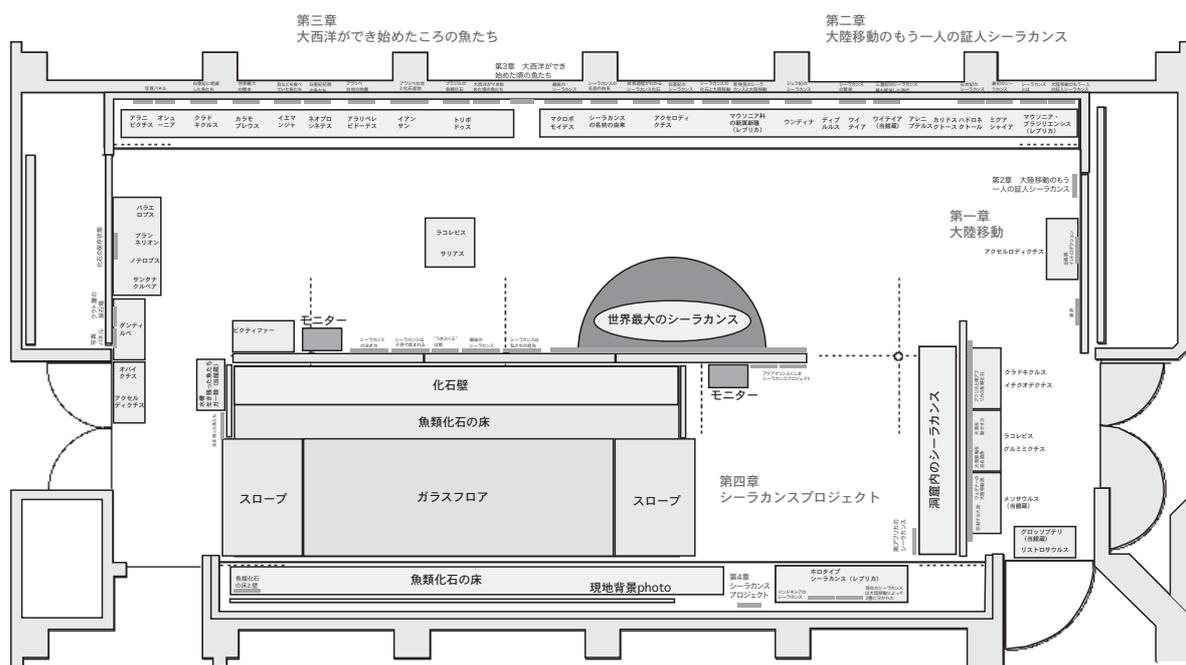
徳島県文化の森総合公園
徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向香山
 TEL: 088-668-3636 FAX: 088-668-7197
<http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/>

チラシ

紹介した。また、全長3.8mにもなる世界最大のシーラカンス化石の全身復元骨格も展示した。

- 主催 徳島県立博物館
- 共催 財団法人 福岡文化財団
- 協力監修 北九州市立自然史・歴史博物館
- 協力 アクアマリンふくしま、海と船の博物館ネットワーク



「シーラカンス」展 配置図

- 期間** 平成21年4月25日(土)～6月14日(日) (開館日数44日間)

企画展開催前の4月23日および24日に内覧会として、近隣の小中学校(八万南小学校等)および、テレビ局・新聞社を招待した。そのため実質の開催日数は、46日間となる。



会場風景

- 会場** 博物館企画展示室
- 展示構成とおもな展示資料**
 - (1)大陸移動とは
 - (2)大陸移動のもう一人の証人シーラカンス
 - (3)大西洋ができたころの魚たち
 - (4)シーラカンスプロジェクト
- 展示資料点数** 約720点
- 観覧料** 一般200円/高校・大学生100円/小・中学生50円

●**期間中の観覧者数** 15,476人

●**企画展関連行事等**

- ①シーラカンスのペーパークラフトをつくろう

日時 5月24日(日) 13:00～15:30

会場 博物館実習室

参加者 31人

- ②展示解説

第1回: 5月3日(日) 14:00～14:30

参加者72人

第2回: 5月10日(日) 14:00～14:30

参加者40人

第3回: 6月7日(日) 14:00～14:30

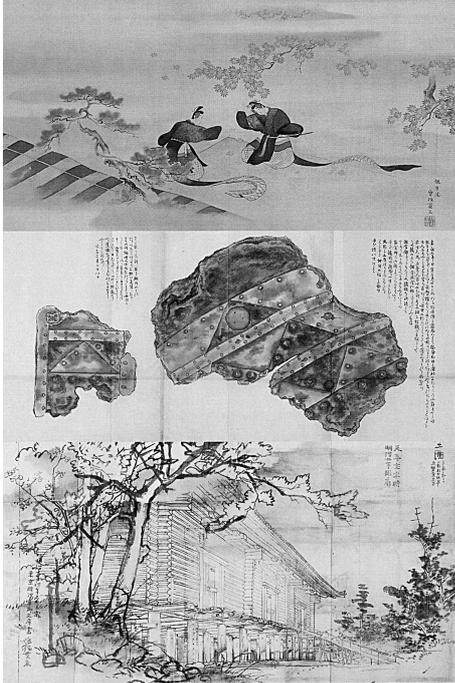
参加者45人

- (2) 第2回企画展「生誕200年 守住貫魚
—御絵師・好古家・帝室技芸員—」

守住貫魚(1809-1892)は、江戸時代の終わりから明治20年代にかけて活躍した日本画家である。彼は、徳島の城下に生まれ、絵の才能をみこまれて江戸の住吉家入門し、阿波藩に召されて絵師として仕えた。

明治維新後、70歳をこえてから大阪に移住した。そして、東京で開かれた内国絵画共進会に自作を出品し、受賞をかさねて伝統的な画派の象徴となった。そのかわら、若いころから親しんでいた「好古のわざ」を深めた。「好古」とは、江戸時代に火がついた歴史ブームのひとつであり、近代に歴史系の学問が育つ素地となった。

2009年は、貫魚が生まれて200年目にあたる。当企画展では、貫魚の生涯をふりかえり、その知られざる人物像をあらためて紹介した。



企画展

生誕
二百年

もり
ずみ
つら
な

守住貫魚

「御絵師・好古家・帝室技芸員」

2009年10月17日(土)～11月23日(月・祝)

【会 場】 徳島県立博物館 1階企画展示室 (開館時間) 9:30～17:00
 (観覧料) 一般200円(180円)、高校生・大学生100円(80円)、小・中学生50円(40円)
 (休 業 日) 10月18日(日)・11月23日(休館日) 9:30～17:00(10月23日) 9:30～16:00(11月23日)
 (展 示 期) 10月18日(日)～11月23日(日) 14:00～15:00 学芸員が会場を解説します。
 「かんざよ先生のクイズにチャレンジ！」 11月15日(日)・22日(日) 9:30～16:30 会場にて

文化の森組合会館内
徳島県立博物館
 〒770-8070 徳島県八万町向山
 TEL 088-668-3636
 FAX 088-668-7197

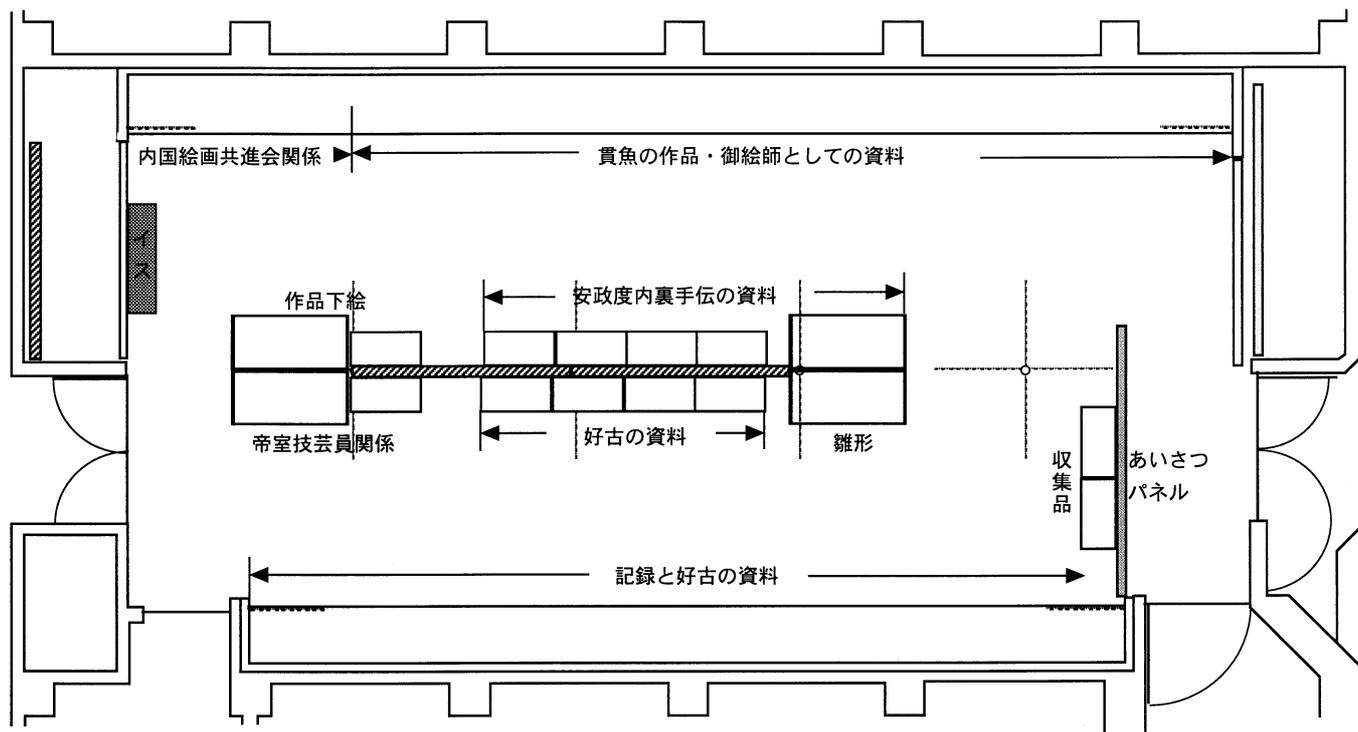
チラシ

- 期間** 平成21年10月17日(土)～11月23日(月) (開館日数33日間)

●**会場** 博物館企画展示室



会場風景



「守住貫魚」展 配置図

●展示構成

(1)守住貫魚の生涯

・生い立ち ・御絵師として ・皇室技芸員へ

(2)好古家としての素顔

●展示資料点数 190件

●観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

●期間中の観覧者数 3,681人

●企画展関連行事

①展示解説

第1回：10月18日(日) 14：00～15：00

参加者17人

第2回：11月8日(日) 14：00～15：00

参加者7人

②子ども向けスペシャルイベント「かんぎょ先生のクイズにチャレンジ！」

第1回：11月15日(日) 9：30～16：00

参加者52人

第2回：11月22日(日) 9：30～16：00

参加者60人

第3回：11月23日(月・祝) 9：30～16：00

参加者37人

3. 特別陳列

(1) 蝶に魅せられて—愛好家たちのコレクション—

蝶の仲間は、日本に230種ほど、世界に約2万種が生息しているといわれる。日本は世界的にも有名な蝶研究の進んだ国であり、生活史や行動に関する研究のほとんどをアマチュア研究家が担っていることでも有名である。近年は、海外における蝶の調査を日本人が行い、世界各地の標本が日本で多く見られるようになった。さらに東南アジアの各地の図鑑が発行されるようになった。

県立博物館では、世界各地の蝶に魅せられた四国在住のアマチュア研究家が、長い年月をかけて収集したすばらしいコレクションを順次紹介していこうと考えている。今回はその第1回目として、東南アジアに広く分布し、島ごとに少しずつ色や模様の違いが見られる大型のシロチョウの1種「ツマベニチョウ」の魅力にとりつかれ、さらに東南アジアの蝶を広く収集されている方と、東南アジアの島嶼の蝶を中心に、トリバナアゲハをはじめ大型のアゲハチョウなどを収集されている方のコレクションを紹介した。

●期間 平成21年7月18日(土)～8月30日(日)
(開館日数38日間)

●会場 博物館企画展示室

●展示の構成

- (1)「ツマベニチョウ」を中心とした世界の蝶のコレクション（三谷コレクション）
- (2)東南アジアの各地の蝶のコレクション（出嶋コレクション）
- (3)日本のアマチュア研究者による業績

●展示資料点数 16,380点

●観覧料 無料

●期間中の観覧者数 9,777人



会場風景

- ・園瀬川南エリア
- ・眉山山麓エリア
- ・八万町西エリア

(2)八万の祭り

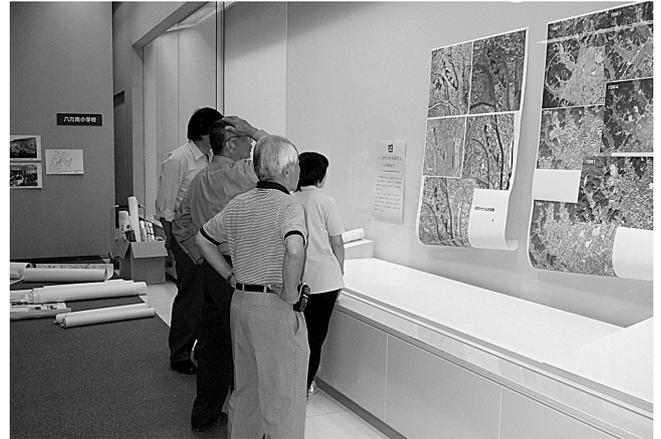
(3)写真にみるあのころの八万

(4)「八万町の昔を探ろう」の活動紹介

●展示資料点数 203点

●観覧料 無料

●期間中の観覧者数 1,886人



展示作業風景

(2) 八万町の昔を探ろう

徳島県立博物館および博物館友の会では、平成16年度より当館所在地である徳島市八万町における石造物や伝説等の調査を継続してきた。この調査にもとづき、「八万町の昔を探ろう」という歴史散歩の行事を、年1回のペースで実施してきた。また平成20年度には、文化庁芸術拠点形成事業（ミュージアムタウン構想の推進）『「八万町の昔を探ろう」から地域をプロデュースするプロジェクト』のもと、石造物や伝説、祭り等の調査結果を活用して、ガイドブック『八万町の昔を探ろう』を刊行し、小学生による調べ学習の支援、ワークショップ等を実施した。

今回の展示では、こうした成果をふまえ、徳島市八万町の石造物や祭り等を写真パネルで紹介した。また、当該地を中心とする風景の古写真を紹介した。さまざまな石造物、現在行われている祭り等の写真から、地域の歴史と今を見つめ直すことを試みた。

●主催 徳島県立博物館、徳島県立博物館友の会

●協力 徳島市八万小学校、徳島市八万南小学校

●期間 平成21年9月19日(土)～10月4日(日)

(開館日数14日間)

●会場 博物館企画展示室

●展示構成

(1)エリア別に見る八万の信仰とくらし

- ・園瀬川北エリア

(3) マンダラ —チベット・ネパールの仏たち—
文化庁「地域文化芸術振興プラン」の一環として、国立民族学博物館所蔵の多数の資料を展示する巡回展を開催した。

マンダラは、約1500年前にインドで生まれ、ネパール、チベット、中国、そして日本にも伝えられた。仏教美術としては有名だが、本来の役割などはほとんど知られていない。

この展示では、ふだん国内ではほとんど見ることができないチベット、ネパールのマンダラをはじめとして約90点の資料を展示し、「マンダラとは何か」をテーマとして展示を行った。

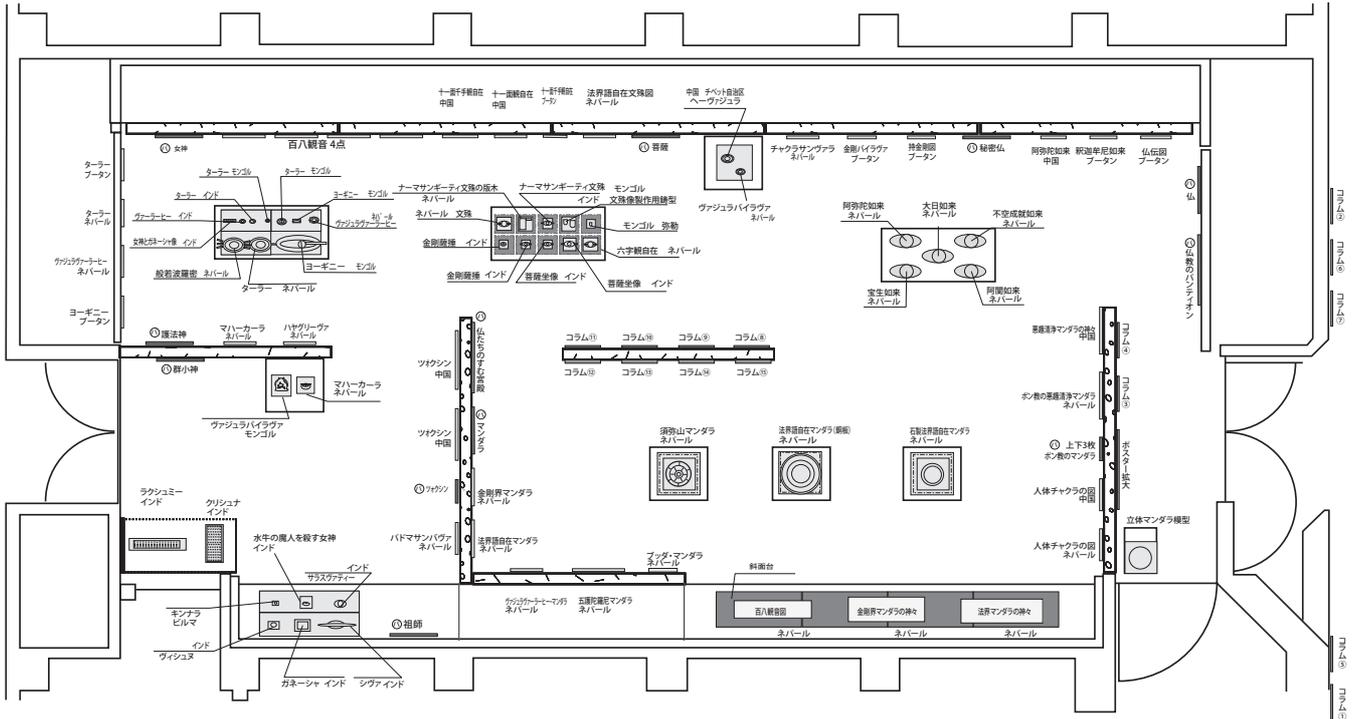
●主催 文化庁・大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館・徳島県立博物館・財団法人千里文化財団・徳島県民文化祭開催委員会

●期間 平成21年12月12日(土)から平成22年2月7日(日)（開館日数44日間）

●会場 博物館企画展示室

●おもな展示資料

- ・五護陀羅尼マンダラ（ネパール王国）
- ・法界語自在マンダラ（ネパール王国）
- ・人体チャクラの図（中華人民共和国 チベット自治区）
- ・ヘーヴァジュラ像（中華人民共和国 チベット自



「マンダラ」展 配置図

治区)

・文殊菩薩像 (ネパール王国)

- 展示資料点数 90点
- 観覧料 無料
- 期間中の観覧者数 13,118人



チラシ



会場風景

(4) 2009年度文化の森人権問題啓発展

文化の森5館と徳島県教育委員会(生涯学習政策課・人権教育課)との共催で、人権問題啓発展(識字学級生の作品展)を行った。

- 主催 文化の森5館・徳島県教育委員会
- 期間 平成21年12月1日(火)~6日(日)
- 入場者数 430人

4. 企画展示室の会場提供

(1) スタジオジブリ・レイアウト展

スタジオジブリ・レイアウト展が平成22年2月20日(土)~4月18日(日)の会期で開催され、文化の森(博物館・美術館・二十一世紀館)が会場となった。博物

館では、企画展示室を第2会場として提供した。

3月31日までの時点で、33,618人の入場者があった。

5. 館外での展示

(1) 展示パッケージの貸し出し

県内博物館の支援および収蔵資料の展示機会の増加を図るため、展示パッケージ（テーマに応じた展示資料及びパネル、ラベルのセット）の貸し出しを行っている。県内博物館施設のほか、市町村教育委員会等に貸し出しの案内チラシを配布し、活用の促進を図っている。

21年度の貸し出し実績はなかった。

(2) 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、展示パッケージの貸し出しとあわせて、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。21年度は、次のような実績があった。

■移動展「達磨絵百態 横山天然の世界」

- 主催 藍住町歴史館 藍の館・徳島県立博物館
- 会期 平成21年4月4日(土)～4月30日(木)
(開館23日)
- 会場 藍住町歴史館 藍の館
- 展示資料 横山天然絵画作品
- 入場者数 250人

■移動展「知らせる道具・広告」

- 主催 徳島県立博物館
- 共催 東かがわ市歴史民俗資料館
- 会期 平成21年7月18日(土)～8月31日(月)
(39日間)
- 会場 東かがわ市歴史民俗資料館・企画展示コーナー
- 展示資料 看板、ポスター、引札等
- 入場者数 425人

■移動展「浜辺の植物」

- 主催 海陽町立博物館・海陽町教育委員会・徳島県立博物館
- 後援 美波町教育委員会・牟岐町教育委員会
- 会期 平成21年7月25日(土)～8月30日(日)
- 会場 阿波海南文化村 海陽町立博物館
- 展示資料 海浜植物および海流散布植物種子・果実の標本、解説パネル、生態写真等
- 入場者数 401人

■移動展「国会議事堂の石 一議事堂に使われた阿南市および那賀町産大理石」

- 主催 阿南市立阿波公方・民俗資料館・徳島県立博物館
- 会期 平成21年9月25日(金)～11月5日(木)
- 会場 阿南市立阿波公方・民俗資料館
- 展示品 国会議事堂に使われているものと同じ大理石、国会議事堂での使用状況や産地の現状を示したパネルなど
- 展示解説 10月10日(土)午後1時～ 参加人数14名
- 入場者数 318人



■移動展「世界の昆虫」

- 主催 吉野川市美郷ほたる館・徳島県立博物館
- 後援 吉野川市教育委員会
- 会期 平成21年11月21日(土)～平成22年1月25日(月)
- 会場 吉野川市美郷ほたる館 多目的ルーム
- 展示資料 世界のチョウ、コウチュウ、カメムシ等の標本、解説パネル、生態写真等
- 入場者数 220人

6. 常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

(1) 常設展更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめどに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から9年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった(年報7号参照)。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアル・オープンする計画で、事業規模を縮小した基本計画案の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。

開館20年(22年度)が近づくが、厳しい財政状況のもとで、やはり常設展更新の実現可能性は乏しいもの

の、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていないなど、展示更新を行っていないことともなう不具合も生じ始めていた。そこで、19年度には、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を議論し、新たな基本計画案をまとめた（年報17号参照）。21年度当初は、この計画案に沿いながら、22年度に可能な範囲での改善を集中的に行う「リフレッシュ事業」を実施する計画を立てた。しかし22年度は、開館20周年記念事業や「鳥居龍藏記念博物館」のオープンなどで業務の多忙化が予測されることから、当初の予定を繰り上げて、平成21年度末に一部の中項目や小項目の変更を含む中規模な展示更新を行った。残る予算的措置を必要としない小規模な展示更新は、22年度末までに完了する予定である。

平成21年度末に更新した箇所は、以下のとおりである。

- 1) 「日本列島と四国のおいたち」の背景壁（恐竜関係）の一部を消し、現在の研究結果に合致した内容に改善した。
- 2) 多くの資料を展示できるよう、コダイヤモンドトリゴニアが置かれている部分に、のぞきケースを設置した。
- 3) 内容が古くなった中項目「四国島のはじまり」を「日本列島のはじまり」に置き換え、のぞきケースを新設した。また、関連項目の背景壁を現在の研究結果に合致した内容に改善した。
- 4) 「人類の登場」背景を白紙化し、かわりに足跡レプリカを設置した。
- 5) 中項目「藍と阿波商人」の一部を近世美術資料の展示コーナーに改装した。
- 6) 上記中項目のうち藍商人の帳場コーナーに照明を増設した。
- 7) 安全性を高めるため、天狗久工房の屋根瓦を撤去した。
- 8) 中項目「阿波おどり」を「部落差別とのたたかい」に改装した。
- 9) 部門展示室（人文）の壁面ケース内のクロスを張り替え、より展示替えしやすい構造に変更した。

また、最近開館した博物館や展示のリニューアルを行った館に対する調査も継続してきており、21年度には次の調査を行った。

- ・九州国立博物館・長崎歴史文化博物館：新設館の展示状況および運営状況の調査
- ・大阪市立自然史博物館：常設展リニューアルの調査



足跡レプリカ展示風景

(2) 常設展の活性化に向けての取り組み

常設展の全面更新が困難な状況にあることから、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを進めている。

しかし、購入による資料収集ができなくなっていることから、テーマ性をもったコレクションづくりが困難になっているため、展示替えを継続していくことも容易ではない。

21年度の取り組みは、次のようなものである。

①部門展示室（人文）における多様な展示の展開

多様な資料を公開していくことなどを目的として、部門展示（人文）の動線を左回り（従来は右回り）に変更した。また、20年度より始めた自然史のテーマは2回行った（「里山のケモノー狸と狐ー」および「ヘルマンヘッセ昆虫展」）。さらに、東かがわ市歴史民俗資料館との交流事業として、「東かがわ市歴史民俗資料館出前展示「阿波街道ー讃岐と阿波を結ぶ道ー」」を実施した。

②チャレンジコーナーの充実

以前から展示室における体験活動への要望が多かったことから、20年に「チャレンジコーナー」と名付けた体験コーナーを設置し、土器パズル、スタンプ、塗り絵を置いた。21年度は、これにジグソーパズルなどを加え、より充実させた。

③トピックコーナーの再設置

トピックコーナーは、部門展示（人文）の位置づけの変更のために休止していた。しかし常設展に変化をつける効果は無視できないし、スペースがそれほど必要でない展示もあるので再開した。更新は計画化せず、適した展示内容が出しだい、随時行うことにした。

④展示解説の促進

- ・部門展示における展示解説「阿波街道ー讃岐と阿波を結ぶ道ー」「佐藤忠邦氏の石器コレクション」



「阿波街道—讃岐と阿波を結ぶ道—」

「人形頭と人形芝居」「里山のケモノ—狸と狐—」
「絵に見る中世」で展示解説を実施した。

- ・「びっくり箱」を使用した展示解説を1回行った（8月30日）。
- ・20年度に引き続いて、常設展示室内数箇所、手作りのセルフガイドを設置・配布した。挽き臼の解説など、普及行事にあわせて置いたものもある。また、当館が紙面作成に協力している徳島新聞金曜夕刊の「みんなの知りたい なんでもQ&A」も、展示内容との関連が深いことからコーナーを設けて、観覧者が自由に持ち帰ることができるようにした。

7. 展示関係出版物

■企画展図録・解説書

●第1回企画展「シーラカンス展」

藪本美孝（北九州市立自然史歴史博物館）著、北九州市立自然史・歴史博物館／財団法人 福岡文化財団編、東海大学出版会2008年11月20日発行の解説書「シーラカンス—ブラジルの魚類化石と大陸移動の証人たち」（B5判92ページ、カラー印刷）160部（図録作製費は負担金の中に含まれる）を受け取り、寄贈・交換用として使用した（販売用は友の会が別途購入）。

●第2回企画展図録「生誕二百年 守住貫魚 一御絵師・好古家・帝室技芸員—」

2009年10月17日発行、A4判104ページ（カラー62ページ）

Ⅱ 普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成21年度は、年間73回（雨天中止2回）の普及行事実施となった（他にクイズラリーを24回を行った）。

普及行事は県民のあいだにかなり定着してきているが、やはり参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。そのため、歴史散歩、野外自然かんさつ、移動講座等において、郡部での開催を増やすなどに工夫する必要があると考える。

徳島市以外での行事に対しては、地元やその近隣の町からの参加者の割合が増えるが、徳島市、鳴門市、板野郡からの参加者も多い。今後、広報の仕方等、さらに工夫が必要である。

1. 普及行事

■歴史体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

4月19日(日)	トンボ玉をつくろう①	17人
7月26日(日)	勾玉をつくろう①	19人
8月23日(日)	火おこし	14人
9月27日(日)	土器づくり①(成形)	15人
10月18日(日)	勾玉をつくろう②	18人
11月8日(日)	土器づくり②(焼成)	13人
12月13日(日)	ミニ青銅鏡を铸造しよう	24人
1月24日(日)	トンボ玉をつくろう②	20人
2月7日(日)	古代の乳製品をつくろう	14人



土器づくり②(焼成)

3月21日(日) 石オノを使ってみよう 中止

■歴史散歩

県内の主な遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

5月31日(日)	古墳見学①(徳島・美馬)	45人
6月7日(日)	伊島を歩こう	20人
10月25日(日)	古墳見学②(渋野)	25人
12月6日(日)	縄文の谷ハイキング	13人
3月28日(日)	国府町歴史ウオーク	18人

■野外自然かんさつ

野外に出かけて行く、季節に応じた動植物の観察や地質の見学会。21年度は文化の森周辺のほか、四国中央市、徳島市、鳴門市、阿南市、阿波市、勝浦町、上勝町、美波町、海陽町などで実施した。

5月10日(日)	春の旭ヶ丸に咲く花を探そう	16人
5月10日(日)	磯の生きもの	60人
5月17日(日)	眉山の地質ハイキング	24人
5月31日(日)	浜辺の植物かんさつ	9人
7月5日(日)	鳴門の地層見学	27人
7月19日(日)	ざくろ石をさがそう!	57人
7月25日(土)	漂着物をさがそう!	42人
7月26日(日)	川魚かんさつ	43人
8月1日(土)	セミの羽化かんさつ	中止
8月2日(日)	水生昆虫のかんさつ	58人
8月9日(日)	夏の旭ヶ丸に咲く花を探そう	中止
9月27日(日)	秋の旭ヶ丸に咲く花を探そう	19人
10月4日(日)	河口の生きもの	25人



磯の生きもの

10月11日(日)	アサギマダラを探そう	24人
10月18日(日)	白亜紀の地層見学(勝浦町)	16人
11月1日(日)	土柱周辺の地形と地質のかんさつ	7人

11月15日(日)	どんぐりごまとウツギの笛を作ろう	19人
12月20日(日)	リースをつくろう	21人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察会、講習会。内容に応じて実体顕微鏡、電子顕微鏡等の機器も併用して観察を行っている。

「標本の名前を調べる会」は、毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか5名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけにならないで、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

4月26日(日)	春の野草かんさつ	15人
6月21日(日)	ミクロの世界—電子顕微鏡で植物を見よう!	11人
7月20日(月)	藍の葉っぱで遊んでみよう	81人
7月20日(月)	昆虫標本をつくろう①	17人
8月2日(日)	葉っぱのスタンプと押し葉カルタをつくろう	27人
8月8日(土)	貝化石標本のつくり方	10人
8月9日(日)	化石のレプリカをつくろう	33人
8月23日(日)	昆虫標本をつくろう②	17人
8月26日(水)	標本の名前を調べる会	42人
10月4日(日)	昔の道具調べ	11人
10月25日(日)	秋の野草かんさつ	8人
11月29日(日)	木の葉化石の発掘体験	22人
1月31日(日)	冬の樹木と昆虫ウオッチング	27人
2月14日(日)	ミクロの世界—電子顕微鏡で化石を見よう!	11人
2月21日(日)	アンモナイト標本をつくろう	20人
3月14日(日)	落ち葉の中の生きものたち	22人



木の葉化石の発掘体験

■みどりの工作隊

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習。

8月22日(土)	花のTシャツをつくろう	11人
----------	-------------	-----

■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。申し込み不要・定員先着50名。

9月20日(日)	塗師藤重と阿波	9人
11月15日(日)	修験道の歴史をみなおす	11人
1月17日(日)	姫島産黒曜石の移動	8人
3月7日(日)	徳島の祭りを映像で楽しもう	13人

■歴史文化講座(移動講座)

学芸員が講師をつとめ、館外の社会教育施設と共催で行う講座。21年度は5～8月に阿波海南文化村で実施し、第4回は海陽町立博物館学芸員が担当した。

5月24日(日)	徳島県の前方後円墳	22人
6月28日(日)	仏像のはなし	50人
7月26日(日)	熊野信仰と地域社会	23人
8月30日(日)	武器の歴史と海部刀	21人

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「シーラカンス展」関連行事

5月3日(日)	展示解説①	72人
5月10日(日)	展示解説②	40人
5月24日(日)	シーラカンスのペーパークラフトをつくろう	31人
6月7日(日)	展示解説③	45人

●企画展「生誕200年守住貫魚」関連行事

10月18日(日)	展示解説①	17人
11月8日(日)	展示解説②	7人
11月15日(日)	徳島の画家 かんぎょ先生のクイズ	



シーラカンスのペーパークラフトをつくろう

	にチャレンジ！（平成21年度文化庁 美術館・博物館活動基盤整備支事業）	52人
11月22日（日）	徳島の画家 かんぎょ先生のクイズ にチャレンジ！（同上）	60人
11月23日（月）	徳島の画家 かんぎょ先生のクイズ にチャレンジ！（同上）	37人
●特別陳列 「蝶に魅せられて」 関連行事		
7月19日（日）	展示解説①	15人
8月16日（日）	展示解説②	38人
●部門展示「阿波街道—阿波と讃岐を結ぶ道—」 関連 行事		
7月5日（日）	展示解説	25人
●部門展示「佐藤忠邦氏の石器コレクション」 関連行 事		
8月2日（日）	展示解説①	18人
10月12日（月）	展示解説②	4人
●部門展示「人形頭と人形芝居」 関連行事		
11月23日（月）	展示解説	31人
●部門展示「里山のけもの—タヌキとキツネ—」 関連 行事		
1月11日（月）	展示解説①	30人
2月14日（日）	展示解説②	17人
●部門展示「絵に見る中世」 展示解説		
2月28日（日）		13人
●移動展「浜辺の植物」 展示解説		
8月23日（日）		20人
●移動展「国会議事堂の石」 展示解説		
10月10日（土）		14人

■クイズラリー

毎月第2・第4土曜日に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に始めたもので、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に記念品を贈呈している。

4月12日	104人（小 104・中0・高0）
4月26日	75人（小 75・中0・高0）
5月10日	59人（小 59・中0・高0）
5月24日	112人（小 111・中0・高1）
6月14日	85人（小 84・中1・高0）
6月28日	86人（小 79・中2・高5）
7月12日	110人（小 106・中3・高1）
7月26日	119人（小 115・中2・高2）
8月9日	92人（小 87・中5・高0）
8月23日	120人（小 112・中8・高0）

9月13日	90人（小 84・中5・高1）
9月27日	104人（小 103・中0・高1）
10月11日	117人（小 115・中2・高0）
10月25日	108人（小 106・中2・高0）
11月8日	96人（小 95・中1・高0）
11月22日	88人（小 83・中1・高4）
12月13日	63人（小 61・中2・高0）
12月27日	69人（小 64・中1・高4）
1月10日	82人（小 79・中2・高1）
1月24日	94人（小 91・中3・高0）
2月14日	70人（小 69・中0・高1）
2月28日	93人（小 91・中2・高0）
3月14日	104人（小 99・中4・高1）
3月28日	80人（小 70・中7・高3）
参加者合計	2,220人（小2142・中53・高25）

■その他の普及行事

●博物館こどもの日フェスティバル 5月5日（火）
小中学生を対象にクイズラリーを実施した。また、体験コーナーとして、「動物標本にさわってみよう」「化石クリーニング実演」「ミクロの博物館？顕微鏡で虫や植物を見てみよう」「古代の服を着てみよう」「恐竜おりがみをつくろう」を行った。クイズラリーに参加した子どもたちには記念品を贈呈した。

参加者：2,503人

●夜の博物館ドキドキ体験ツアー 8月1日（土）
夜間の常設展示、特別陳列、石工室、地学収蔵庫を解説付きで見学した。常設展示室では、チラノサウルスの頭部を間近に観察できるようにしたり、夏の昆虫や植物についての解説を行ったりした。

参加者：75人

●科学体験フェスティバル in 徳島への出展

8月8日（土）、8月9日（日）

博物館ボランティアメンバーが中心となって、徳島大学で開催された科学体験フェスティバル in 徳島で「化石や考古遺物のミニチュアをつくろう」というテーマで出展し、はにわ、銅剣、銅鐸型土製品、鷲の門の瓦などのミニチュアの型どりを行ってもらった。人気アンケートで5位になり高い評価を受けた。

参加者：1,212人

●博物館文化の日フェスティバル 11月3日（火）
幼児から小中学生を対象に、クイズラリーを実施した。また、体験コーナーとして、「かんたん拓本」「折り紙をつくろう」「動物標本タッチング」「化石や考古遺物のミニチュアをつくろう」「植物で遊ぼう（押し葉はがきづくり・みどりの下敷きづくり）」を行った。クイズラリーに参加した子どもたちには記念品を贈呈

した。

参加者：1,352人

●**博物館Vキング** 2月11日(木・祝)
博物館ボランティアメンバーが中心となって、平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支事業「阿波の先人を通じたふるさと学習プログラムの開発」のワークショップを基軸として、次のような内容で実施した。

「展示室人物クイズラリー」「龍蔵先生の手づくりカメラを楽しもう!」「すごろく広場」「昆虫に変身しよう!」「オリジナルのクリアファイルをつくろう」「ティラノサウルスの大型模型づくり」

参加者：2,496人

●**わくわくスタディ 鳥居龍蔵を知ろう!**

平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支事業で作成した鳥居龍蔵学習テキストやカメラキットを活用する機会として実施した。

・第1回「鳥居龍蔵ふるさとウォーク」 2月21日(日)

参加者14人

・第2回「鳥居龍蔵の世界をたいけん! 手づくりカメラ教室」 3月7日(日) 参加者35人

2. 学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって遠足での博物館見学以外にも様々な活用ができる場であるはずである。また、教育改革に伴う学校完全週5日制や「総合的な学習の時間」とも関連し、博物館等の社会教育機関に対して積極的な学校教育への支援が要請されるようになった。

当館でも、平成12~13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携のあり方等について模索した。それを踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣(出前授業)、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ案内パンフレットなどを配布することにより博物館の学校教育支援事業が周知されつつあり、利用が増えている。

(1) 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業や「総合的な学習の時間」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えてきた。受け入れに当たっては、展示資料だけでなく、必要に応じて収蔵資料を見てもらっ

たり、学芸員が助言したりするなどの支援を行った。

- | | |
|--------------------------|-----------|
| ①沖洲小学校(徳島市) | 5月14日(木) |
| 6年生 99名 | |
| 勾玉づくり(担当:魚島) | |
| ②上八万中学校(徳島市) | 5月15日(金) |
| 2年生 88名 | |
| 魚類・植物・歴史(担当:佐藤・小川・辻野・磯本) | |
| ③新町小学校(徳島市) | 5月29日(金) |
| 4年生 29名 | |
| 昔の道具(担当:庄武) | |
| ④新町小学校(徳島市) | 5月29日(金) |
| 6年生 35名 | |
| 火おこし(担当:魚島) | |
| ⑤羽ノ浦小学校(阿南市) | 6月4日(木) |
| 3年生 89名 | |
| チョウ(担当:山田・大原) | |
| ⑥阿部小学校・由岐中学校阿部分校(美波町) | 11月5日(木) |
| 全学年 7名 | |
| 昔の道具(担当:磯本) | |
| ⑦上八万小学校(徳島市) | 11月27日(金) |
| 6年生 62名 | |
| 化石と地層(担当:中尾・辻野) | |
| ⑧生日奈小学校(勝浦町) | 12月2日(水) |
| 6年生 29名 | |
| 地層のでき方(担当:中尾) | |
| ⑨川田小学校(吉野川市) | 12月3日(木) |
| 6年生 20名 | |
| 化石と地層(担当:辻野) | |
| ⑩赤松小学校(美波町) | 12月10日(木) |
| 5~6年生 3名 | |
| 地層のでき方(担当:中尾) | |
- (2) 学校の授業への講師派遣(出前授業)
- 学校からの依頼に応じて、学校での授業に学芸員を派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。
- | | |
|--|----------|
| ①新野小学校(阿南市) | 4月28日(火) |
| 6年生 24名 | |
| 勾玉づくり・火おこし(講師:魚島) | |
| ②香川県立高松高等学校・香川県立高松工芸高等学校・香川県立高松桜井高等学校・香川県立丸亀高等学校・香川県立観音寺第一高等学校 | 4月29日(水) |
| 1~3年生 31名 | |
| 香川の地質探究(講師:中尾) | |

- | | | | |
|--|----------|--|-----------|
| ③新町小学校（徳島市）
3年生 22名
自然の観察（講師：茨木） | 5月12日（火） | ⑭椿泊小学校（阿南市）
全学年 19名
椿泊の磯の観察（講師：佐藤） | 7月10日（金） |
| ④牛島小学校（吉野川市）
6年生 17名
復元青銅器・火おこし（講師：魚島） | 5月13日（水） | ⑮横見小学校（阿南市）
4年生 17名
水の中の生き物（講師：佐藤） | 7月15日（水） |
| ⑤徳島文理小学校（徳島市）
6年生 20名
火おこし（講師：魚島） | 5月15日（金） | ⑯今津小学校（阿南市）
6年生 35名
火おこし（講師：魚島） | 7月30日（木） |
| ⑥大野小学校（阿南市）
6年生 22名
火おこし（講師：魚島） | 5月19日（火） | ⑰王地小学校（三好市）
4年生 18名
水生生物調査（講師：山田） | 8月3日（月） |
| ⑦上八万小学校（徳島市）
6年生 62名
火おこし（講師：魚島） | 5月20日（水） | ⑱香川県立高松高等学校・香川県立高松工芸高等学校・
香川県立高松桜井高等学校・香川県立丸亀高等学校・
香川県立観音寺第一高等学校 | 8月4日（火） |
| ⑧一宮小学校（徳島市）
全学年 93名
水生生物観察会（講師：山田） | 5月27日（水） | 1～3年生 34名
香川の地質探究 中間発表会（講師：中尾） | |
| ⑨芝坂小学校（美馬市）
6年生 20名
地層と化石（講師：辻野） | 5月29日（金） | ⑲鳴門高校（鳴門市）
中学校3年生対象 24名
鳴門周辺の化石（講師：辻野） | 8月20日（木） |
| ⑩佐古小学校（徳島市）
3年生 89名
チョウをそだてよう（講師：山田） | 6月8日（月） | ⑳沖洲小学校（徳島市）
4年生 93名
沖洲海岸の生き物調べ（講師：茨木） | 9月8日（火） |
| ⑪藍住東小学校（藍住町）
5年生 59名
吉野川に住む生き物（講師：佐藤） | 6月19日（金） | ㉑鴨島小学校（吉野川市）
4年生 73名
昔の暮らし～昔の道具について（講師：庄武） | 9月15日（火） |
| ⑫入田小学校（徳島市）
全学年 60名
水生生物観察会（講師：山田） | 7月3日（金） | ㉒山瀬小学校（吉野川市）
3年生 52名
昆虫の体のつくりと育ち（講師：山田） | 9月16日（水） |
| ⑬川上小学校（海陽町）
全学年 19名
海部川の生き物（講師：佐藤） | 7月7日（火） | ㉓津田小学校（徳島市）
3年生 136名
昆虫の体のつくりと育ち（講師：山田） | 9月17日（木） |
| | | ㉔沖洲小学校（徳島市）
4年生 93名
沖洲海岸の生き物調べ（講師：茨木） | 10月19日（月） |
| | | ㉕国府小学校（徳島市）
4年生 124名
昔の暮らしについて（講師：磯本） | 10月20日（火） |
| | | ㉖津田小学校（徳島市）
4年生 124名
昔の暮らしとまちづくり（講師：庄武） | 10月27日（火） |
| | | ㉗論田小学校（徳島市）
4年生 73名
昔の暮らしとまちづくり（講師：磯本） | 10月28日（水） |
| | | ㉘新町小学校（徳島市）
3年生 22名
新町川探検（講師：佐藤） | 10月28日（水） |



火おこし（新野小学校）

- ⑳宮井小学校（徳島市） 10月30日（金）
4年生 23名
昔のくらしとまちづくり（講師：庄武）
- ㉑学島小学校（吉野川市） 11月13日（金）
6年生 24名
大地をさぐる（講師：辻野）
- ㉒城ノ内中学校（徳島市） 11月18日（水）
2年生 119名
日本の人権獲得の歴史（講師：長谷川）
- ㉓羽ノ浦小学校（阿南市） 11月24日（火）
6年生 93名
大地をさぐる（講師：中尾・辻野）
- ㉔加茂名小学校（徳島市） 11月27日（金）
4年生 68名
昔のくらしとまちづくり（講師：庄武）
- ㉕昼間小学校（東みよし町） 12月8日（火）
6年生 31名
大地をさぐる（講師：辻野）
- ㉖徳島県立聾学校 12月11日（金）
4年生 5名
昔のくらし（昔の道具）（講師：磯本）
- ㉗新野東小学校（阿南市） 12月16日（水）
4年生 10名
昔のくらし（講師：庄武）
- ㉘川田中小学校（吉野川市） 1月19日（火）
4年生 18名
昔の道具調べ（講師：庄武）
- ㉙桜谷小学校（那賀町） 1月21日（木）
全学年 64名
化石（講師：辻野）
- ㉚林小学校（阿波市） 1月22日（金）
3年生 44名
昔のくらし みつけた（講師：庄武）
- ㉛鳴門第一中学校（鳴門市） 5月16日～5月20日
貸出資料：復元青銅器
利用目的：社会科（歴史）
- ㉜浦庄小学校（石井町） 5月30日～6月13日
貸出資料：メダカ・カダヤシ拡大模型および解説パネル 4点
利用目的：理科
- ㉝論田小学校（徳島市） 5月25日～5月29日
貸出資料：復元青銅器
利用目的：社会科
- ㉞山瀬小学校（吉野川市） 6月16日～7月5日
貸出資料：トビほか鳥類剥製 6点
利用目的：国語
- ㉟横見小学校（阿南市） 7月1日～15日
貸出資料：メダカ・カダヤシ拡大模型および解説パネル 3点
利用目的：総合的学習
- ㊱中野島小学校（阿南市） 7月11日～7月19日
貸出資料：火おこし道具10組
利用目的：社会科
- ㊲鳴門教育大学附属中学校（徳島市）
10月31日～11月2日
貸出資料：動物頭骨標本イエネコ、キツネ
利用目的：理科
- ㊳加茂名小学校（徳島市） 11月11日～11月19日
貸出資料：三葉虫ほか化石7点
利用目的：理科（「大地をさぐる」）
- ㊴論田小学校（徳島市） 12月1日～12月9日
貸出資料：ナウマンゾウ臼歯（レプリカ）ほか化石34点
利用目的：理科（「大地のつくり」）
- ㊵国府小学校（徳島市） 1月16日～2月7日
貸出資料：徳島空襲被災遺物、防空看板、防空頭巾、パネル
利用目的：社会科
- ㊶海部高校（海陽町） 1月17日～1月23日
貸出資料：火おこし道具（マイキリ）
利用目的：社会科（歴史）

(3) 博物館資料の学校への貸し出し

小・中・高校の授業等で活用してもらうため、平成10年度から博物館資料の学校への貸し出しを行っている。学校貸出用資料リストを学校に配布して利用を呼びかけているが、まだ利用は少ない。

貸出用資料の一層の利用促進を図るため、平成15年度末に学校貸出用資料解説シートを印刷し、小中学校および高校に配布した。また、来館した教職員には、必要に応じて解説シートを配布し利用を勧めた。

- ①鳴門市第一中学校（鳴門市） 4月21日～4月25日
貸出資料：石鏃／トロトロ石器 28点
利用目的：社会科（歴史）

(4) 職場体験の受け入れ

中学校・高校での職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

- ①脇町高等学校 7月29日 1名
②鳴門工業高校・新野高校 11月10日～11日 7名
昆虫・植物標本や貝化石の整理

(5) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、教員対象の研修会を実施し、当館職員が指導に当たった。

①平成21年度教職10年経験者研修

7月24日(金) 参加者 24名
食文化体験(講師:庄武・長谷川)

②平成21年度初任者研修

8月19日(水) 参加者 21名
社会・自然体験(郷土を知る)(講師:小川・中尾)
・押し葉カルタをつくろう(講師:小川)
・徳島市の中心部で地質を見よう(講師:中尾)

③徳島県高等学校教育研究会理科学会地学部会研修会

11月20日(金)
・アンモナイトについて(講師:辻野)
・徳島市中心部の地質見学(講師:中尾)

(6) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等で自然観察、生活体験、歴史学習等をしようとする場合、どんなことをしたらおもしろいか、どんな資料が活用できるかなどについて、学芸員が博物館での普及行事等の経験を踏まえて教員の相談に応じることにしている。

3. 博物館友の会

●会員(平成21年度末)

個人会員(年会費2,000円)	89人
(半年会費1,000円)	4人
家族会員(年会費3,000円)	56組 198人
(半年会費1,500円)	1組 2人
賛助会員(年会費10,000円)	1人

●役員(平成21年度)

会長:大杉洋子
副会長:行成正昭・川下浩子・大原賢二(博物館長)
幹事:和田賢次・多田精介・澤祥二郎・鳥居 喬
 松家京子・伊勢ひとみ
監査:石尾和仁・南部洋子

●事業

①博物館出版物の増刷・頒布

21年度博物館企画展の図録の印刷・頒布を行った。

②広報活動

○21年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月間行事案内、年間催し物案内などを送付した。

○友の会会報「アワーミュージアム」No.40~42を発行し、会員に送付した。

○「八万の昔を探ろう」写真展を開催し、活動を紹介した。

③野外活動等

会員を対象とした行事を8行事実施した。

○企画展「シーラカンス展」展示解説

日時:4月26日(日)

場所:博物館企画展示室

参加者:16名

○こどもの日フェスティバル「折り紙をつくろう」

日時:5月5日(火)

場所:博物館常設展示室

参加者:2,503名

○夜の昆虫観察会

日時:7月4日(土)

場所:佐那河内村

参加者:21名

○日帰り研修 兵庫県立考古博物館他

日時:9月6日(日)

場所:兵庫県

参加者:41名

○草と虫の観察会

日時:9月13日(日)

場所:園瀬川河川敷

参加者:17名

○化石をさがそう

日時:10月25日(日)

場所:勝浦町

参加者:17名

○阿波忌部ツアー

・事前研修

日時:11月1日(日)

場所:博物館講座室

参加者:19名

・バス見学



草と虫の観察会

日 時：11月29日(日)

場 所：つるぎ町他

参加者：22名

○いも餅ときな粉をつくろう

日 時：2月28日(日)

場 所：博物館実習室他

参加者：32名



阿波忌部ツアー バス見学

②博物館 V キングの開催 2月11日(木・祝)

平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業「阿波の先人を通じたふるさと学習プログラムの開発」で作成した体験キットのワークショップを基軸とし下記の内容のイベントを開催した。「展示室人物クイズラリー」「龍蔵先生の手づくりカメラを楽しもう!」「すごろく広場」「昆虫に変身しよう!」「オリジナルのクリアファイルをつくろう」「ティラノサウルスの大型模型づくり」

参加者合計：2,496人

③普及行事への協力

下記9種の普及行事について、学芸員の補助として、のべ18名のボランティアの協力を得た。

川魚かんさつ	(7月26日)	1名
夜の博物館どきどき体験ツアー	(8月1日)	3名
葉っぱのスタンプと押し葉カルタをつくろう	(8月2日)	1名
花のTシャツをつくろう	(8月22日)	1名
土器づくり(①成形)	(9月27日)	1名
文化の日フェスティバル	(11月3日)	5名
土器づくり(②焼成)	(11月8日)	1名

4. 県民参画活動の推進

(1) ボランティア企画型行事の実施

平成17年度から行っている公募ボランティアと職員との共同でのイベント企画・実施を継続した。この活動が5年目となる21年度は、イベントの企画運営のほかに、平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業「阿波の先人を通じたふるさと学習プログラムの開発」への協力と博物館普及行事への協力にも取り組んで貰った。継続ボランティア10名に新規ボランティア6名が加わり、16名のメンバーが中心となって1年間の活動を行った。またイベント当日のボランティアとして、鳴門教育大学から5名、徳島文理大学から11名、阿南工業高等専門学校から4名の学生の協力を得た。

活動の結果は次のとおりである。

①第13回科学体験フェスティバル in 徳島への出展

8月8日(土)・9日(日)

「化石や考古遺物のミニチュアをつくろう」と題して、アンモナイトの化石のレプリカづくりのほか、平成19年度の活動「かたどって似たものさがし」の成果を活かし、はにわ、銅剣、銅剣型土製品、鷲の門の瓦のミニチュア模型の型どりを参加者に行って貰った。人気アンケート5位を獲得し、高い評価を得た。

参加者合計：1,212人



「科学体験フェスティバル in 徳島」出展の様子



博物館 V キング「ティラノサウルスの大型模型づくり」の様子

どんぐりごまとウツギの笛を作ろう

(11月15日) 2名

リースをつくろう

(12月20日) 3名

④かんぎょ先生のクイズにチャレンジ!への協力

11月22日(日)

ボランティアメンバーのうち4名に「阿波の先人を通じたふるさと学習プログラムの開発」の行事に協力してもらった。

(2) 平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業「阿波の先人を通じたふるさと学習プログラムの開発」の実施

この事業は、関係機関・団体やボランティア等と連携して地域に根差した活動を推進し、郷土の先人をテーマとした学習プログラムを開発することで、次世代育成に貢献することを目的として実施した(事業期間:平成21年6月20日~平成22年3月15日)。具体的には、以下のような事業を実施した。

① 守住貫魚を学ぶプログラムの開発

●ワークシートの作成

企画展「生誕200年 守住貫魚」にあわせて活用するためのワークシートを作成した(A4判三つ折り、1,500部)。展示資料に関するクイズを主としたが、塗り絵や工作といった体験型の要素も盛り込んだ。想定した対象は小学6年生であったが、保護者等の支援があれば低学年の児童でも活用できるよう配慮した。

●ワークショップ「徳島の画家 かんぎょ先生のクイズにチャレンジ!」

当初、11月15日・22日(日)に実施予定だったが、11月17日(火)に遠足来館団体を対象に実施し、さらに11月23日(月・祝)にも追加開催し、計4回実施した。参加者総計176人。

② 鳥居龍蔵を学ぶプログラムの開発

●学習テキストと体験キットの作成

おもに小学6年生を対象として次のような学習テキストや体験キットを作成した。下記のキットはこのテキストと併用するものと位置づけた。

- ・テキスト「みんなで学ぼう! 鳥居龍蔵」…鳥居龍蔵の生涯をコンパクトにまとめたもの。A5判、28ページ、2,500部。
- ・体験キット「りゅうぞう君のアジア大旅行すごろく」…鳥居龍蔵の調査の軌跡をイメージしたもの。異文化理解にもつながるよう言語や民族衣装のカードも用いる。2枚組(A3判1枚、A4判1枚)、2,500部。
- ・体験キット「龍蔵先生の手づくりカメラ」…鳥居龍蔵が、日本人の野外調査では初めてカメラを導入したことにちなみ、単レンズ箱型カメラを自作するもの。2枚組(A3判1枚、A4判1枚)、2,500部。

●ワークショップ「博物館Vキング」(2月11日)

ボランティアと職員による大型協働イベント「博物館Vキング」を本事業に位置づけ、上記のすごろくやカメラの体験コーナーとして「すごろく広場」「龍蔵先生の手づくりカメラを楽しもう!」を開設した。参加者総計2,946人。

●ワークショップ「わくわくスタディ 鳥居龍蔵を知ろう!」

- ・第1回「鳥居龍蔵ふるさとウォーク」(2月21日)…徳島市街地の鳥居龍蔵ゆかりの地を見学した。参加者14人。
- ・第2回「鳥居龍蔵の世界をたいけん! 手づくりカメラ教室」(3月7日)…鳥居龍蔵が使用したものと同形式のカメラを見たり、カメラの原理を学んだりした上で、カメラキットを組み立てた。参加者35人。

③ 常設展を活用した人物学習プログラムの開発

●ワークシートの作成

従来にない視点からの常設展の活用を意図し、人



すごろく広場



鳥居龍蔵ふるさとウォーク

物を主題としたクイズ形式のワークシートを作成した。出題範囲は原始・古代から近世までで、設問には塗り絵のような体験的要素を盛り込んだ。想定した対象は小学6年生であったが、保護者等の支援があれば低学年の児童や幼児でも活用できるよう配慮した。

●ワークショップ「博物館Vキング」(2月11日)
 先述の「博物館Vキング」において、ワークシートの活用による「展示室人物クイズラリー」を行った。

④情報発信

当館WEBサイト内に、事業の様子を紹介するホームページを開設し、随時更新した。

5. 普及教育関係出版物

■博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ(全ページカラー)で10,000部を印刷している。

平成21年度には次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

●No. 75 (2009年6月25日発行)

Culture Club「二枚貝アワジチヒロとその化石」
 情報ボックス 祀られる武将の伝説からーガイドブック『八万町の昔を探ろう』の活用法ー
 特別陳列「蝶に魅せられて」ー愛好家たちのコレクションー

速報「文化の森でメリケントコキンソウを発見」
 レファレンスQ&A「ガー」とはどんな魚ですか？

●No. 76 (2009年9月15日発行)

Culture Club「四国遍路の成り立ちと弘法大師」
 情報ボックス 徳島県の迷蝶
 企画展「守住貫魚ー御絵師・好古家・帝室技芸員ー」
 野外博物館 秋だ！ひつつき虫を探せ！
 レファレンスQ&A 古代の阿波や讃岐にいた佐伯氏の役割や相互関係について教えてください。

●No. 77 (2009年12月1日発行)

Culture Club「さがしてみよう！藍商人活躍の足跡」
 情報ボックス 狸顔のケモノたち
 特別陳列「マンダラ」
 野外博物館 冬越しする昆虫をさがそう！
 レファレンスQ&A 動物の化石のオス・メスを見分けることはできますか？

●No. 78 (2010年3月25日発行)

Culture Club「中世の大量出土銭の謎ーかくし銭？まじないの道具？ー」
 速報 タンポポ調査・西日本2010の予備調査結果がまとまりました
 企画展「ヒマラヤー自然と人びとのくらしー」
 館蔵品紹介 双六盤
 レファレンスQ&A コダイアマモは、海草の化石なのですか？

■その他

●年間催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したB4判4つ折のリーフレット。12万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。また、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したA3判またはB4判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した印刷物。H21年度は年度当初にパンフレットとともに各校に送付した。

●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレットを改訂し、各学校の全教員へ送付した。

6. 徳島新聞「こども新聞」への協力

徳島新聞社では平成20年4月から毎週金曜日の夕刊に「こども新聞」の掲載を開始し、21年度も継続した。博物館ではこのコーナーの執筆協力や編集協力(話題提供、校閲)を行っている。今年度、博物館の協力により掲載された記事は38本である。(P.36~39を参照)

Ⅲ シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会等に貢献する活動を行うことは、博物館の重要な役割であると考え、博物館の他の事業に差し支えない範囲で積極的に取り組んでいくことにしている。

1. レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Eメール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的でデータベース化している。

平成21年度に行ったレファレンス件数は384件で、分野別内訳は下表のとおり。この記録は博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないので、実際の件数はこれより2～3割程度多いと考えられる。

職業別の割合を見ると、一般からの問い合わせが43%でもっとも多く、次いでマスコミ・出版関係が21%、博物館・図書館・官公庁が13%、高校生以下の生徒・教員・教育委員会関係が8%、大学（院）生・研究者が8%、その他が6%であった。

●分野別レファレンス件数(平成22年3月31日現在)

分 野	件 数
動物（脊椎）	78
（無脊椎）	24
（昆虫）	62
植 物	45
地 学	84
考 古	10
歴 史	50
民 俗	22
美術工芸	1
保存科学	0
そ の 他	8
合 計	384

2. 各種委員会委員等の受諾

平成21年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次のとおり。

大原賢二

日本博物館協会評議員

（平成21.4.1～1年間）

徳島県博物館協議会会長

（平成21.4.1～1年間）

東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー

（平成16.8.16～ ）

徳島県田園環境検討委員会委員

（平成20.1.17～2年間）

マリニピア沖洲環境調査検討委員会委員

（平成20.2.1～22.1.31）

環境省希少野生動植物種保存推進員

（平成21.7.1～24.6.30）

環境省「第3次絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会」昆虫類分科会委員

（平成21.9.15～22.3.31）

佐藤陽一

とくしま川づくり委員会委員

（平成12.12.15～22.6.30）

徳島県ビオトープアドバイザー

（平成14.4.11～22.3.31）

東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー

（平成16.8.16～）

徳島県土木工事環境配慮アドバイザー

（平成19.4.1～23.3.31）

徳島県希少野生生物保護検討委員会委員

（平成21.12.1～22.3.31）

徳島県版レッドリスト改訂のための汽水・淡水魚類作業部会長

（平成21.12.1～22.3.31）

環境省希少野生動植物種保存推進員

（平成9.7.1～24.6.30）

環境省中国四国環境事務所「中国四国地方里地里山
における淡水魚類保全検討会」検討委員
(平成20.9.4～22.3.31)

国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー」
(平成19.4.26～22.3.31)

国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安
口ダム環境検討委員会」委員
(平成20.12.4～22.3.31)

中国四国農政局那賀川農地防災事業所「那賀川地区
環境検討委員会」委員
(平成19.12.6～22.3.31)

中国四国農政局四国東部農地防災事業所「吉野川下
流域農地防災事業に係る環境検討委員会」委員
(平成19.12.20～22.3.31)

日本魚類学会標準和名検討委員会副委員長
(平成15.4.1～)

小川 誠

環境省希少野生動植物種保存推進員
(平成15.7.1～21.6.30)

徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
(平成19.4.1～23.3.31)

NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事
(平成21.4.1～22.3.31)

茨木 靖

東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アド
バイザー
(平成16.8.16～)

徳島県田園環境検討委員会委員
(平成20.1.17～2年間)

山田量崇

国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安
口ダム環境検討委員会」委員
(平成20.12.4～22.3.31)

徳島県田園環境検討委員会委員
(平成22.1.15～24.1.14)

高島芳弘

徳島市立考古資料館協議会委員
(平成21.7.1～23.6.30)

徳島県中世城館跡総合調査調査員
(平成21.7.1～23.3.31)

長谷川賢二

日本博物館協会常務委員
(平成21.4.1～22.6.10)

徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員
(平成19.5.1～)

徳島県中世城館跡総合調査調査員
(平成21.7.1～23.3.31)

日本山岳修験学会理事
(平成21.11月～23.11月)

庄武憲子

松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館資料
館協議会委員
(平成21.4.1～23.3.31)

阿南市史民俗編執筆委員
(平成20.10.17～22.5.31)

磯本宏紀

阿南市史民俗編執筆委員
(平成20.10.17～22.5.31)

新鳥取県史編さん調査委員
(平成21.4.1～22.3.31)

3. 講師の派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣等を、月
日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す(内容に
依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を
省略)。なお、小・中・高校からの依頼による出前授
業については、「Ⅱ普及教育」の「2学校教育支援事
業」に記載している(p.16～18)。

5月21日 長谷川賢二

徳島県自治研修センター「平成21年度新規採用職員
研修 人権問題Ⅱ・Ⅲ(歴史/行政)」で講演「部
落史から考える私たちの課題」

5月30日 長谷川賢二

石川県立歴史博物館「第6回石川の歴史遺産セミ
ナー」で講演「参詣・巡礼の歴史的展開」

6月15日 佐藤陽一

正法寺川を考える会「魚類調査(藍住北小学校4年
生)」(藍住町、正法寺川)

6月26日 豊崎勲・長谷川賢二

徳島県立総合教育センター「平成21年度第1回我が
国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事
業連絡協議会」で講演「博物館と学校の連携につ
いて」「郷土・伝統を学ぶ意義と方法をめぐって」

7月11日 磯本宏紀

徳島県教育委員会文化財課「発見!ふるさとの伝
統文化」民俗文化財周知活用事業のうち「発見!山
里の伝統文化」において講演「山間地で使われるから
さお」

7月12日 長谷川賢二

徳島県教育委員会文化財課「埋蔵文化財速報展『2009

- 発掘とくしま』講演会」で講演「中世の社会と信仰」
(徳島県立埋蔵文化財総合センター)
- 7月18日 中尾賢一
徳島大学大学開放実践センター「徳島再発見講座」
で講演「鳴門海峡海底の化石」
- 7月22日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演
「参詣・巡礼の歴史的展開」(熊野参詣の広がり)(徳
島県立総合福祉センター)
- 7月29日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演
「寺社縁起の世界」「戦国軍記の歴史意識」(徳島県
立総合福祉センター)
- 7月29日 魚島純一
徳島県立文書館「古文書保存講座」で講演「文書資
料の保存科学」(徳島県立文書館)
- 8月19日 佐藤陽一
阿南市立中野島公民館野外観察会講師「岡川の生き
もの調査」(岡川)
- 8月25日 長谷川賢二
軍記・語り物研究会2009年度大会講演会で講演「平
家と阿波」(四国大学交流プラザ)
- 9月8日 佐藤陽一
正法寺川を考える会「魚類調査(藍住北小学校4年
生)」(藍住町、正法寺川)
- 9月11日 長谷川賢二
歴史クラブ例会で講演「阿波公方の守札」(徳島県
郷土文化会館)
- 10月16日 長谷川賢二
第60回日本森林学会関西支部/日本森林技術協会関
西・四国支部連合会合同大会で講演「四国遍路の歴
史」(ホテルクレメント徳島)
- 10月17日 長谷川賢二
NHK 徳島放送局「平成21年度 NHK とくしま文化
講座『天地人』テレビセミナー」で講演「戦国武将
の信仰」
- 10月27日 長谷川賢二
松茂町企業・職域人権啓発推進協議会/松茂町人権
教育推進協議会「企業職域合同人権啓発研修会」で
講演「部落史と現代の課題」(松茂町総合会館)
- 10月31日 長谷川賢二
財団法人徳島県文化振興財団徳島県郷土文化会館
「郷土文化講座『四国の遍路文化』」で講演「四国
遍路と修験道」
- 11月12日 長谷川賢二
藍住町人権教育推進協議会/藍住町教育委員会「人
権講座」で講演「部落史から考える現代の課題」(藍

- 住町民シアター)
- 12月7日 磯本宏紀
四国大学付属言語文化研究所主催シンポジウム「徳
島の昔」でパネル報告「描かれた海女」
- 12月18日 長谷川賢二
徳島市立徳島城博物館「阿波の文学と歴史セミナー」
で講演「最後の国学者 小杉楡邨」
- 1月14日 佐藤陽一
正法寺川を考える会「正法寺川環境学習会(藍住北
小学校4年生)」(藍住北小学校)

4. 大学教育への寄与

(1) 大学非常勤講師の受諾

平成21年度に博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤
講師は次のとおり。

- 長谷川賢二
鳴門教育大学嘱託講師(博物館特論)
(平成21.4.13~22.3.31)
- 魚島純一
四国大学非常勤講師(博物館実習Ⅰ)
(平成21.4.3~21.9.30)
- 中尾賢一
徳島大学非常勤講師(徳島再発見講座)
(平成21.7.18)

(2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において学
芸員となる資格を取得するために「大学において修得
すべき博物館に関する科目」と規定されているものの
ひとつで、登録博物館または博物館相当施設における
実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出
身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習
を行っている。4月1日~5月15日が受付期間で、希
望者が多い場合は調整を行い、20数名をめぐりに受け入
れることにしている。

平成21年度は、8月25日(火)~29日(土)に実習生の
受け入れを行った。実習生は14人で、大学別の内訳は
次のとおりである。

愛媛大学	1人	近畿大学	2人
高知大学	2人	神戸学院大学	1人
四国大学	3人	帝京大学	1人
東京学芸大学	1人	東京農業大学	1人
徳島大学	1人	北海道大学	1人

カリキュラムは別表(p.26)のとおりである。学

2009年度 博物館実習カリキュラム

		8月25日(火)	26日(水)	27日(木)	28日(金)	29日(土)
午前9:30~12:00	A班	あいさつ(館長) ガイダンス(大橋)	標本の名前を調べる会(山田)	簡単な地図作成法(辻野)	魚類調査(佐藤)	植物標本の整理(茨木)
	B班		歴史資料の整理(長谷川)		地学資料の整理(中尾)	図書の整理(庄武)
午後13:00~16:00	A班	博物館の資料保存とIPM(魚島)	標本の名前を調べる会(山田)	博物館の情報戦略(小川)	展示解説・普及業務の講話・発送作業(豊崎・向原)	考古資料の整理(高島)
	B班		民俗資料の整理(磯本)			

A班7人、B班7人。()内は担当学芸員。

芸員と普及課職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

5. 学会・研究会等の運営への寄与

(1) 学会・研究会等の開催

21年度に当館学芸員が担当し、当館および文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次のとおり。

●みどりクラブ例会

開催日：毎月土曜日(不定)
会場：博物館講座室
参加者：15名程度

●四国貝類談話会

開催日：5月23日(土)~24日(日)
会場：博物館講座室ほか
参加者：31名

●徳島地域文化研究会第7回総会および第12回例会

開催日：5月17日(日)
会場：博物館講座室
参加者：15名

●日本昆虫学会四国支部第48回大会

開催日：7月25日(土)
会場：博物館講座室
参加者：47名

●徳島地域文化研究会第13回例会

開催日：9月6日(日)
会場：博物館講座室
参加者：10名

(2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

●みどりクラブ

植物に関心のある県内同好者が、毎月1回(土曜日の18:30から)、博物館実習室で植物分類の勉強会や採集情報等に関する意見交換を行っている。

会員は約25名で、毎回10~15名の参加者がある。

●四国中世史研究会

四国地域をフィールドとしている中世史研究者によって構成されており、研究会・史料見学(年2回)、機関誌『四国中世史研究』の刊行(隔年1冊)を行っている。

●徳島地域文化研究会

主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム(年3回程度)、会誌『徳島地域文化研究』の刊行(年刊)等を行っている。

6. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会および日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在86館(園)が加盟している。4県が持ち回りで2年ずつ事務局をつとめることになっており、20・21年度は徳島県立近代美術館が事務局館をつとめている。当館は監事館になっている。

21年度の役員会及び総会は次のとおり徳島県文化の森総合公園で開催された。

●21年度役員会・総会

日時：6月11日(木) 13:30~
会場：徳島県立近代美術館 講座室
議事：平成20年度事業報告及び決算報告について
役員改選について
平成21年度事業計画及び予算について
その他

講演：河内順子氏(大塚国際美術館理事)
喜井智子氏(大塚国際美術館教育普及担当)

演題：「大塚国際美術館における教育普及」
一市・大学・美術館の三者連携による取り組み

●研修・視察

日時：6月12日(金) 10:00~12:00

場所：徳島県立近代美術館 講座室

内容：日本博物館協会からの本部報告

視察：①徳島県立近代美術館

特別展「宮城県美術館・三浦コレクション
によるヨーロッパポスター芸術の開花
アール・ヌーヴォーから20世紀初頭まで」

②徳島県立博物館

企画展「シーラカンス展」

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。加盟館は、設立時は31館であったが、その後、年々増え、平成21年3月末現在では51館になっている。当館が事務局をつとめている。

21年度事業

①役員会の開催

6月3日(水)、徳島県立博物館応接室にて開催した。

②総会の開催

日時：6月3日(水) 14:30~16:30

場所：徳島県立博物館講座室

議事：20年度事業報告及び決算報告

20年度監査報告

21年度役員選出

21年度事業計画及び会計予算

その他

講演：渋川香澄氏

(ハンズ・オン プランニング代表)

「これからの博物館の在り方について」

③加盟館園の職員状況と入館者数一覧を作成して配布した。

④徳島県博物館協議会ニュースの発行

No. 31、32、33、34を発行・配布した。

⑤研修会の開催 参加者26名

日時：22年2月5日(金) 13:30~16:30

場所：徳島県立文書館

内容：講演会と徳島県立文書館見学及び博物館特別

陳列「マンダラ」展示見学

講演：金原祐樹氏(徳島県立文書館係長)

「徳島の古文書あれこれ」

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク(略称「人権ネット」)は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調

査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、31機関・団体が加入している。21年度は、第14回総会を兼ねて韓国への研修旅行が行われた(9月28~30日)。

当館は発足時から加入しており、総会に職員を派遣してきたほか、加入機関・団体との個別的な協力を行っている。

(4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

12・13年度に文部科学省の委嘱を受けて行われた瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館および兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織としてNPO法人西日本自然史系博物館ネットワークが平成16年4月27日付けで設立され、110名の学芸員や博物館関係者が参加している。

21年度(事業年度は1月~12月)は、地域自然環境情報提供事業として収蔵品データベース整備事業と自然史系博物館における標本情報の発信に関する研究会(2回)、博物館連携推進事業として標本救済ネットワークショップとフォーラム「市民調査と博物館」を開催した。また、調査研究推進事業として博物館スタッフのための技術講座を開催し、展示照明の技術開発に関する実践検討講座や博物館展示リニューアルに関するワークショップなどを行った。展示企画事業として鳴く虫巡回展を開催した。

Ⅳ 情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、博物館活動に関する様々な情報を発信していくことは博物館にとって非常に重要な活動である。最近ではインターネットによる情報発信も重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

1. 博物館の広報活動

博物館ニュース・企画展ポスター・年間催し物案内リーフレット・月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館の事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先	
小学校	220ヶ所
中学校	93
高等学校・その他学校	53
学会・研究所・同好会等	100
県および県教育委員会各課・機関	58
市町村教育委員会	24
公民館・隣保館	226
市町村および大学図書館	34
博物館施設	50
宿泊施設	34
報道関係機関等	77

●催し物案内の電子メールサービス
登録者 (21年3月末現在の登録者293名)

●報道機関への資料提供

平成21年度は次のような資料提供を行った(各月の催し物あない以外)。

- 4月3日(金) 歴史散歩ガイドブック「八万町の昔を探ろう」について
- 4月16日(木)「博物館こどもの日フェスティバル」の開催について
- 5月13日(水) 部門展示「阿波街道～讃岐と阿波を結ぶ道～」の開催について
- 6月5日(金) 特別陳列「蝶に魅せられて～愛好家たちのコレクション～」の開催について
- 7月16日(木) 部門展示「佐藤忠邦氏の石器コレクション」の開催について

8月28日(金) 特別陳列「八万町の昔を探ろう」の開催について

9月15日(火) 特別展「国会議事堂の石―議事堂に使われた阿南市および那賀町産大理石―」の開催について

9月16日(水) 企画展「生誕200年 守住貫魚―御絵師・好古家・帝室技芸員―」の開催について

10月20日(火)「博物館文化の日フェスティバル」の開催について

10月30日(金) イベント「徳島の画家 かんぎょ先生のクイズにチャレンジ!」の開催について

11月18日(水) 移動展「世界の昆虫」の開催について

11月18日(水) 特別陳列「マンダラーチベット・ネパールの仏たち―」の開催について

11月30日(月) 部門展示「里山のケモノ―狸と狐―」開催について

1月19日(火) 「博物館Vキング」の開催について

1月20日(水) ワークショップ「わくわくスタディ 鳥居龍蔵を知ろう!」の開催に係る資料提供について

2月1日(月) 部門展示「ヘルマン・ヘッセ昆虫展―少年の日の思い出―」の開催について

2月4日(木) 部門展示「絵に見る中世」の開催に係る資料提供について

3月16日(火) 部門展示(人文)「絵はがきと景観」への展示替えについて

3月16日(火) 企画展「ヒマラヤ―自然と人びとのくらし―」の開催について

●文化の森橋への懸垂幕の設置

企画展の広報として、県に都市公園占用許可申請をして、企画展の期間中、文化の森橋に懸垂幕を設置した。

2. テレビ・ラジオへの出演等

博物館事業のPR等のためのテレビ・ラジオへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

- 4月22日 辻野泰之 NHK(徳島)「i徳島」(企画展「シーラカンス展」の紹介)
- 7月15日 山田量崇 四国放送テレビ「あさ630」(クワガタムシの採り方)

- 8月6日 長谷川賢二 四国放送テレビ「おはようたくしま」(収蔵している妖怪・まじない関係資料の紹介)
- 10月6日 長谷川賢二 四国放送テレビ「フォーカス徳島」(祖谷の歴史について)
- 10月30日 中尾賢一 NHK (徳島)「ほっとイブニング徳島」(「国会議事堂の石 ー議事堂に使われた阿南市および那賀町産大理石ー」の紹介)
- 2月10日 山田量崇 NHK (徳島)「ニュース徳島」(部門展示「ヘルマン・ヘッセ昆虫展」の紹介)

3. インターネットによる情報提供

(1) 電子メール

希望者には電子メール(以下メール)による催し物案内を毎月行っている(平成22年3月末現在の登録者293名)。

また、ホームページ等を見た人からの質問もメールで寄せられており、各担当より回答を行っている。平成21年度には記録されたものだけでも24件の問い合わせが寄せられている。

(2) ホームページ

A. 概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。11年7月よりホームページ<http://www.museum.comet.go.jp/>を開設した。18年3月からは、ネットワーク回線が徳島県教育情報ネットワークに移管されたためにホームページは<http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/>に変更された。

ホームページの内容は下記のとおりである。

- ・博物館の紹介(開館日・交通案内など)
- ・展示案内(企画展、常設展)
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動(データベース)
- ・学校等への利用案内
- ・出版物(展示解説、研究報告、博物館ニュースなどの案内)
- ・関連活動紹介(友の会、博物館協議会など)
- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー(子供向けメニュー、映像コーナーなど)

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

データベースによる検索では、資料データベースでは人文、動物、植物、地学の各分野ごとに収蔵資料を検索でき、資料の写真や動植物の分布図などが表示できる。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を専用フォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は毎月の催し物案内のように定期的に行うもののほか、各担当により随時行っている、平成20年度の主な追加内容については下記のとおりである。

- ・平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業「阿波の先人を通じたふるさと学習プログラムの開発」に関する情報等を掲載した。

B. アクセスについて

平成21年度1年間でトップページに約44,000件のアクセスがあった。

表1 月別のホームページへの総アクセス数と訪問者数

	総アクセス数	総訪問者数
4月	158,468	16,771
5月	196,946	19,227
6月	173,441	20,109
7月	206,949	30,956
8月	301,762	54,474
9月	255,758	21,863
10月	289,449	24,510
11月	276,042	20,514
12月	192,131	20,721
1月	174,302	20,755
2月	154,561	16,652
3月	150,887	14,988
合計	2,530,696	281,540

4. 外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成12年度および13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

平成18年度より国立科学博物館が行っている自然系

博物館における収藏品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は全国の科学系博物館のホームページの内容の横断検索で、サイエンスミュージアムネット (<http://science-net.kahaku.go.jp/>) で160館以上のホームページを一度に検索することができる。また、収藏品データの検索も準備されており、当館からは徳島県産維管束植物のデータを整備し提供した。日本語の検索および GBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) のデータとしても横断検索できるようになった。

5. 情報システムの概要

平成17年度には4期目となる COMET (徳島県文化・学習情報システム) のコンピュータシステム更改が行われた。平成20年度はその運用開始4年目にあたる。システムの構成は下記のとおりである。

博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。4期目の博物館システムの更改については次のような方針で臨んだ。

- ・博物館の業務システムは基本的に現状をベースに改良を加える。
- ・情報提供はインターネットを用い、ブロードバンド (大容量通信) や携帯電話等の新しい通信手段に対応する。

その結果、次のような構成で4期システムを運用することになった。

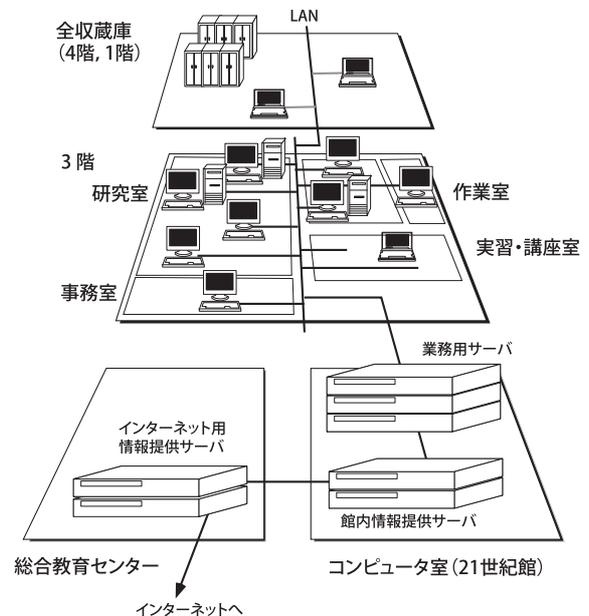
a) 業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサネット (1000BaseT) の LAN でつないだ。ファイルサーバ (MacOSX サーバ) とデータベースサーバ (FileMaker Server 8) の2台のサーバを設置した。サーバのデータは、21世紀館に常駐する SE (システムエンジニア) によって毎日バックアップがとられている。職員1人に1台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなくノート型パソコンを活用している。

b) 情報提供システム

情報提供用としては、Linux サーバを用いて、WWW サーバと資料データベースを構築した。また、文化の森で共通で使用する全文検索用サーバを1台設置した。さらに、柔軟なデータベース公開ができるように MacOSX サーバと FileMaker Server 8 Advanced による Web データベースを構築し、新聞記事データ

ベースを公開した。インターネットの回線が徳島県立総合教育センターに集約されたために、これらの情報提供用サーバを2組用意し、館内用は文化の森のコンピュータ室に、外部 (インターネット) 用は教育総合センターに設置し、館内用サーバから自動的にデータが更新される仕組みを用意した。



V 調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなす活動である。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じて館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長を含む13名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1. 課題調査

平成21年度は、次の3つの課題調査を行った。

(1) 剣山系の昆虫相

剣山系における昆虫相の調査は古くから行われてきているものの、一部のグループに限られたものが多いため、種の分布記録などの基礎データは不十分である。剣山系における昆虫類のインベントリー作成を目的として、本年度は半翅類と蛾類のモニタリング調査を行った。情報や資料の蓄積が進めば、剣山系における環境保全活動に基礎資料を提示できることが期待される。

●調査メンバー

博物館学芸員：大原賢二（動物）、山田量崇（動物）
館外調査者：林 正美（埼玉大学教育学部教授）、
広渡俊哉（大阪府立大学大学院准教授）

●調査の概要および成果

2009年5月11～13日 神山町、那賀町（剣山スーパー林道）

2010年3月20～21日 神山町、那賀町など

※5月11～13日は広渡氏と山田が、3月20～21日は林氏と大原がそれぞれ調査した。

5月の調査では、日中の任意調査と夜間の灯火採集によって多数の資料を収集した。灯火採集により、四国では初めての記録となる小蛾類の種をいくつか確認

した。また、半翅類においても徳島県初記録および情報の少ない種など特筆すべき分類群が見出された。

(2) 海部地方の盆棚

盆棚は盆行事において、故人の霊を迎えまつるために、臨時に設置する祭壇である。日本全国で古くからこの盆棚によるまつりが行われてきており、設置場所、形態、まつり方に非常にたくさんのバリエーションがあることが指摘されている。この盆棚のバリエーションは、日本人の先祖観の変遷に係る重要な民俗事例である。

日常の生活が現代化し、伝統的な慣習が省略されていく中で、盆に盆棚を設置しまつることは、省略化されてきた。その中で県内海部地方は、今なお盆棚でのまつりが行われている貴重な地域である。早急に現状を調査し、記録を残しておく必要がある。

本調査では、海部地方で行われている盆棚でのまつりの詳細の把握を目的とし、聞き取り調査、記録撮影を行った。その上で、海部地方の盆棚の地域的特色の整理を行った。

●調査メンバー

博物館学芸員：庄武憲子（民俗）

●調査日程および調査地

5月30日 海部郡海陽町にて盆棚慣行の現状についての聞き取り調査。



美波町北河内にて毎盆設置される盆棚



海陽町小川の盆棚

5月31日 海部郡美波町にて盆棚慣行の現状についての聞き取り調査。

8月11日～13日

海陽町小川・多良・浅川、牟岐町橋、美波町西河内・北河内・赤松、小松島市芝生町で、盆棚の撮影記録。祭祀の仕方についての記録。

●調査の成果

今回の調査・記録により、海部地方では、現在でも上記調査地において、盆棚での祭祀が行われていることを確認できた。その結果を簡単にまとめると以下のようになる。

- ・ 毎盆設置するという家の外に設置するという盆棚で、先祖をまつるとする場合と無縁仏をまつるとする場合の混在がある。
- ・ 新仏（亡くなって1年～3年以内の故人の霊）を盆棚でまつるとする美波町西河内・赤松・北河内では、毎盆設置する盆棚より家から離れた場所に新仏の盆棚を設置する。
- ・ 海陽町浅川浦地域では、無縁仏を盆棚でまつるという考え方が顕著である。
- ・ 海部川上流域の盆棚は、一般にいう棚の形式ではなく、墓石のような形式である。

今後は結果をふまえ、盆棚で先祖をまつる例と無縁仏をまつる例の位相を明確にすること、新仏を特別にまつる例の要因の究明、棚形式と墓石形式盆棚の分布状況と相互の位相を明確にする必要があると考えている。

(3) 加茂谷川流域の岩陰遺跡の分布調査

三好郡東みよし町の加茂谷川流域には県史跡である加茂谷川5号(縄文時代早期)、2号(縄文時代前期)、1号(縄文時代中期)の岩陰遺跡を初め数多くの岩陰が存在する。しかし、この3遺跡の調査後、はっきり



加茂谷川5号岩陰遺跡(中央の谷)

と縄文時代の遺跡であると確認される岩陰は発見されていない。

今回の分布調査では、東みよし町郷土史研究会のメンバーの方々とともに、庇のしっかりとした岩陰を中心として、岩陰そのものの所在の確認とともに、縄文土器や石鏃などの石器類の確認調査を行った。また、加茂谷川流域の岩陰の分布に詳しい地元の人からの聞き取り調査も行った。

●調査メンバー

博物館学芸員 高島芳弘(考古)、魚島純一(考古・保存科学)

館外協力者：川西 正(東みよし町郷土史研究会)

●調査日程

- 1月20日 岩陰の位置などの事前聞き取り
- 3月18日 岩陰の所在確認と遺物の表面採集

●調査の概要

川西正氏に案内いただきながら、加茂谷川沿いの下流から順番に岩陰の位置を確認していった。今回の調査では加茂谷川沿いの谷底はほとんど調査せず、支流沿いで山にかなり上った位置に立地する岩陰を中心に調査を行った。

- ・ 倉石の岩陰…近世以降と考えられる焼き物類が多く散布していたが、土器、石器などの遺物類は確認できなかった。
- ・ アゲンドの盤座・三ツ石・支石墓、お亀の岩屋、倉石、神木の岩屋…所在を確認した。

2. 分野別(個別)調査研究

大原賢二(動物・昆虫)

- ①日本産ハナアブ科の分類学的研究
- ②アサギマダラの移動調査

アサギマダラの移動に関する標識再捕法による調査を21年度も行った。春期の移動記録はこれまでは

全く得られていなかったが、海部郡美波町（旧：由岐町）明神山から琵琶湖畔の津市までの移動が確認され、四国からの春の北上記録として貴重なデータとなった。

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①徳島県産淡水魚類相調査

吉野川水系、那賀川水系および海部川水系などで採集調査を行った。

②カワバタモロコの保全生物学的研究

徳島県産カワバタモロコの生息環境が悪化しているため、避難地選定のための溜池の環境調査を実施した。

③徳島県産オヤニラミ保全対策の検討

昨年度に引き続き、徳島県産オヤニラミの遺伝的分化の状態を把握するため、徳島県産サンプルのDNA解析を行った。

山田量崇（動物・無脊椎動物）

①ハナカメムシ科の系統分類学的研究

東南アジアおよびネパールの材料をもとに生物多様性保全の観点から本科の系統分類学的研究を行った。

②農業害虫の天敵としての半翅類の探索と利用に関する研究

熱帯アジアと我が国の生物的防除研究へ基礎資料を提示すべく、難同定分類群の簡易的な同定法の構築を目指した研究を行った。

③剣山系の昆虫相調査

半翅類と小蛾類を対象にインベントリー作成をめざしたデータの収集を行った。

④県産無脊椎動物相の調査

主に海産および汽水産甲殻類の標本収集を行った。

小川 誠（植物）

①県内産絶滅危惧種の保全に関する調査

絶滅危惧種シバナについて、生息状況の調査を行った（NPO 法人カルフネイチャーネットワークと共同）。

②タンポポの分布調査

タンポポ調査2010・西日本に関連し、タンポポ調査2010・徳島県実行委員会と連携し、県内のタンポポ調査を行った。

③市民参加型調査における分布情報の記録方法の研究

タンポポ調査などの市民参加型調査においては分布情報を記録し、調査結果を共有するシステムが必要である。インターネットを使い、経緯度情報を記録したり、Google マップを使って調査結果を共有する方法を探った。

茨木 靖（植物）

①県産植物相の調査

佐那河内村を中心に、徳島県の植物相の調査を行った。

②イネ科植物の比較研究

国内外各地のイネ植物について、その異同、分布などに関する調査を行った。

③県内における海流種子等の漂着状況を調査した（池淵正明氏と共同）。

中尾賢一（地学）

①中新統～更新統の堆積環境と貝化石相の調査

高知県、長崎県で堆積構造の観察と貝化石の採集を行った。

②阿波市阿波町地域の地質に関する研究

平成21年度阿波学会の調査の一環として、阿波市阿波町地域の地質に関する野外調査を行った（石田啓祐氏らと共同）。

③鮮新世後期以降の貝類に関する古生物地理学的研究 「大陸沿岸系貝類」とよばれている貝類群について古生物地理学的検討を行った。

④唐ノ浜層群穴内層産出貝化石の研究

高知県の鮮新統穴内層から産出が確認された未報告貝化石について、分類学的検討を行った（三本健二氏と共同）。

辻野泰之（地学）

①白亜系蝦夷層群の地質およびアンモナイト化石に関する研究

北海道古丹別地域に分布する蝦夷層群函淵層の研究および異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類学的研究を行った。

②上部白亜系オウムガイ化石に関する研究

高知県四万十市佐田石灰岩より産出したオウムガイ化石の分類学的研究。

③上部ジュラ系坂州層群栗坂層に関する研究

那賀町に分布する上部ジュラ系坂州層群栗坂層から産出する動物化石や地質に関する研究を行った（石田啓祐氏・香西武氏・佐藤正氏らと共同）。

④牟岐町から産出したアンモナイト化石に関する研究 牟岐町の四万十帯より産出した後期白亜紀アンモナイトについての分類的研究（石田啓祐氏らと共同）。

⑤阿波市阿波地域の地質に関する研究

平成21年度阿波学会の調査の一環として、阿波市阿波地域の地質に関する野外調査を行った（石田啓祐氏らと共同）。

高島芳弘（考古）

①若杉山遺跡を中心とする徳島県における朱採掘遺跡

の確認調査

阿南市の津乃峰山中腹の岩屋周辺の採集資料の確認及びこと若杉山遺跡の中間地帯での、石杵の採集を通じて、朱の採掘遺跡の広がりを追求した。

②東四国における姫島産黒曜石の分布の検討

那賀川流域の鮎川西ノ宮遺跡で採集した姫島産黒曜石の分布の広がりを追求して、高知県・愛媛県の東部、香川県、徳島県で資料調査を行った。また、その分布の意義付けも行った。

③中世城館総合調査

徳島県教育委員会の中世城館総合調査の調査員を引き受ける。担当地域は阿南市。本年度は平地城館の検討が中心となった(須藤茂樹氏、福永素久氏、向井公紀氏と共同)。

魚島純一 (保存科学・考古)

①出土遺物の応急処置システムの研究

筑波大学等と共同で、出土遺物等の応急処置に関するシステムづくりについての研究を行う。「応急箱」の開発を行うとともに、学会等で発表を行い、埋蔵文化財発掘担当者を対象に応急箱の使い方に関するワークショップも開催した。また、各研究分担者の応急処置事例を試験的にデータベース化する作業等も担当した。

②青銅器の破砕方法に関する研究

復元青銅器を破砕する実験等を通して、出土する破砕青銅器の破砕方法に関する検討を行った。

③発光ダイオードを使った照明器具の耐久性の検証

昨年度、一部の展示ケース内に試験的に導入した発光ダイオード(LED)を使った照明器具(スポットライト)の耐久性について検証を行った。これまでの照明の場合、年に1回から数回の交換が必要であったが、発光ダイオードの照明器具に換えて以降、これまでのところ交換の必要な状況は起こっていない。引き続き耐久性等の検証を行う。

④県内出土銅鐸 X線透過写真のデジタルデータ化

これまでに撮影したX線透過写真のうち、特に県内出土銅鐸のX線透過写真について、すべてをデジタル化し、外部への提供等に容易に対応できるようにした。

⑤外部依頼による調査、保存処理等

- ・徳島市・鳴門市・美馬市・阿波市・藍住町教育委員会、高知県埋蔵文化財センターなどの依頼を受け、出土文化財の蛍光X線分析による材質調査、X線透過撮影による構造調査を行った。
- ・阿波学会民家班などの依頼を受け、棟札の赤外線TVカメラでの調査を行った。

長谷川賢二 (歴史)

①中世の写経僧の生活形態に関する研究

阿波及び讃岐東部の中世の写経に見られる僧侶の生活実態と特質を検討した。

②地域的な歴史認識の展開に関する研究

近現代における阿波忌部をめぐる歴史認識の成立と再生産を事例として、地域的な歴史認識(郷土史認識)について検討し、現段階の見通しをまとめた。

③歴史系文化施設の動向調査

近年における博物館を中心とする歴史系文化施設の動向について調査し、概要をまとめた。

④文献史料にもとづく中世城館の調査

徳島県教育委員会による中世城館跡総合調査の一環として、文献史料から分かる城館の概略をまとめた。

庄武憲子 (民俗)

①海部地方の盆棚習俗の記録と整理

海部地方にみられる盆棚でのまつりの詳細を記録し、分布状況、地域の特徴について整理を行った(平成21年度課題調査)。

②阿波藍に関する調査

平成22年度開催予定企画展に向けて、阿波藍の全国展開に関する資料の調査、生産過程に関する資料の調査を行った。

③阿南市史編さん事業に関する調査

富岡町、橘町の過去と現在の比較、町内会組織の変遷の様子など、町の暮らしに関する事例収集を行った。また、年中行事についての聞き取り調査、撮影記録などを行った。

磯本宏紀 (民俗)

①漁具・漁法等漁業技術および環境利用に関する研究

徳島県南部の漁村を中心に、潜水漁及びイサリ漁で使用される漁具及び漁法の調査を行った。

②阿波漁民の漁業移住に関する民俗学的研究

近代以降の出稼ぎ・移住に関する調査を行った。漁業移住の実態と、それにもなった文化伝播の痕跡を明らかにすることを目的として検討した。

③農具市と民具の流通に関する調査

阿波市阿波町、吉野町等において農具市および竹細工職人等を対象とした聞き取り調査を行った。

④阿南市史編纂事業に関する調査の内「社会生活」に関する調査

⑤鳥取県史編纂事業に関する調査の内「生業(漁業)」に関する調査

大橋俊雄 (美術工芸)

①19世紀における阿波の学芸と美術

現在通用している日本美術の歴史は、江戸期以来

の有職故実や、清代考証学に源をもつ古器物清玩・好古の風潮が、西洋近代の学問と出会うことで組上げられた。その過程が、徳島の地においてはどのように反映されたのかを調べた。

②飯塚桃葉に関する調査

阿波藩御用蒔絵師飯塚桃葉について、近年の研究動向、新作品の発見をふまえ、より具体的な位置づけを検討した。

③森崎家資料に関する調査

館蔵の森崎家資料は、17世紀末から19世紀におよぶ、阿波の御用絵師諸家による粉本の集積である。整理を進めながら、地域における絵画製作のあり方を検討し、従来とは異なる視点や方法論が採れないかを模索した。

3. 科学研究費補助金等による研究

- 若手研究(B)：東南アジアにおけるハナカメムシ類を含む生物的防除資材の探索と簡易同定法の構築 (平成20～22年度)

研究代表者：山田量崇

- 基盤研究(B)：日本中世における「山の寺」(山岳宗教都市)の基礎的研究 (平成20～23年度)

研究代表者：仁木 宏

(大阪市立大学大学院文学研究科准教授)

当館の連携研究者：長谷川賢二

4. 他機関との共同研究

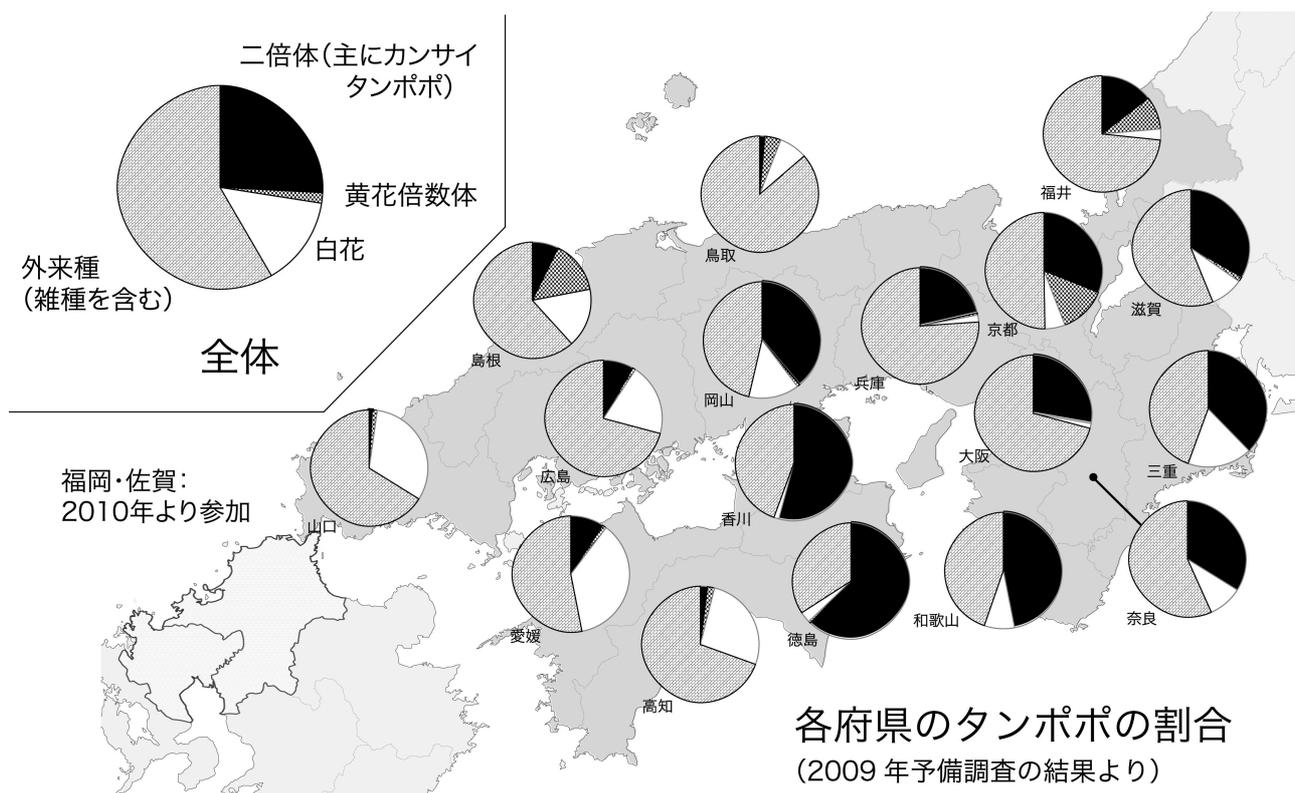
●タンポポの分布調査

身近な花であるタンポポの分布を調べ、環境の変化などを西日本一帯で調べる取り組み「タンポポ調査2010・西日本」を兵庫県立人と自然の博物館などと協働して行った。

徳島県では、いままでに全県にわたってのタンポポ調査は実施されたことがない。そこで、①徳島県におけるタンポポの詳細な分布を記録し、継続的に調査することで、自然環境の変化をとらえる、②ヤマザトタンポポを含めて徳島県に分布するタンポポの種類を明らかにする、③在来種と外来種の雑種の現状を明らかにする、④調査を通じて、参加者の自然環境への関心を高めることを目的に、タンポポ調査西日本に参加することにした。

平成21年度は予備調査の年となり、調査範囲は福井、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知の17府県にわたった。各府県で実行委員会を立ち上げたが、徳島県では当館の小川と茨木が事務局となり、米澤義彦氏(鳴門教育大学)を委員長とし、森本康滋氏(徳島県自然保護協会会長)、木下 覺氏(徳島県植物研究会会長)をメンバーとして徳島県実行委員会を結成した。

大まかな予備調査の結果は以下の通りである。西日



本一帯では、カンサイタンポポは淡路島を中心に円状に分布していて、徳島、香川、岡山県より西側は急激に少なくなっていた。

西日本全体から見た徳島県のタンポポの特徴としては、カンサイタンポポの割合が西日本で徳島県が一番多いことである。カンサイタンポポは自然がよく残っている場所に多いと言われているが、それが多いと言うことは徳島県が西日本の中でも自然環境が良いことを示しているのかもしれない。

これらの結果は、予備調査の報告書としてホームページ (<http://www.nature.or.jp/Tampopo2010/>) からダウンロードできる。

5. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第20号の発行

2010年3月31日発行、B5判76ページ、1,100部

(*は館外研究者)

論文

三本健二*・中尾賢一：高知県の鮮新-更新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類(5)。p. 1-15.

多田 昭*：石立山および高ノ瀬峡の陸産貝類相。p. 17-31.

調査記録

佐々木孝明*・小笠 航*・豊崎 勲：徳島県におけるカバマダラの記録-2009年の調査より-。p. 33-36.

多田 昭*・大原健司*：四国におけるビロウドマイマイ属の分類-特にトサビロウドマイマイとシコクビロウドマイマイについて-。p. 37-42.

佐々木孝明*・岡田賢三*・大原賢二・山田量崇：徳島県で発生したクロマダラソテツシジミの記録。p. 43-53.

大原賢二・山田量崇：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録(2009年)。p. 55-72.

短報

山田量崇・兼田武典*：徳島県勝浦町でアカギカメムシを確認。p. 73-76.

(2) 公表論文・報告・記事等一覧

(*印：館外研究者)

●動物

〈学術的著述〉(☆：査読付学術雑誌)

大原賢二・山田量崇(2010.3) アサギマダラの移動に関する徳島県の記録(2009年)。徳島県立博物館研究報告, (20) : 55-72.

佐々木孝明*・岡田賢三*・大原賢二・山田量崇(2010.

3) 徳島県で発生したクロマダラソテツシジミの記録。徳島県立博物館研究報告, (20) : 43-53.

☆Yamada, K. & Yasunaga, T.* (2009. 9) Species of the minute pirate bug genus *Buchananiella* Reuter from Thailand (Heteroptera, Anthocoridae). *Nouvelle Revue d'Entomologie (N.S.)*, 25 (2008) : 273-280.

☆Yasunaga, T.* & Yamada, K. (2009. 9) Three new species of the orthotyline plant bugs recently found in central Thailand (Heteroptera, Miridae, Orthotylinae). *Nouvelle Revue d'Entomologie (N.S.)*, 25 (2008) : 281-287.

山田量崇・兼田武典* (2010. 3) 徳島県勝浦町でアカギカメムシを確認。徳島県立博物館研究報告, (20) : 73-76.

佐藤陽一 (2009. 4) 徳島県におけるニホンモモンガの記録。リスとムササビ, (22) : 14.

〈一般著述〉

山田量崇 (2009. 7) チョウとガ。徳島新聞7月17日夕刊(こども新聞)。

山田量崇 (2009. 9) スズムシ。徳島新聞9月4日夕刊(こども新聞)。

山田量崇 (2009.10) 赤トンボ。徳島新聞10月2日夕刊(こども新聞)。

山田量崇 (2009.12) ミノムシ。徳島新聞12月18日夕刊(こども新聞)。

山田量崇 (2010. 1) ハンミョウ。徳島新聞1月29日夕刊(こども新聞)。

山田量崇 (2010. 2) 擬態する虫。徳島新聞2月12日夕刊(こども新聞)。

山田量崇 (2010. 3) 落ち葉の下の動物たち。徳島新聞3月5日夕刊(こども新聞)。

山田量崇 (2009. 6) ツマベニチョウのなかま。徳島県立博物館ニュース(表紙), (75) : 1.

山田量崇 (2010. 3) 冬越しする昆虫をさがそう!。徳島県立博物館ニュース(野外博物館), (77) : 7.

佐藤陽一 (2009. 4) スズメ。徳島新聞4月3日夕刊(こども新聞)。

佐藤陽一 (2009. 4) アユ。徳島新聞4月17日夕刊(こども新聞)。

佐藤陽一 (2009. 6) アユカケ。徳島新聞6月26日夕刊(こども新聞)。

佐藤陽一 (2009.12) タヌキ。徳島新聞12月4日夕刊(こども新聞)。

佐藤陽一 (2010. 1) キツネ。徳島新聞1月8日夕刊(こども新聞)。

佐藤陽一 (2010. 2) アナグマ。徳島新聞2月5日夕刊(こども新聞)。

佐藤陽一 (2010. 2) ハクビシン. 徳島新聞 2月19日夕刊 (こども新聞).

佐藤陽一 (2010. 3) シロウオ. 徳島新聞 3月19日夕刊 (こども新聞).

佐藤陽一 (2009. 4) ガーとはどんな魚ですか? 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (75): 6.

佐藤陽一 (2009.12) 狸顔のケモノたち. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (77): 6.

●植物

〈学術的著述〉(☆: 査読付学術雑誌)

☆茨木 靖・中村俊之*・木下 覺*・小川 誠 (2009. 10) ミズタカモジの徳島県における分布. 植物研究雑誌 84 (5): 310-312.

木下 覺*・茨木 靖・植北ちず子*・片山泰雄*・小松研一*・佐治まゆみ*・成田愛治* (2009. 7) 美馬市美馬町の植物. 阿波学会紀要, (55): 33-43.

茨木 靖・木場英久*・小林史郎* (2009. 3) イネ科 (Poaceae). 高知県・財団法人高知県牧野記念財団編「高知県植物誌」, 高知県・財団法人高知県牧野記念財団: 557-597.

小川 誠 (2009. 3) コキノシタ科 (ノリウツギ). 高知県・財団法人高知県牧野記念財団編「高知県植物誌」, 高知県・財団法人高知県牧野記念財団: 240-241.

小川 誠 (2009. 3) キク科 (ヨモギ属). 高知県・財団法人高知県牧野記念財団編「高知県植物誌」, 高知県・財団法人高知県牧野記念財団: 469-471.

〈一般著述〉

小川 誠 (2010. 4) タンポポ調査にご協力ください 徳島県のタンポポ. 徳島の自然, (78): 7.

茨木 靖 (2009. 9) 秋だ! ひつつき虫を探せ!. 徳島県立博物館ニュース (野外博物館), (76): 6.

茨木 靖 (2009. 3) 早春のヒマラヤ照葉樹林帯を歩く. 徳島県立博物館ニュース (Culture club), (74): 2-3.

小川 誠 (2009. 5) カシワモチ. 徳島新聞 5月1日夕刊 (こども新聞).

茨木 靖 (2009. 5) バラ. 徳島新聞 5月29日夕刊 (こども新聞).

茨木 靖 (2009. 6) アジサイ. 徳島新聞 6月12日夕刊 (こども新聞).

茨木 靖 (2009. 7) アサガオ. 徳島新聞 7月10日夕刊 (こども新聞).

茨木 靖 (2009. 8) スイカ. 徳島新聞 8月7日夕刊 (こども新聞).

茨木 靖 (2009. 9) ヒガンバナ. 徳島新聞 9月25日夕刊 (こども新聞).

●地学

〈学術的著述〉(☆: 査読付学術雑誌)

西山賢一*・石田啓祐*・中尾賢一・辻野泰之・森永宏*・森江孝志*・橋本寿夫*・伊藤嘉将*・山崎健太* (2009. 7) 美馬市美馬町の地質と古生物-和泉層群, 鮮新~更新統, ならびに地すべり地形-. 阿波学会紀要, (55): 1-12.

石田啓祐*・中尾賢一・香西 武* (2009.10) 徳島県産国会議事堂大理石の研究 -その3. 衆参両院における石材使用の比較-. 徳島大学総合科学部紀要自然科学研究, 23 (3), 31-45.

三本健二*・中尾賢一 (2010. 3) 高知県の鮮新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類化石 (5). 徳島県立博物館研究報告, (20): 1-15.

☆Yasuyuki Tsujino and Hirohide Iwata (2009. 8) Aturoidea (Nautilida) from the Upper Cretaceous Sada limestone in Shimanto City, Kochi Prefecture, Japan. Cretaceous Research, 30 (4): 911-916.

☆Keisuke Ishida*, Yasuyuki Tsujino, Takeshi Kozai*, Tadashi Sato* and Hirsch Francis* (2009.12) Direct correlation of radiolarian Kilinora spiralis Zone with the Late Jurassic ammonite faunal succession in the Kurisaka Formation, Kurosegawa Terrane, SW Japan. Science in China, Series D, Earth Sciences, 52 (12): 1910-1923.

〈一般著述〉

中尾賢一 (2009. 4) ひすい. 徳島新聞 4月22日夕刊 (こども新聞).

中尾賢一 (2009. 7) ざくろ石. 徳島新聞 7月3日夕刊 (こども新聞).

中尾賢一 (2009.11) 国会議事堂の石. 徳島新聞 11月27日夕刊 (こども新聞).

中尾賢一 (2010. 1) 徳島と火山. 徳島新聞 1月15日夕刊 (こども新聞).

中尾賢一 (2009. 6) 二枚貝アワジチヒロとその化石. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (75): 2-3.

中尾賢一 (2009.12) 動物の化石のオス・メスを見分けることはできますか?. 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (77): 5.

辻野泰之 (2009. 4) シーラカンス. 徳島新聞 4月21日夕刊 (こども新聞).

辻野泰之 (2009. 8) ティラノサウルス. 徳島新聞 8月21日夕刊 (こども新聞).

辻野泰之 (2009.11) オウムガイ. 徳島新聞 11月20日夕刊 (こども新聞).

辻野泰之 (2010. 2) 三角貝. 徳島新聞 2月22日夕刊

(こども新聞).

辻野泰之(2010.3)コダイアマモは、海草の化石なのですか?。徳島県立博物館ニュース(Q&A),(78):7.

●考古

〈学術的著述〉

高島芳弘(2009.8)東四国の姫島産黒曜石.木村剛朗さん追悼論集「考古学の源流」:121-130.

魚島純一(2008.3)永納山東Ⅰ遺跡から出土した赤色顔料の蛍光X線分析について.「永納山東Ⅰ遺跡・永納山東Ⅱ遺跡—一般国道196号今治小松道路埋蔵文化財発掘調査報告書第4集」,(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター:35-38.

〈一般著述〉

高島芳弘(2009.9)古代の阿波や讃岐にいた佐伯氏の役割や相互関係について教えてください.徳島県立博物館ニュース(Q&A),(76):5

高島芳弘(2009.9)銅鐸に描かれた絵.徳島新聞9月9日夕刊(こども新聞).

高島芳弘(2009.12)埴輪.徳島新聞12月11日夕刊(こども新聞).

高島芳弘(2010.3)中世の大量出土銭の謎?—かくし銭?まじないの道具?—徳島県立博物館ニュース(Culture Club),(78):2-3.

高島芳弘(2010.3)やじり.徳島新聞3月26日夕刊(こども新聞).

魚島純一(2009.11)銅鐸をしらべる.徳島新聞11月6日夕刊(こども新聞).

魚島純一(2010.1)マンダラ チベット・ネパールの仏たち 上.徳島新聞1月27日朝刊.

魚島純一(2010.1)マンダラ チベット・ネパールの仏たち 下.徳島新聞1月28日朝刊.

魚島純一(2010.3)文化財を守る.徳島新聞3月12日夕刊(こども新聞).

●歴史

〈学術的著述〉

長谷川賢二(2009.8)中世における阿波国高越寺の霊場的展開—大師信仰と修験道をめぐって—.四国中世史研究,(10):115-128.

長谷川賢二(2010.3)歴史系文化施設の現在.史窓,(40):41-58.

長谷川賢二(2010.3)神・天皇・地域—阿波忌部をめぐる歴史認識の展開.由谷裕哉・時枝 務編「郷土史と近代日本」,角川学芸出版:125-147.

〈一般著述〉

長谷川賢二(2009.7)脇町から美馬へ(旧美馬町関係項目);貞光川・半田川に沿って;徳島県のあゆ

み(中世);地域の概観(美馬・三好);文化財公開施設.徳島県の歴史散歩編集委員会編「歴史散歩36 徳島県の歴史散歩」,山川出版社:147-151,156-161,278-280,287-288,292-295.

長谷川賢二(2009.8)忠魂碑と奉納砲弾.徳島新聞8月14日夕刊(こども新聞).

長谷川賢二(2009.9)四国遍路の成り立ちと弘法大師.徳島県立博物館ニュース(Culture Club),(76):2-3.

長谷川賢二(2009.12)書評と紹介:由谷裕哉著「白山・立山の宗教文化」.宗教研究,(362):280-285.

長谷川賢二(2010.2)四国遍路の歴史—遍路文化のあゆみをたどって—.第60回日本森林学会関西支部/日本森林技術協会関西・四国支部連合会合同大会事務局編「特別講演「四国遍路の歴史」—遍路文化のあゆみをたどって—」,第60回日本森林学会関西支部/日本森林技術協会関西・四国支部連合会合同大会事務局:1-30.

長谷川賢二(2010.3)歴史との対話の旅—2009年秋韓国で考えたこと—.新世紀男女共生社会へのメッセージ,(9):145-148.

長谷川賢二(2010.3)平家と阿波—阿波民部の周辺を考える—.軍記と語り物,(46):13-19.

長谷川賢二(2010.3)参詣・巡礼の歴史的展開.石川県立歴史博物館編「石川の歴史遺産セミナー講演録「白山」第5回~第8回」石川県立歴史博物館:52-62.

●民俗

〈学術的著述〉

庄武憲子(2009.12)阿波の地芝居—これまでの研究・調査報告から窺える地芝居の存在.四国民俗,(42):9-30.

磯本宏紀(2009.7)農具市と民具の流通,阿波学会紀要,(55):177-180.

磯本宏紀(2010.3)徳島県における人形浄瑠璃に関する研究史と研究課題,徳島地域文化研究,(8):1-11.

〈一般著述〉

庄武憲子(2009.12.1)藍商人活躍の足跡.徳島県立博物館ニュース(Culture Club),(77):2-3.

庄武憲子(2010.3)小松島市芝生町の盆棚.徳島地域文化研究,(8):197-199.

庄武憲子(2010.3)新刊紹介(財)徳島県文化振興財団民俗文化財集編集委員会編『日開谷川流域の民俗』.徳島地域文化研究,(8):226-227.

磯本宏紀(2009.6)祀られる武将の伝説から—ガイドブック『八万町の昔を探ろう』の活用法—.徳島

- 県立博物館ニュース（情報ボックス），（75）：5。
 磯本宏紀（2009. 8.13）徳島の盆踊り。徳島新聞 8月13日朝刊（こども新聞）。
 磯本宏紀（2009.12）食卓。徳島新聞12月25日夕刊（こども新聞）。
 磯本宏紀（2010. 1）どんど焼き・左義長。徳島新聞 1月22日夕刊（こども新聞）。
 磯本宏紀（2010. 3）双六盤。徳島県立博物館ニュース（館蔵品紹介），（78）：5。
 磯本宏紀（2010. 3）新刊紹介 萩澤明雄著『続・徳島県の地名考』。『徳島地域文化研究』，（8）：232-234。

●美術工芸

〈一般著述〉

- 大橋俊雄（2009.10）御用絵師・守住貫魚，徳島新聞 10月30日夕刊（こども新聞）。

(3) 学会・研究会等での発表

（*印：館外研究者）

●動物

- 清水孝昭*，佐藤陽一，高木基裕*（2010. 3）徳島県を中心としたオヤニラミの遺伝的分化と攪乱（予報）。四国魚類研究会（土佐）。
 佐々木孝明*・岡田賢三*・大原賢二・山田量崇（2010. 2）徳島県で2009年に発生したクロマダラソテツシジミ。日本鱗翅学会四国支部第15回例会，愛媛県科学博物館（新居浜）。
 佐々木孝明*・小笠 航*・山田量崇・大原賢二（2010. 2）2009年に徳島県で見られた迷蝶と迷蛾。日本鱗翅学会四国支部第15回例会，愛媛県科学博物館（新居浜）。

●植物

- 小川 誠，末広喜代一*，鈴木 武*，藤川和美*，松井宏光*（2009. 9）タンポポ調査西日本2010について。四国植物研究会（高知）。
 小川 誠（2010. 3）タンポポ調査・西日本とー博物館ネットワーク。植物分類学会（名古屋）。
 Yasushi Ibaragi（2009.11）What are the differences? To identify members of sect. Kariyasua. Miscanthus Systematic Taxonomy Symposium（Taiwan）

●地学

- 中尾賢一（2009. 5）鳴門海峡海底から産出する更新世後期の貝化石。第18回四国貝類談話会（徳島）。
 辻野泰之（2009. 9）北海道古丹別地域に分布する上部白亜系蝦夷層群函淵層。日本地質学会第116年学術大会（岡山）。
 Keisuke Ishida*，Yasuyuki Tsujino，Takeshi Kozai*，

Tadashi Sato* and Francis Hirsch*（2009. 8）The age of radiolarian Kilinora spiralis Zone: direct correlation with late Jurassic ammonite faunal succession in the Todoro section of the Kurisaka Formation, SW Japan. International Scientific Committee of the 8th IGCP 506 Symposium“Marine and non-marine Jurassic: global correlation and major geological events”（Bucharest, Romania）。

●考古

魚島純一（2009. 7）発掘現場における応急処理ツールの開発とそのシステムの提案。日本文化財科学会第26回大会（名古屋市）。

●歴史

長谷川賢二（2009. 7）中世の写経に見る宗教者の生活形態。徳島地方史研究会例会（徳島）。
 長谷川賢二（2010. 1）博物館法の改正と学芸員養成。歴史学と博物館のあり方を考える会例会（大阪）。

●民俗

磯本宏紀（2009. 6）阿波の念仏踊り。四国民俗学会例会（徳島）。
 磯本宏紀（2009. 8）美波町木岐のイサリ具。四国民具研究会例会（高松）。
 磯本宏紀（2009.10）器械潜水における技術継承と技術伝播ー伊島漁民による潜水技術を中心にしてー。日本民俗学会年会（東京）。
 磯本宏紀（2009.11）博物館は何を収集すべきか、収集できるか。歴史民俗資料学研究科研究集会（横浜）。

Ⅵ 資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来次の4つを基本方針として資料を収集している。

- 1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
- 2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
- 3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
- 4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。

収集した資料は、調査研究に役立っているだけでなく、展示や教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

21年度は3名（人文1、自然2）の文化推進員・臨時補助員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 採集資料

●動物（脊椎動物）

ヒミズ	1点
テン	1点
ハシボソガラス	1点
クマネズミ	1点
ギギ	1点
岡川産魚類	多数
石井町気延の里ビオトープ池および周辺の魚類	多数

ジムグリ	1点
狸・狐関係アクセサリー類	19点

●動物（無脊椎動物）

鳴門市土佐泊浦竜宮の磯の甲殻類	多数
勝浦川河口干潟の甲殻類	多数

●動物（昆虫）

ヤマトシロアリ	19点
クロマダラソテツシジミ	多数
徳島県産海浜性半翅類	多数

剣山系の半翅類	多数
剣山系の蛾類	多数

●植物

県内各地の標本	多数
海浜植物標本	多数

●地学

県内および北海道産白亜紀動物化石	多数
長崎県対馬市産新生代貝化石・鉱物	3点

2. 購入資料

平成17年度より資料の購入は行われていない。

購入資料合計 0点

3. 寄贈資料

●動物（脊椎動物）

平成20年度那賀川農地防災事業環境影響調査(水路)魚類標本

1式 中国四国農政局那賀川農地防災事業所
平成20年度那賀川農地防災事業環境影響調査(本川)魚類標本

1式 中国四国農政局那賀川農地防災事業所
キツネ 1点 板井卓哉氏
平成20年度吉野川下流域農地防災事業自然環境調査魚類標本

1式 中国四国農政局四国東部農地防災事業所
カンムリウミスズメ卵 吉田和人氏
平成19年度那賀川農地防災事業環境影響調査(水路)魚類標本

1式 中国四国農政局那賀川農地防災事業所
ニホンザル 1点 白井啓二氏
「地域の子どもたちと共に」ほか (DVD)

2点 正法寺川を考える会
ヤイロチョウ 1点 丸岡英明氏
平成19および平成20年度吉野川東環状大橋(仮称)建設事業環境調査魚類標本

1式 徳島県東部県土整備局
アカウミガメ(剥製) 1点 和田島小学校
チワラスボ

1点 中国四国農政局四国東部農地防災事業所

ハナゴンドウ	1点	小松島市産業振興課
バショウカジキ幼魚	1点	小原千代子氏
ニホンジカ頭骨	1点	福永素久氏
ミミズハセの1種	1点	沖野敏夫氏
オオヨシキリ巢	1点	斎藤倫子氏
カムルチー幼魚	1点	徳山 豊氏
ミミズハセほか	3点	沖野敏夫氏
カミツキガメ	1点	鳴門警察署
鳴門市大津町水路魚類標本	7点	古川 学氏
カワセミ	1点	徳島県工業技術センター
スナヤツメ幼魚	2点	中国四国農政局那賀川農地防災事業所
ミサゴ	1点	吉田和人氏
スナメリ骨格	1点	愛媛大学沿岸環境科学研究センター ESバンク
ニホンイタチ	1点	白井啓二氏

●動物（無脊椎動物）

キセルガイ科 sp.	2点	糸田川美千男氏
トビズムカデ	1点	魚島純一氏
クチバガイ	3点	茨木 靖氏
大潟干潟産貝類	4点	石川 裕氏
ミドリシャミセンガイ	1点	中尾賢一氏
吉野川東環状大橋環境調査定生生物標本	多数	三洋テクノマリン
トクサオカチョウジガイ	12点	武田泰門氏
トビズムカデ	1点	向原敬夫氏
徳島県産陸貝類	1,000点	大塚啓二郎氏
コケムシ類ほか	6点	中尾賢一氏
コハナグモ写真	2点	山口雄司氏
イシダテビロウドマイマイ	2点	多田 昭氏

●動物（昆虫）

アケビコノハ	1点	勝野 昭氏
カミナリハムシ属 sp.	1点	藤平 明氏
モモスズメ	2点	熊本謙三氏
アカボシゴマダラ	3点	林 正美氏
東環状大橋アセス調査昆虫類標本	多数	ニタコンサルタント
クロメンガタスズメ	1点	行成正昭氏
吉野川東環状大橋環境調査昆虫類標本	多数	三洋テクノマリン
陸生カメムシ類	多数	西川 勝氏
モンゴルのチョウ	10点	三谷晃良氏
徳島県南部の昆虫類	5点	豊崎 勲氏
徳島県のトンボ	8点	豊崎 勲氏
アカボシゴマダラ	1点	秋吉久美子氏
ルーミスジミ	4点	佐々木孝明氏

●植物

徳島県産標本	2点	森本康滋氏
平成20年度環状道路 徳島東環状線 徳東環状線他	302点	ニタコンサルタント株式会社
平成19年度東環状モニタリング調査	181点	三洋テクノマリン株式会社
東北地方の標本	29点	東北大学
クマガイソウ、グンバイヒルガオ標本ほか	4点	成田愛治氏
徳島県の植物標本	多数	木下 覺氏
アレチイネガヤ	1点	岡本泰典氏

●地学

高知県産甲殻類・貝類化石	59点	三本健二氏
国内産岩石・鉱物標本	23点	阿部 肇氏
鳴門産アンモナイト化石	1点	松本加奈氏
国内産アンモナイト化石	多数	平島 昭氏
胆石	1件	村澤良一氏
ニッポンオトヒメゴゴロガイ化石	2点	和田寿哉氏
ウラカガミ化石	1点	河野圭典氏
外国産化石	3点	大原賢二氏
美馬市産砂金	15粒	丸岡正明氏
別子銅山鉱石並精錬品標本	1点	徳島県立徳島工業高等学校
ナウマンゾウおよび貝化石	4点	横瀬健二氏
福井県産新生代化石	4点	羽島俊男氏
宍喰鉱山産鉱物	6点	山口由子・佐藤幸子・栗林知史・阿部肇氏
高知県唐浜産化石	426点	川村政彦氏
孔子鳥レプリカ	1点	両角芳郎・中尾賢一・辻野泰之

●歴史

蜂須賀家系図ほか	83点	澤 茂也氏
藩札ほか近世・近代資料	789点	橋野喜紀氏
納経帳ほか	8点	鈴江禮子氏
記念写真帳	1点	坂田英子氏

●民俗

着物	8点	武田喜美男氏
橋野家資料	991点	橋野喜紀氏
虫送り関係資料	5点	檜ノ瀬地区虫送り保存会代表 澤井敬治氏
ショイゴ、炬燵、戦時庶民生活資料	7点	太内宏文氏
カリサオ、フリマンガほか	3点	川村清志氏
からさお、草鞋編み	2点	中島 毅氏
民俗資料	264点	吉友寿恵氏
民俗資料	15点	新居 勉氏

醤油作り用具	3点	高橋源一氏
東條家旧蔵資料	73点	織原英文氏
年棚ほか	2点	西崎憲志氏
民俗資料	63点	嵯峨山あかね氏
餅付き臼（杵付）	1点	向井昭義氏

4. 寄託資料

平成21年度末現在で寄託されている資料は64件ある。平成21年度に新たに寄託された資料は次のとおり。

●美術工芸

金戎菰樽菰	3点	西野武明氏
-------	----	-------

5. 資料の貸し出し

実物、レプリカ、および模型などの貸し出し資料。学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」の中（p.18）に記載した。

●動物

クビワオオコウモリ剥製	1点	山口県立山口博物館
-------------	----	-----------

●植物

植物標本及び模型他	6点	山口県立山口博物館
-----------	----	-----------

●地学

徳島県産イグアノドン類（歯）レプリカ	1点	北九州市立自然史・歴史博物館
ナウマンゾウ臼歯化石	4点	北川博道氏（京都大学大学院）
ベレムナイト化石	3点	伊庭靖弘氏（国立科学博物館）
那賀町産化石	10点	原 英俊氏（産業技術総合研究所）
南アメリカ産化石	11点	大阪市立自然史博物館

●考古

徳島市入田町安都真出土 安都真3号銅鐸ほか	7点	荒神谷博物館
天河別神社古墳群4号墳出土 斜縁二神二獣鏡ほか	22点	鳴門市教育委員会
前山1号墳出土壺ほか	12点	財団法人徳島県埋蔵文化財センター
天河別神社古墳群4号墳出土 斜縁二神二獣鏡ほか	20点	財団法人徳島県埋蔵文化財センター
伝榎瀬出土外縁付鈕二式二区流水文銅鐸ほか	2点	徳島市教育委員会
吉野上遺跡（旧海南町）出土の磨製石斧ほか	3点	海陽町立博物館

●歴史

徳島空襲関係資料	6点	徳島県立文書館
徳島空襲関係資料	38点	加茂九条の会
海部包丁等見積覚ほか	6点	徳島市立徳島城博物館
御国産名物見立相撲	1点	徳島市立徳島城博物館
阿波国調黄緋（複製）	1点	島根県立古代出雲歴史博物館
高松藩行列絵巻	1点	香川県立ミュージアム
徳島空襲関係資料	2点	徳島県立文書館

●民俗

三番叟廻し用具一式	14点	岐阜県博物館
三番叟頭ほか	22点	徳島県立近代美術館
小屋掛模型、阿波木偶廻し用具	5点	徳島県民環境部文化国際課
熊手、唐鋏、鋤簾、手箕、踏み鋤、舂	7点	徳島市国府小学校

●美術工芸

金師秘法伝授之巻ほか	5点	徳島市立徳島城博物館
須木一胤筆 徳島城図ほか	2点	徳島市立徳島城博物館

6. 写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出しおよびデジタルデータの提供を含む。

●動物

オオサンショウウオほか動物骨格標本画像	9点	ハユマ（日本図書センター）
---------------------	----	---------------

●地学

メガテリウム of the 全身骨格（レプリカ）の写真	1点	株式会社ニュートンプレス
-----------------------------	----	--------------

●考古

星河内美田銅鐸の写真	1点	徳島出版株式会社
渋野丸山古墳航空写真	1点	財団法人徳島県埋蔵文化財センター
土成丸山古墳航空写真	1点	阿波市教育委員会

●歴史

三好長慶錦絵写真	1点	徳島県教育委員会
徳島城復元模型写真	1点	株式会社デアゴスティーニ
徳島空襲関係遺物写真	5点	徳島市生涯福祉センターふれあい健康館
七十一番職人歌合写真	1点	学校法人河合塾
徳島城下町絵図写真	1点	徳島出版株式会社
徳島城下町絵図写真	2点	佐藤征弥氏

徳島市関係古写真 11点 株式会社郷土出版社
 七十一番職人歌合写真 1点 株式会社ワード
 三十二番職人歌合写真 1点 石尾和仁氏
 七十一番職人歌合写真 3点 学校法人河合塾

●民俗

清崎武氏関係写真 8点 岐阜県博物館

●美術工芸

須木一胤筆 旧徳島城図写真 1点 徳島出版株式会社
 渡辺広輝筆 祖谷山絵巻写真 1点 橘 禎男氏
 載君筆 柏鷹図ほか写真 2点 須藤茂樹氏
 渡辺広輝筆 光格上皇修学院御幸儀状図巻写真 1枚 朝日放送株式会社
 渡辺広輝筆 祖谷山絵巻写真 1点 山川出版社

7. 資料の提供

●動物

DNA 解析用ハナゴンドウ筋肉 1点 日本鯨類研究所
 徳島県立博物館収蔵滋賀県産魚類標本データ 1式 多賀町立博物館
 徳島県立博物館収蔵滋賀県産ハリヨ標本データ 3点 多賀町立博物館

DNA 解析用ドジョウ 5点 愛媛県農林水産研究所水産研究センター

8. 資料の交換

研究や展示、普及といった様々な活動に活用するために国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。

植物標本については、現在、東北大学、北海道大学、福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学と定期的な標本交換を行っている（本章の「3. 寄贈資料」および「7. 資料の提供」を参照）。

9. 館蔵資料数

平成22年3月末日現在の分野別収蔵資料数は下表のとおり。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースを作成している。

10. 資料収集委員会

本委員会は、博物館が収蔵する資料の適正な購入を図るために購入予定資料について審査する目的で設置されている。これまで委員は、徳島県立博物館資料収集委員会設置要綱に基づき、学識経験者の中から常任委員5名および必要に応じて特別委員3名以内が教育長によって委嘱されてきた。しかし、このたび、要綱が改正され、常任委員は置かずに対象となる資料に応じてその都度5名以内を教育長が委嘱することとなった（平成22年1月8日施行）。

21年度は、購入資料はなく、委員会は開催していない。

11. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中

●分野別収蔵資料数（平成22年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実 物	レ プ リ カ	模 型 ・ 模 写	文 献
動物(脊椎)	22,758	22,684	55	13	6
（無脊椎）	38,288	38,226	0	58	4
（昆 虫）	189,466	189,049	0	7	410
植 物	190,686	190,336	61	8	281
地 学	8,618	8,520	96	2	0
考 古	5,601	5,456	73	13	59
歴 史	10,716	9,928	26	4	758
民 俗	13,251	13,241	5	5	0
美術工芸	9,757	9,748	0	4	5
合 計	489,141	487,188	316	114	1,523

心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●図書冊数（データベース登録数による）

12,713冊（うち平成21年度分 寄贈図書195冊、購入図書112冊）

●購入雑誌

- ・自然史系（18タイトル）：科学、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、Cladistics, Trends in Ecology and Evolution, American Journal of Botany, Blumea, Botany, International Journal of Plant Sciences, Kew Bulletin, Systematic Botany, Journal of Paleontology, Paleobiology, Lethaia
- ・人文系（30タイトル）：美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、文化人類学、日本の美術、日本歴史、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、史林、史学雑誌、ミュゼ、民具研究、人文地理
- ・その他（1タイトル）：博物館研究

●当館刊行物の定期発送先（平成21年3月末現在）

博物館ニュース	1,468カ所
博物館年報	460カ所
研究報告（国内）	560カ所
（国外）	145カ所
展示解説	231カ所
企画展図録（自然）	145カ所
（人文）	251カ所

12. 資料の保存

●資料の燻蒸

害虫やカビは資料を劣化させる原因となる。そこで収集した資料や貸し出し後返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では資料の形態や量などによって、次の(1)~(3)の3種類の燻蒸を行って来た。

(1) 減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130cm×よこ120cm×奥行140cm（約2.3m³）である。

17年1月からはこれまでの燻蒸剤に代わって酸化エチレン製剤を使用している。

21年度は、常圧燻蒸庫での燻蒸を最大限に活用したため、減圧燻蒸装置による燻蒸は1回も行わなかった。

(2) 常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫（24時間空調）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は床面積20m²×高さ3m（約60m³）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。

17年1月からはこれまでの燻蒸剤に代わって酸化エチレン製剤を使用している。

21年度は、収蔵資料と徳島県立鳥居記念博物館から移転した資料の燻蒸処理のため、4回の常圧燻蒸庫での燻蒸を行った。

(3) 収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもなつて、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

前回は、20年度に生物収蔵庫、歴史民俗収蔵庫（特別収蔵庫1・2、馴化室を含む）において、酸化エチレン製剤の燻蒸剤を使用した全室密閉燻蒸を行ったため、21年度は行っていない。

次回の実施は23年度の予定である。

●常設展示室における害虫の発生と対策

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間でないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。実際これまでも、害虫の発生が確認されている。

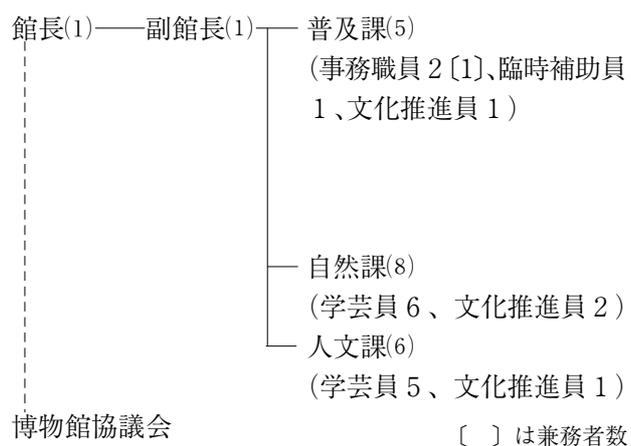
20年度に、以前にも発生が確認された部門展示室のケース内の植物標本等でタバコシバンムシの発生を確認した。これらの資料の燻蒸を行うとともに、当該ケース内に比較的毒性の低い忌避剤等を設置し経過を観察した結果、21年度は、わずかな発生が見られただけに留まったため、引き続き経過を観察することとした。

VII マネージメント

1. 組織・職員

文化推進員 梅岡 裕美

(1) 組織図 (平成22年5月1日現在)



(2) 職員名簿 (平成22年5月1日現在)

館長 大原 賢二
副館長 高島 芳弘

〈普及課〉

普及課長 森 稔
課長補佐 田村 恭子
(県立二十一世紀館課長補佐本務)

主任 向原 敬夫
臨時補助員 永田 有美
文化推進員 竹村 雅子

〈自然課〉

自然課長 佐藤 陽一 (動物)
専門学芸員 小川 誠 (植物)
〃 中尾 賢一 (地学)
主任 茨木 靖 (植物)
主任学芸員 辻野 泰之 (地学)
〃 山田 量崇 (動物)

文化推進員 三木田友紀
〃 騎馬 康子

〈人文課〉

人文課長 長谷川賢二 (歴史)
専門学芸員 大橋 俊雄 (美術工芸)
〃 魚島 純一 (考古・保存科学)
主任 庄武 憲子 (民俗)
〃 磯本 宏紀 (民俗)

(3) 人事異動

〈平成22年4月1日付、カッコ内は前職〉

転入：森 稔 普及課長

(阿南第一中学校主幹教諭)

昇格：長谷川賢二 人文課長 (専門学芸員)

磯本 宏紀 主任 (学芸員)

〈教育委員会文化の森振興総局の兼務〉

部長 (博物館担当) 大原 賢二

副部長 (博物館担当) 高島 芳弘

(4) 平成21年度非常勤・臨時職員

●臨時補助員

滝本 利那 (平成21.5.1～22.3.31)

●文化推進員 (非常勤特別職)

小川 裕加 (平成20.5.1～22.3.31)

近藤さえ子 (平成19.4.1～22.3.31)

三木田友紀 (平成20.4.1～)

武田美千代 (平成19.4.1～平成22.3.31)

2. 予算

2月現計予算額 (2月補正後の予算額) を下記に示す。

●平成21年度博物館費 (2月現計予算額) (単位：千円)

21年度予算	管理運営	展覧事業	調査研究	収集保存	普及教育
35,264	12,697	10,693	4,230	5,576	2,068

3. 博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

21年度は協議会を1回開催した。

●21年度博物館協議会

日時：平成21年9月18日(金) 10:00～12:00

会場：博物館講座室

議事 (1) 平成21年度事業の実施状況について

- (2) 平成22年度事業計画について
 (3) 中期活動目標について

●徳島県立博物館協議会委員名簿

(平成22年3月31日現在)

区 分	氏 名	役 職 等
学校教育	下川 純代	県小学校教育研究会理科部会三好郡理事（落合小学校長）
	土岐 昭典	県中学校社会科教育研究会会長（藍住東中学校長）
	結城 孝典	県高等学校教育研究会地歴学会副会長（脇町高等学校教頭）
社会教育	吉田 和人	徳島県立佐那河内村いきものふれあいの里館長
	坂本真理子	有限会社環境とまちづくり主任学芸員
	町田 哲 (副会長)	鳴門教育大学大学院准教授
学識経験	玉有 繁 (会長)	徳島文理大学教授
	佐野佳代子	四国放送（株）報道制作局映像管理部部長職
	野水 祥子	青年海外協力協会会員
	松島真由美	八万小学校 PTA 本部役員

4. 視察等博物館関係来訪者

- 5月9日 高知大学教授 近藤康生氏
 5月22日 明治大学博物館友の会
 6月20日 国立歴史民俗博物館名誉教授
 宇田川武久氏
 9月11日 品川区文化財審議委員 9名
 9月18日 中四国地区公立文化施設協議会幹事会
 10名
 12月11日 熊本県地域振興部文化企画課博物館プロジェクト班 守嶋正照氏、前田哲弥氏
 3月12日 中国社会科学院考古研究所
 研究員 董 新林氏
 東北学院大学教授 佐川正敏氏

VIII 中期活動目標と自己点検・評価

1. 中期活動目標（平成21年9月18日策定）

近年、生涯学習社会の進展など、博物館をとりまく状況は急速に変化してきている。これまでの資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきた。その一方で財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、および公的施設の運営の見直しなども進められるようになってきた。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成16～20年度の5年間に推進すべき活動の目標を、第1期中期活動目標(以下、第1期目標)として定め、点検・評価をおこないながら事業の改善と活性化をはかってきた。平成20年度をもって第1期目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえながら第2期目標（平成21～25年度）を策定した。

(1) 第1期中期活動目標の総括

第1期目標にもとづいて活動を進めたことにより、事業の目標が明確に可視化され、達成度が客観的に示され、経年的な傾向から将来を予測できるようになった。さらに、それらのデータを考察することで課題や問題点が明らかにされるようになり、このような情報の共有が館員の意識改革を促すきっかけとなった。そして、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきた。

このように、第1期目標には博物館活動の改善・活性化に一定の成果があったと考えられ、その成果は年報第14～18号において公表した。

(2) 第2期中期活動目標の策定の経緯と目的

第1期目標にもとづく活動が終わる平成20年度、博物館法の一部が改正され（平成20年6月）、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛りこまれた。これを踏まえ、よりよいものとするよう次の第2期目標の策定に向けて検討を進めた。その中で、第1期目標では、博物館の事業が県民にとってどのような意義があるのか、わかりやすく示されていなかったのではないかと考え、「県民とともに」を基調として、博物館の使命（存在意義や役割）をわかりやすい形で示したうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにした。これにより博物館の事業全体を見渡せるようになり、個々の事業の意義や目標、評価指標の理解も容易になるのではないかと考えた。

(3) 徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱 一県民とともに成長する博物館一

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく学びの場として、県民のみなさんとともに成長していきます。

「知」知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての情報を発信し、県民のみなさんとともに楽しく学ぶ場を創ります。

「探」地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、地域の魅力を見つけます。

「伝」未来にまもり伝える博物館

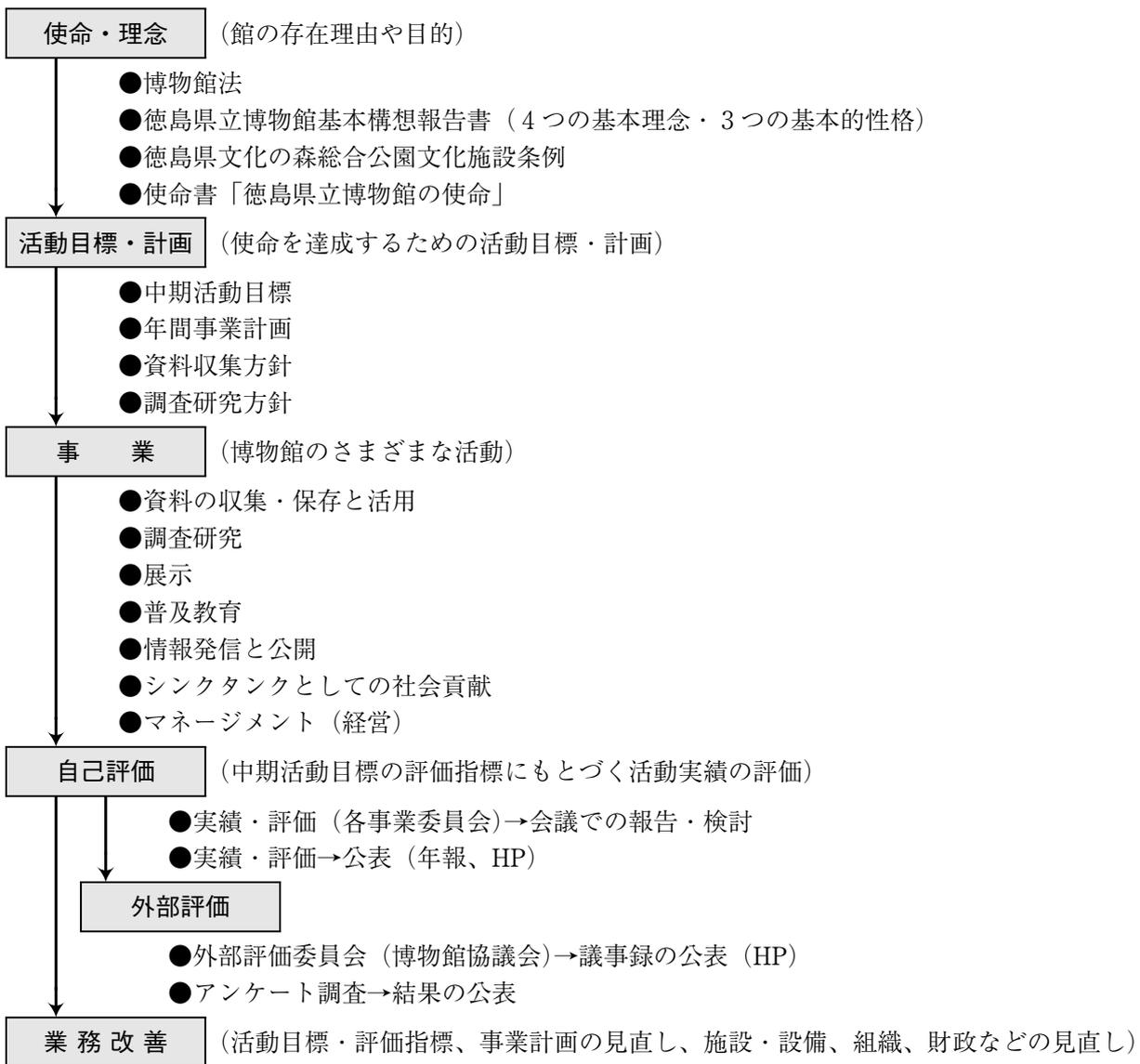
博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

博物館では、効率的な運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

(4) 第2期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後5年間（平成21～25年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものである。その推進にあたっては次の点に留意する。

- ・中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表する。
- ・それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進する。
- ・年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- ・活動実績および評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てる。
- ・活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改める。



中期活動目標の推進手順

(5) 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するためにおこなう事業は、次のとおり。

- ・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育、情報の発信と公開、およびシンクタンクとしての社会貢献
- ・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
- ・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
- ・効率的な運営：マネージメント（経営）

以下では、事業ごとに中期活動目標の項目、評価指標、および目標値を示す。

1. 展示

県民のみなさんが楽しく学べ、新しい発見や家族のふれあいのきっかけとなる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	40,000人/年	
		観覧者のリピーター率	過去1年以内の利用経験者の占める割合	40%	
		観覧者の満足度 新たな知識	アンケートにおいて新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	70%	
		他人への推薦	アンケートにおいて他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	70%	
		展示改善の実施状況	定期的に展示替えるコーナーを除く		
1-2 魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1回あたりの観覧者数	自然 7,000人 人文 3,500人	
		観覧者の満足度 新たな知識	アンケートにおいて新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	
		他人への推薦	アンケートにおいて他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	
		社会的評価	マスコミによる取材・報道数	5社/回	徳・朝・毎・読・N・四
		企画展の検討状況			
1-3 多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列、部門展示等の多様な展示の開催を進めます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	5回 (特1・部4)	常設展ロビーにおける資料紹介などの実績があれば算入する
		特別陳列観覧者数	1日あたりの観覧者数	200人	開催日数の長短の差が大きいため
		観覧者の満足度 新たな知識	アンケートにおいて新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
		他人への推薦	アンケートにおいて他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
		社会的評価	マスコミによる取材・報道数	5社/回	徳・朝・毎・読・N・四
		特別陳列等の検討状況			
1-4 他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	1回/年	
		移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者に含む展示の開催回数	2回/年	
		パッケージ展示の貸出数	他博物館等への貸出用展示メニューの利用件数。該当する展示が当館を主催者に含む場合は、移動展と見なす	1件/年	
1-5 展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況 展示解説等の実施状況	年間の刊行件数 展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
1-6 県民などとの協働による展示の推進	県民などの力を借りて、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			
1-7 常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	将来の常設展の全面リニューアルを目標に、館内での検討を進めるとともに、関係方面の理解が得られるよう努力を継続します。また、全面リニューアルの実現までの間、展示替えに努めます。	リニューアルに向けての進捗状況	リニューアルに向けての協議や施設調査等の取り組み		

50 中期活動目標と自己点検・評価

2. 普及教育

徳島の自然や歴史、文化について体験したり、楽しく学ぶことができる多様な学習機会を提供することにより、学校教育や県民の生涯学習を支援します。(使命:「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し、多様な学習機会を提供します。また、移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数	事後アンケートにおける満足回答者の割合	70回/年		
		普及行事参加者数		3,000人/年		
		参加者の満足度	他館との共催による普及行事(展示を除く)	満足した者の割合80%		移動展の展示解説1件も1回とする
		アウトリーチ活動数		5回/年		
2-2 学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出や出前授業、また博物館での授業や教員研修、職場体験、遠足等を受け入れ、学校教育を支援します。	支援事業案内パンフレット配布状況	出前授業等実施後の満足度	県内全教員(小・中・高)		
		出前授業件数		出前授業15件/年		
		資料貸出件数		資料貸出10件/年		
		館での授業件数				
		教員研修件数				
		職場体験件数				
		遠足件数				
2-3 普及的記事の執筆推進	身近な自然や歴史、文化に関する理解を手助けするため、ガイドブックの出版や、新聞・雑誌等への解説記事の執筆を進めます。	ガイドブック出版状況	年報「調査研究」本文に掲載されている一般著述数	1冊/年		
		普及的記事の執筆数		40件/年		
		博物館ニュース発行回数		4回/年		
		友の会会員数		友の会(個人・家族)の会員総数		400人/年
2-4 友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	個人会員	当該年度会員に占める前年度会員の割合	前年度会員の70%		
		家族会員				
		会員の継続率				
		個人会員	友の会行事実施回数	6回/年		括弧内に参加者数を並記
		家族会員				
		友の会行事実施回数	観覧者として入館した会員の割合	50%		
		展示利用率				
		個人会員	観覧者として入館した会員の延べ人数	会員数		
		家族会員				
		延べ利用者数				
個人会員	会報の発行回数	3回/年				
家族会員						
会報の発行回数						
2-5 県民参画型活動の推進	県民参画による行事や県民による普及行事支援等の活動を推進します。	公募ボランティア登録者数	県民による企画運営型行事の数			
		公募ボランティア活動回数				
		企画運営型行事等件数				
		普及行事支援件数				県民による普及行事支援の数

3. 情報の発信と公開

博物館の催し物案内等だけでなく、博物館活動に関するさまざまな情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、インターネットや様々なメディアを通じて積極的に情報を発信します。(使命:「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
3-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供できるよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数	30件/年	
		マスコミ取材報道件数	新たに新聞が取材し、報道した数		
		マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数	15件/年	
3-2 広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況	新たに開拓した広報手段		
		広報関係出版物発行状況			
		Eメールサービス登録件数	年度末時点のEメールサービスの登録件数	250人/年	
3-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HPアクセス数	トップページへのアクセス総数	32,000件/年	
		新規コンテンツ数	新たに作られたページの数	30ページ/年	
		内容の更新頻度	内容が更新された回数	月3回以上	

4. シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
4-1 レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、「何でも相談にのってもらえる博物館」との評価の定着を図ります。	レファレンス件数	レファレンス記録DBにおける記録件数	300件/年	
4-2 講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数 講演会等の受講者数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2出前授業件数」を参照
4-3 自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護など自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数 機関・団体等への協力状況	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
4-4 大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受諾、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受諾数 博物館実習生受入人数 学生・院生指導人数		20人/年	
4-5 学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数 学会等役員受託数 学会等事務局受託数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数 学会・研究会における役員・委員等の受託数 当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
4-6 博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進のために尽力します。	博物館関連団体委員等受託数 博物館関連団体加入数 連携事業等の実施数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数 当館が加入している博物館関連団体の数 移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

5. 調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を、県民のみならずおよび関連機関と連携しながらすすめ、新たな事実や価値の発見に努めます。また、成果を博物館のいろいろな活動へ還元するとともに、地域の魅力を引き出すよう努めます。（使命：「探」地域の魅力を探る博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
5-1 調査研究活動の推進	徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を積極的にすすめます。	課題調査実施状況 個別調査研究の実施状況	課題調査とは予算化された研究テーマ 課題調査以外の研究テーマの実施状況		
5-2 外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会、研究者との共同研究を積極的にすすめます。	共同研究件数 共同研究プロジェクト件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数 上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	10件/年 3件/年	人的・予算的規模の大小は問わない 科研費プロジェクトの研究分担を含む
5-3 県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみならずが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数		2件/年	
5-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的および民間の研究助成金等を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数 民間の研究助成金の申請・採択件数	科学研究費補助金など公的機関による競争的研究資金	申請6件・採択1件	
5-5 調査研究成果の公表	博物館の調査研究の成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じ公表します。	学術的著述数 学会・研究会での発表件数 マスコミへの資料提供件数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数 学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数 3-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	24本/年（査読付き4本/年） 24件/年 2件/年	学芸員数×年2本 学芸員数×年2回

6. 資料の収集・保存と活用

徳島と徳島に係わりのある地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみならずの協力のもと、様々な手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者、マスコミなどへ積極的に貸し出しや提供をはかり、様々な形で活用します。（使命：「伝」未来にまもり伝える博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
収集					
6-1 継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数 新規資料増加点数 採集資料件数 購入資料件数 寄贈資料件数		H25年度末で512,000点 6,000点/年 20件/年 3件/年 80件/年	H20年度末現在で481,981点、H23に50万点超の予定 H14~20年度の平均増加点数5,537点から H16~20年度の平均16.6件から H17年度以降0件 H14~20年度の平均82.1件、ここ5年間は89.4件
6-2 寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託の受け入れを促進します。	寄託資料件数 新規寄託件数		3件/年	H20年度末現在で62件 H14~20年度の平均は7.9件、ただし、ここ5年間の平均は3.0件

52 中期活動目標と自己点検・評価

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
保存					
6-3 文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実に努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数（雑誌類を除く）		H16～20年度の購入の平均137.0冊
		新規受入図書冊数	購入・寄贈図書数（雑誌類を除く）		
		購入雑誌タイトル数			
6-4 収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備をはかります。	収蔵資料 DB 登録率	(DB 登録点数/収蔵資料点数) × 100	50%	
6-5 資料の安全な保存	収蔵庫や展示室の点検や資料の燻蒸等により、収蔵資料の安全な保存を図ります。	収蔵庫点検回数	収蔵庫あるいは収蔵庫内区画あたりの点検回数	6回/年	収蔵庫あるいは区画ごとにチェックリストを定め実施
6-6 常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室での安全な資料の保存環境を確保するため、空調に除湿機能を付加するよう関係方面に働きかけます。	資料保存環境の状況			
6-7 収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況			
活用					
6-8 展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進をはかります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
		常設展 常設展以外の展示			
6-9 貸し出し等の促進	貸出しや提供などによる収蔵資料の活用をはかります。	資料特別利用等件数	学校貸出し（2-2学校への資料貸出件数を参照）を除く	60件/年	H16～20年度の平均64.2件

7. マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。（使命：効率的な運営）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
7-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者や障害者にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。	点検・改善の状況			
7-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況 県外利用者の割合			
7-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事業件数 ボランティア活動参加者数 運営支援組織の検討状況	参加者の延べ人数		
7-4 設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県及び県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況 外部資金獲得数			
7-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施状況 危機管理体制の整備状況			
7-6 職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割及び当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。				
7-7 博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立し、博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況 自己点検評価の状況 外部評価の状況			

2. 21年度実績と自己点検・評価

(1) 展示

●中期活動目標及び21年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	19年度実績	20年度実績	21年度実績
1-1	常設展の改善・充実	常設展観覧者数	40,000人/年	40,632人	37,171人	42,429人
		観覧者のリピーター率	40%	49.5% (7～8月)	53.9% (8月)	47% (10～12月)
		観覧者の満足度 新たな知識 他人への推薦	80%/回 80%/回	79.9% (7～8月)	73.4% (8月)	86% (10～12月) 90% (10～12月)
		展示改善の実施状況		1件	2件 (チャレンジコーナー、ロビー)	3件 (チャレンジコーナー、ロビー、 リフレッシュ)
1-2	多様なテーマの企画展 の計画的開催	企画展観覧者数	自然 7,000人 人文 3,500人	38,262人(3回)	21,207人(3回)	15,476人(シーラ カンス), 3,681人 (貫魚)
		観覧者の満足度 新たな知識 他人への推薦	80%/回 80%/回	80.2% (ミネラル ズ)、81.7% (考 古速報展)	77.6% (郷土)、 93.4% (香り) ※82.5% (空)	92% (シーラカ ンス)、88% (貫魚) 83% (シーラカ ンス)、75% (貫魚)
		社会的評価	5社/回			シーラカンス6・ 貫魚1
		企画展の検討状況		21年度以降の計画 の協議	22年度以降の計画 の協議	23年度以降の計画 の協議
1-3	多様な展示の開催促進	特別陳列等の開催回 数	5回 (特1・部4)	16回 (特2・部5・ト8・他1)	8回 (特2・部5・ト1)	13回 (特4・部7・ト1・他1)
		特別陳列観覧者数	200人/日	5,168人(特陳)	7,517人(特陳)	258.1人(蝶357.3・ 八万134.7・マン ダラ298.1)
		観覧者の満足度 新たな知識 他人への推薦	80%/回 80%/回			
		社会的評価	5社/回			蝶3・八万1・マ ンダラ3
		特別陳列等の検討状 況				23年度以降の計画 の協議
1-4	他機関との共同展示等 の促進	文化の森内での共催 展の開催回数				2回(阿波人形浄 瑠璃月間ジョー リ100公演、スタ ジオジブリ・レイ アウト展)
		移動展等の実施状況	1回/年	5回(移動展＝牟 岐・阿南・藍住・ 東かがわ、共催展 ＝徳島城)	4回(移動展＝兵 庫・東かがわ・美 波・阿南)	5回(移動展＝藍 の館・東かがわ・ 海陽・阿波公方・ 美郷ほたる)
		パッケージ展示の貸 出数	1件/年	1回(阿波囃)	2回 (北島町教委・あいぽと)	0回

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	19年度実績	20年度実績	21年度実績
1-5	展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録1＋パンフ2	企画展図録1＋パンフ1	企画展図録1
		展示解説等の実施状況		企画展解説 6回 特陳解説 1回 部門展示解説 3回 クイズラリー(第2・4土) 24回 びっくり箱を使った解説 7回 常設展示室活用イベント 1回 (当初計画外分。全体では3回) セルフガイドの設置	企画展解説 10回 部門展示解説 5回 クイズラリー(第2・4土) 24回 びっくり箱等による解説 3回 常設展示室活用イベント 1回 (当初計画外分。全体では3回) セルフガイドの設置 音声ガイドの開発	企画展解説 5回 企画展スペシャルイベント 4回 部門展示解説 7回 びっくり箱等による解説 1回 移動展解説 2回 クイズラリー(第2・4土) 24回 常設展示室活用イベント 1回 セルフガイドの設置
1-6	県民などとの協働による展示の推進	協働の実施状況				「八万町の昔を探ろう」 「浜辺の植物」 「貫魚」学校教育と連携
1-7	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	リニューアルに向けての進捗状況		先進館調査1館 (鳥根県古代出雲博)基本計画(案)の改訂	先進館調査1館 (沖縄県博)リフレッシュ事業の企画	先進館調査3館 (九州国立博物館・長崎歴史文化博物館・大阪市立自然史博物館) リフレッシュ事業の一部推進

●自己点検・評価

(1-1)

- ・常設展観覧者数は42,429人で、昨年度および目標を上回った(前年度比5,250人増)。昨年度低迷した遠足利用が回復したことなどが影響していると考えられる。土曜・日曜日に県外からの来館者が有意に多いという事実は確認できなかったため、高速道路および本四架橋1,000円効果はあったにしても大きくないと考えられる。県外からの夏の観覧者はむしろ徳島市の阿波踊り期間(8月12日(水)～8月15日(土))に集中している。したがって、夏休み期間の県外からの来館者の約1/4は、曜日とは無関係に、阿波踊りのついでに見に来ることが多いらしい。
- ・今年度の利用状況調査(10月～12月実施)では、リピーター率は47%であった。1年以内の利用経験のある「狭義のリピーター」は30%となっている。常設展をこれまでに見た回数と過去1年以内の利用回数との関連をみると、常設展を多く観覧している人の多くは、単に累計で多いだけではなく、かなりの高頻度で来ていることがわかった。居住地および感想をみると、このタイプの利用者の多くはクイズラリーの常連と思われる。
- ・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答が86%で目標値を上回ったが、企画展(92%、88%)と比較するとその比率は低い。常設展示は変化が少ないので、ある意味で当然の結果と思われる。
- ・常設展をほかの人に見るようすすめたいと「思う」観覧者は90%で、目標値を上回った。この値は企画展(83%、75%)と比較すると際だって高い。誰にでも向く、と受け止められている可能性が高い。
- ・観覧者の満足度のうち「とてもよい」と「よい」の比率は、県内在住者と県外在住者の間で統計的に違いが見られ、県外在住者の方が「とてもよい」と回答する割合が高い。併せて常設展の評価と観覧回数の関連性を調べたところ、観覧回数が増えるにつれて「たいへんよい」が減り、「よい」が増える傾向がある。感想として、展示に関するさまざまな要望(展示に変化がほしい、〇〇を取り上げてほしい、など)が書かれていることが多い。「よい」とした人は、常設展を評価しているものが見慣れており、さまざまな要望も持っている層が多く含まれていると考えられる。
- ・「チャレンジコーナー」(体験コーナー)を充実させた。アンケートを見ると、小学生やその親の世代で無回答

が少なく、高齢者の層では無回答が多い傾向がみられる。子どもや親の目を惹きつけているという意味では成功していると思われる。

(1-2)

- ・観覧者は「シーラカンス展」で15,476人、「守住貫魚」で3,681人であり、ともに目標値を上回った。「シーラカンス展」の来館者数は、春の企画展としては平成16年度実施の「サメの世界」に次ぐ人数となった。
- ・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答は、「シーラカンス展」と「守住貫魚」の両方で目標値を上回った。とくにシーラカンス展では、透明な床の下に化石を置くなどの斬新な展示手法や、詳しい解説ビデオが好評だった。
- ・この展示をほかの人に見るようすすめたいと「思う」との回答は、「シーラカンス展」で目標値を上回ったが、「守住貫魚」ではやや下回った。
- ・本年度より、県内主要マスコミ6社のうち、展示を報道した社数として「社会的評価」を算出した。「シーラカンス展」では県内主要マスコミのすべてで報道された。「守住貫魚」は徳島新聞のみにとどまったが、鳴潮欄やコラムでたびたびとりあげられた。
- ・これまで、どのマスコミも企画展や特別陳列はほぼ同様に取材・報道していると漠然と考えていたが、今回の調査によって、実際には必ずしもそうではないことが明らかになった。
- ・通常、専門性の高い美術・歴史系展示の場合、主要な観覧者層は高齢者であり、小学生などは少ない。「守住貫魚」では小学生の観覧者を増やすために、「かんぎょ先生」のイラストを多用したり、顔出しパネルの設置などを行ったほか、(1-5)で示すスペシャルイベントも行った。アンケートの回答者を見ると、高齢者と並んで小学生以下およびその親の世代の回答者が多いので、小学生向けの取り組みは、ある程度の効果があったと思われる。
- ・テーマとタイミングがうまくマッチすれば、企画展観覧者の大量獲得が可能になるが、容易ではない。したがって、娯楽性、新規性、学術性等の諸要素を取り合わせた計画的運営に努めるしかないが、専門性の高いテーマの場合、広く関心を引くことができるよう広報や展示内容の工夫が今後も必要である。

(1-3)

- ・特別陳列等の開催回数は13回（そのうち1回は近代美術館ギャラリーを会場とする文化の森人権啓発展）で、目標を大きく上回った。
- ・平成20年度から、多様な資料を公開していくことなどを目的として、部門展示(人文)の展示替えに自然史のテーマを組み込んでいる。実績としては2回行った（動物2回）。
- ・一時的に撤去していたトピックコーナーを再開し、1件の展示を行った。
- ・特別陳列の観覧者数は、「蝶に魅せられて」と「マンダラ」で目標値を上回ったが、「八万町の昔」では下回った。
- ・今年度の特別陳列ではアンケートは採らなかつたため、満足度の算出も行っていない。
- ・「社会的評価」はどの特別陳列でも目標値に達しなかつた。「企画展」より「特別陳列」の方がマスコミの注目度が低い可能性はある。また、特に低かつた「八万町の昔」は、平成20年度に実施した調査や出版の段階ですすでに何度も報道されたため、マスコミとしてももはや新味が感じられなかつたのかもしれない。

(1-4)

- ・移動展は目標を大きく上回った。海陽町立博物館、阿南市立阿波公方民俗資料館、東かがわ市歴史民俗資料館の3館での移動展が定例化している。
- ・東かがわ市歴史民俗資料館への移動展の返礼として、部門展示室で交流展示「阿波街道－讃岐と阿波を結ぶ道－」が実施された。
- ・パッケージ資料の貸出実績は無かつた。パッケージ資料の貸出先が展示資料に関する知識や展示技術を十分に持たない場合が多いため、貸出としての要望を受けても、実際には当館の学芸員が先方の博物館に資料の設置や解説に行くなど、単に貸出だけでは済まない事例がほとんどである。そこでこのような場合、徳島県立博物館としては移動展として位置づけて行うこととなる。その結果として、移動展が増えてパッケージ資料の貸出事例が少数にとどまっている。

(1-5)

- ・毎年恒例となっている、年間計画外の常設展活用イベントもボランティアとの協働により行われた。「びっくり箱」等の活用は1回であり、低調だった。

・企画展でも、学芸員による数回の展示解説を行った。また、関連行事として、「シーラカンス展」では「シーラカンスのペーパークラフトをつくろう」を、「守住貫魚」ではスペシャルイベント「かんぎょ先生のクイズにチャレンジ!」を行った。

(1-6)

「生誕200年守住貫魚」では、学校教育と展示の連携が試みられ、一定の成果が得られた。特別陳列「八万町の昔を探ろう」では、当館、友の会、地元小学校、町内会等が連携して行った調査（年報第18号参照）の成果を展示した。移動展「浜辺の植物」の一部（海流散布種子）で、県民と協働して得られた成果を展示した。

(1-7)

・2010年度に集中的な改善（リフレッシュ）を行う予定だったが、2010年度は開館20周年で、多くのイベントによりきわめて多忙化することが予想された。そこで予定を早めて、工事などの予算的措置が必要な改善については2009年度末に行った。残る経常予算で可能な展示更新については、2010年度中に行う予定である。

(2) 普及教育

●中期活動目標及び21年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の定義	目標値	19年度実績	20年度実績	21年度実績
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数		70回/年	61回 (中止5回)	80回	88回
	普及行事参加者数		3,000人/年	5,140人	6,041人	8,535人
	参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合	満足した者の割合80%	93.6% (15行事)	92.6% (11行事)	89.6% (11行事)
	アウトリーチ活動数	他館との共催による普及行事(展示を除く)	5回/年	移動講座4回	4回	4回
2-2 学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況		県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)
	出前授業件数		出前授業15件/年	15件	27件	39件
	資料貸出件数		資料貸出10件/年	7件	9件	12件
	館での授業件数			7件	9件	10件
	教員研修件数			7件	6件	3件
	職場体験件数			2件	3件	3件
	遠足件数				107(園)校	97(園)校
教員・生徒の満足度	出前授業等実施後の満足度	80%	93%	92%	97.8% (25行事)	
2-3 普及的記事の執筆推進	ガイドブック出版状況		1冊/年	0冊	0冊	0冊
	普及的記事の執筆数	年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数	40件/年	34件	71件	68件
	博物館ニュース発行回数		4回/年	4回	4回	4回

中期活動目標の項目		評価指標	指標の定義	目標値	19年度実績	20年度実績	21年度実績
2-4	友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	400人/年	404人	392人	294人
		個人会員			115人	113人	94人
		家族会員			289人(74組)	279人(76組)	200人(57組)
		会員の継続率	当該年度会員に占める前年度会員の割合	前年度会員の70%	72	70%	64%
		個人会員			69	65%	62%
		家族会員			74	74%	66%
		友の会行事実施回数		6回/年	9回(226人)	11回(393人)	8回(190人)
		展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%	54%	48%	65%
		個人会員			43%	37%	60%
		家族会員			64%	58%	70%
		延べ利用者数	観覧者として入館した会員の延べ人数	会員数	399	345人	385人
		個人会員			121人	142人	181人
		家族会員			278人	202人	204人
		会報の発行回数	3回/年	3回	3回	3回	
2-5	県民参画型活動の推進	公募ボランティア登録者数				12人	16人
		公募ボランティア活動回数					8回
		企画運営型行事等件数	県民による企画運営型行事の数			3回	3回
		普及行事支援件数	県民による普及行事支援の数				12件

●自己点検・評価

(2-1)

- ・普及行事の実施回数は、前年の80回から88回に増えた。参加数は2,494人増加した。
- ・普及行事参加者数8,535人のうち、こどもの日および文化の日フェスティバルとボランティアが中心になって行った博物館Vキングでは、それぞれ2,503人、1,352人、2,496人と参加者数が多い。特に、博物館Vキングはボランティアスタッフと一緒につくる内容で好評を博しており、年々増加傾向にある。
- ・普及行事への参加者の満足度は、11行事で行ったアンケート結果からは89.6%と好評であった。

(2-2)

- ・出前授業数は前年より12件増え、39件であった。その内訳は、徳島市内の小学校が15件と阿南市内の小学校が7件と2市で過半数を占めている。その他の学校については、20年度から遠方の小学校が増えてきており、県内への広がりが感じられる。出前授業の増加の理由として、学習指導要領等により博物館の積極的な連携・協力が明記され、校長会や教科部会等様々な場において利用の必要性や連携の必要性が紹介されていること、小学校を中心に情報が広まり人気が高まってきていること等が挙げられる。出前授業の内容で多かったのは、人文分野においては「火おこし」や「昔の暮らし」に関するもの、自然分野においては「昆虫」や「水生生物」また「地層」に関するものである。
- ・出前授業については、教員への事後アンケートを実施している。(アンケート項目：①事前の打ち合わせ②用具や教材の準備③学芸員の解説や演示④児童生徒の興味関心の高まり⑤ねらいの達成度⑥総合評価)それによると、全ての評価項目において90%以上であり、「総合評価」においては97.4%の高評価を得ている。

- ・前年度のアンケートでは「事前の打ち合わせ」「ねらいの達成度」の評価がそれぞれ82.7%、88%と、総合評価の94.4%に対し、低い評価であった。これは、前年度のアンケートの質問の仕方により、学芸員への評価としてではなく、教師自身の反省を含めた評価として捉えられた結果と考えられる。今回は「学芸員への評価」として明記してアンケートを実施した。
- ・資料貸し出し等、事業件数が増えていないのは、博物館が学校教育支援事業を実施していることを知らない教職員が多いことが原因の一つと推察される。そこで、本年も学校向けのパンフレットを年度当初に各学校の教員全員に配布した。また、資料貸し出しが増えないのは、資料をもちいての出前授業が増えていることに一因があるかもしれない。
- ・「館での授業」「職場体験」の実績は、前年度とあまり変わらないが、「遠足」については35件多くなった。

(2-3)

普及的記事の執筆数については、目標値を大きく上回っており、今後も機会あるごとに執筆を心がけていきたい。また、20年度から「こども新聞（徳島新聞夕刊）」の連載に協力しており、21年度は32件となっている。

(2-4)

- ・友の会では、この3年間で会員数が404人から392人へ、そして294人へと減少し、継続率もやや減少してきている。家族会員の減少が大きな要因と考えられる。
- ・会員が自主的に行事を立案・企画し、継続的に実施できているものもある。
- ・会員の展示利用率（会員の中で1回以上利用した者の割合）は65%であり前年より20%ほど増えており、のべ利用数もかなり多くなっている。

(2-5)

公募ボランティアは継続10名に新規6名が加わり、16名のメンバーが中心となって1年間の活動を行った。またイベント当日のボランティアとして、鳴門教育大学から5名、徳島文理大学から11名、阿南工業高等専門学校から4名の学生の協力を得た。また、普及行事への協力として10回の普及行事について、学芸員の補助として、延べ22名のボランティアの協力を得た。

(3) 情報の発信と公開

●中期活動目標及び21年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	19年度実績	20年度実績	21年度実績
3-1	積極的な資料提供の推進	資料提供件数	30件/年	28件	27件	19件
		マスコミ取材報道件数		86件	101件	95件
3-2	様々なメディアの活用による広報活動の強化	広報手段の新規開拓状況		ちらしやポスター配布場所の新規開拓	ちらしやポスター配布場所の新規開拓	
		マスコミ出演等件数	15件/年	15件	10件	6件
		Eメールサービス登録件数	250人/年	265人	286人	293人
3-3	インターネットによる情報発信の推進	HPアクセス数	32,000件/年	47,500件	49,300件	44,000件
		新規コンテンツ数	30ページ/年	507ページ/年	371ページ/年	201ページ/年
		内容の更新頻度	月3回以上	3.6回/月 (43回/年)	2回/月 (24回/年)	2.9回/月 (35回/年)

●自己点検・評価

(3-1)

- ・資料提供件数は19件と目標の30件/年に達しておらず、前年より大幅に減少している。博物館からの情報発信として、マスコミに対する資料提供は効果的であるので、今後とも積極的に続けていく必要がある。
- ・マスコミ取材・報道件数については、新聞のみの数であるが95件となっており、活発な取材や報道が行われていることが伺える。

(3-2)

- ・広報手段の新規開拓としては、今年度は行なわなかった。限られた予算内で効果的な広報媒体の開発の改善努力を今後とも続けていくことが望まれる。
- ・マスコミ出演等件数は前年よりさらに減少し、目標値を下回った。
- ・電子メールサービス登録件数は昨年より微増し、目標値を上回った。

(3-3)

- ・インターネットによる情報発信ではホームページのアクセス数や新規コンテンツ数は昨年より減少したが目標値は上回っている。一方、内容の更新頻度は目標値を若干下回った。

(4) シンクタンク

●中期活動目標及び実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	19年度実績	20年度実績	21年度実績
4-1	レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	300件/年	302	364	384
4-2	講師派遣等の推進	講師派遣等件数		26	22	22
		講演会等の受講者数				
4-3	自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数		29	31	30
		機関・団体等への協力状況				
4-4	大学教育への寄与	非常勤講師受諾数		7	5	3
		博物館実習生受入人数	20人/年	21 (8 大学)	12 (6 大学)	14 (10大学)
		学生・院生指導人数				
4-5	学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		14	13	16
		学会等役員受託数		4	2	2
		学会等事務局受託数		3	4	3
4-6	博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受諾数		6	4	6
		博物館関連団体加入数		5	5	6
		連携事業等の実施数		9	7	9
				移動展 4 回、共催展 1 回、四国地区博物館協議会・日本博物館協会四国支部講演会 徳島県博物館協議会講演会、研修会、先進地博物館施設調査	移動展 4 回、徳島県博物館協議会講演会、研修会、先進地博物館施設調査	移動展 6 回、徳島県博物館協議会講演会、研修会、先進地博物館施設調査

●自己点検・評価

(4-1)

- ・レファレンス件数は昨年度に比べて20件増加し、目標値300件をさらに上回った。ただし、電話での問い合わせなど記録として残されていないものもあるため、実数はこれより多い。分野別の件数では、今年度も地学がもっとも多く84件である。次いで、動物（脊椎）78件、動物（昆虫）62件、歴史50件であった。以上の4分野で全体の71%を占めていた（p.23参照）。

(4-2)

- ・今年度の講師派遣は、22件で、昨年度と変化ない。ただし、昨年度と同様に、特定分野に集中する傾向が顕著で、歴史分野が14件、全体の64%を占めた。

・派遣先の受講者数については今年度も計測できなかった。

(4-3)

・各種の委員会などの委員等の受諾数は30件と昨年度より1件減少した。これらのうち23件(77%)は動物・植物分野における自然環境の評価に係わるもので占められており、県や国の公共事業における環境配慮や希少野生生物の保全対策事業に対応している。

(4-4)

・今年度の大学における非常勤講師の受諾数は昨年度より2件減少した。
 ・今年度の博物館実習生の受入人数は14人で、昨年度に比べて2人増加したが、目標値の20人を6人下回った。
 ・学生や院生の指導のための受入人数については、今のところとくに目標値は定めていない。大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。今年度は、受け入れはなかった。

(4-5)

・今年度の学会や研究会の当館における開催数は昨年度より3件増加した。これらには毎月例会が開催されるみどりクラブが含まれている。目標値は定めていない。
 ・学会等役員受託数は昨年度と変化なかった。目標値は定めていない。
 ・学会等の事務局受託数は昨年より1件減少した。目標値は定めていない。

(4-6)

・博物館関連団体の委員等受託数は昨年度より2件増加した。目標値は定めていない。
 ・博物館関連団体加入数は6件で、これらのうち1件は当館が事務局を引き受けている。目標値は定めていない。
 ・他館等との連携事業数は、昨年度より2件減少した。目標値は定めていない。移動展は6回と昨年より増加したほか、徳島県博物館協議会講演会および研修会を実施した。

(5) 調査研究

●中期活動目標及び21年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	19年度実績	20年度実績	21年度実績
5-1	調査研究活動の推進	課題調査実施状況		3件 (外部との共同2)	2件 (外部との共同1)	3件 (外部との共同2)
		個別調査研究の実施状況				
5-2	外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	10件/年	14件	13件	17件
		共同研究プロジェクト数	3件/年			2件/年
5-3	県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の実績	2件/年			3件/年
5-4	外部資金の獲得による調査研究事業の推進	科研費申請・採択数	申請6・採択1件/年	申請2・採択0 (継続1)	申請3・採択1	申請3・採択0 (継続1)
		民間研究助成金獲得状況		0件	0件	0件
5-5	調査研究成果の公表	学術論文数	22本/年 (査読付き4)	26本 (査読付き8)	30本 (査読付き5)	23本 (査読付き5)
		学会・研究会での発表件数	22回/年	28回	16回	15回
		マスコミへの資料提供件数	2件/年			1件/年

●自己点検・評価

(5-1)

・課題別、分野別に調査研究を実施し、それぞれ成果をえた。

(5-2)

- ・今年度は他機関等の研究者との共同研究数が急増し、目標値を大きく上回った。
- ・共同研究プロジェクトとは、予算的措置を伴う共同研究のことをさす。タンポポ分布調査および文部科学省科学研究補助金「山の寺」の2件がこれにあたるが、目標値3件に達しなかった。

(5-3)

- ・今年度は毎年継続的に行っている2件に加えて、平成21年3月から開始した「タンポポ分布調査」が本格化し、目標値を上回った。平成21年度実施の「八万町の昔を探ろう」は、調査研究活動としては終了しており、成果を特別陳列で紹介した。

(5-4)

- ・今年度は、文部科学省および日本学術振興会による科学研究費補助金(科研費)は3件応募があったものの、採択に至らなかった。1件が継続中である。民間の研究助成金の申請はなかった。
- ・徳島県立博物館のような小規模な組織の場合、科研費等の競争的資金の新規獲得は容易ではないと思われるが、これらの競争的資金や研究助成金等を獲得することによって、費用のかかる研究の開始・継続が可能となる。しかしこれまでのところ、申請のあった種目のほとんどが「若手研究(B)」(39歳以下の研究者が対象)であり、一般的な「基盤研究」の申請が無い状態が続いている。「基盤研究」の申請を増やす対策が必要である。
- ・研究課題についても、博物館の特性を生かした課題(たとえば分野の枠を越えた共同研究的なものや、博物館学に関連したものなど)を設定するなどの工夫が必要である。

(5-5)

- ・学術論文数は23本であり、19年度、20年度の実績より下回ったものの、目標値には達した。
- ・学会・研究会での発表は15件と少なく、目標値に達しなかった。
- ・マスコミへの資料提供件数は1件であり、目標値の2件に達しなかった。今後、積極的な対応が望まれる。

(6) 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標及び21年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	19年度実績	20年度実績	21年度実績
収集						
6-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数	H25年度末で 512,000点	478,394	481,981	489,141
		新規資料増加点数	6,000点/年	6,648	3,587	7,160
		採集資料件数	20件/年	17	28	19
		購入資料件数	3件/年	0	0	0
		寄贈資料件数	80件/年	86	76	90
6-2	寄託資料の受入の促進	寄託資料件数		62	62	62
		新規寄託件数	3件/年	5	1	1
6-3	文献資料の充実	図書冊数(雑誌類除く)				12,713
		新規受入図書冊数				307
		寄贈				195
		購入		145	110	112
		購入雑誌タイトル数		62	59	48

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	19年度実績	20年度実績	21年度実績
保存						
6-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料 DB 登録率	50%	49.2	49.6	49.7
6-5	資料の安全な保存	収蔵庫点件回数	6 回/年			
6-6	常設展示室の資料保存環境の改善	資料保存環境の状況				
6-7	収蔵スペースの確保	収蔵スペースの状況				
活用						
6-8	展覧における利用促進	展示利用点数				
		常設展				
		常設展以外の展示				
6-9	貸し出し等の促進	資料特別利用等件数	60件/年	71	85	51

●自己点検・評価

(6-1)

- ・収蔵資料点数は、前年度より7,160点増加し、目標値を1,160点上回った。1,000点以上増加した分野は、動物(無脊椎)、考古、および民俗の分野であった。このままの傾向で推移すれば、平成23年度には50万点に達する見込みである。
- ・採集資料件数は前年度より9件少なく、目標値より1件少なかった。
- ・購入資料件数は、平成17年度以降0件である。資料購入費としては100万円が計上されているが、執行の見込みは立っていない。
- ・寄贈資料件数は、前年度より14件多く、目標値を10件上回った。

(6-2)

- ・寄託資料件数は、寄託終了と新規がそれぞれ1件あったのみで件数に変化がなかった。新規寄託は目標値より2件少なかった。

(6-3)

- ・図書・雑誌については、予算などの状況にもよるので、特に目標値は定めていないが、博物館の重要な資料の一部であり、調査研究や展示、普及教育活動などの状況の表れでもあるので、評価指標として取り上げている。
- ・これまで、新規受入と書冊数として購入図書冊数のみ指標としてあげてきたが、今年度から総図書冊数と新規受入図書冊数の寄贈/購入の内訳で示すことになった。
- ・購入雑誌タイトル数は、平成19年度まで多少の増減はあったものの60件前後であったが、昨年度以降減少している。特に今年度は前年度より10件も減少した。これは予算削減によるものである。

(6-4)

- ・収蔵資料のデータベースへの登録率は、記録を取り始めた平成16年度には40.0%であったが、18年度から増加しはじめ19年度以降、目標値の50%にわずかに届かないレベルで推移している。

(6-5)

- ・収蔵庫あるいは収蔵庫内の区画ごとに資料の安全な保管状況を点検するためのチェックリストを作成を検討中である。これまで、収蔵庫内で作業を行ったときには適宜目視によるチェックは行っているほか、各所に害虫のトラップを仕掛け、常時監視している。

(6-6)

- ・常設展示室内の空調は温度設定のみ可能で、湿度のコントロールができない。また、近年は省エネルギー化のため、空調運転時間が減少しており、カビの発生が懸念される。さいわい、現時点ではカビの発生は確認されていない。

(6-7)

- ・資料の増加に伴い、収蔵スペースが減少してきている。収蔵スペースを確保するために、置き場所の変更や収納

の高密度化、収蔵ケース／容器などの工夫などが必要であるが、予算削減や人員削減により進んでいるとはいえない。

(6-8)

- ・今年度より、収蔵資料の活用状況の指標として、展示における利用の点数（常設展における利用と常設展以外の展示における利用）を盛り込んだ。ただし、新たにデータを取得する必要があるため、この指標の運用は来年度からとなる。

(6-9)

- ・収蔵資料活用の指標の一つとして、従来より資料特別利用等件数を設けている。これは他館への展示のための貸し出しや研究者向けの資料の貸し出し、マスコミや出版社への画像の提供などを含んでいる（学校への貸し出しは含んでいない。これについては[4]普及教育を参照のこと）。今年度は前年度より34件少なく、目標値より9件少なかった。

(7) マネージメント（経営）

●中期活動目標および21年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の定義	目標値	19年度実績	20年度実績	21年度実績
7-1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況					
7-2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況			常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
		県外利用者の割合			「ミネラルズ」7.0%、「発掘された日本列島2007」12.4%	「郷土の発見」6.0% 「香りの世界」7.5%	「シーラカンス展」18% 「守住貫魚展」7.3%
7-3	県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業件数			1回 (2/11)	3回(8/9,8/10,2/11)	12回(8/1,8/2,8/8,8/9,8/22,9/27,11/3,11/8,11/15,11/22,12/20,2/11)
		ボランティア活動参加者数	参加者の延べ人数		16人	12人+9人 (イベント開催日の参加)	22人
		運営支援組織の検討状況			文化庁芸術拠点形成事業「ヤングボランティアとの協働による体験キット開発事業」の実施	文化庁芸術拠点形成事業「『八万町の昔を探ろう』から地域をプロデュースするプロジェクト」の実施	文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業「阿波の先人を通じたふるさと学習プログラムの開発」の実施
7-4	設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館予算の状況			2月補正後 47,695千円	2月補正後 43,322千円	2月補正後 35,264千円
		外部資金獲得数					

中期活動目標の項目		評価指標	指標の定義	目標値	19年度実績	20年度実績	21年度実績
7-5	防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況			自衛消防隊総合訓練6月、12月；文化財防火デー；1月28日	自衛消防隊総合訓練6月、12月	自衛消防隊総合訓練6月、12月
		危機管理体制の整備状況					
7-6	職員の意識改革と資質の向上						
7-7	博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況					第2期の中期活動目標を策定する
		自己点検評価の状況			18年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載；自己点検・評価の再検討に着手	19年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載；自己点検・評価の再検討に着手	20年度事業と第1期5年間の事業自己点検・評価を年報、HPに掲載
		外部評価の状況			博物館協議会 9月21日	博物館協議会 9月26日	博物館協議会 9月18日

●自己点検・評価

(7-1)

・特段の取り組みは行われなかった。

(7-2)

・県外利用者の割合は、2つの企画展で調査した。ほぼ7%前後で推移しているが、シーラカンス展は18%と多くなっている。

(7-3)

・公募ボランティアや友の会会員などに、土器づくりなど博物館行事の補助をしてもらった。文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業として実施した「阿波の先人を通じたふるさと学習プログラムの開発」への参画も得た。

(7-4)

・厳しい財政状況を反映し、21年度の館運営予算は20年度より約8,000千円減少した。企画展開催経費の削減や、需用費などの執行保留が主なものである。毎年、前年度比10%削減するというシーリングは非常に厳しい。
・資料購入費100万円が計上されたが、執行保留のため資料購入はできず、2月補正予算で全額減額された。

(7-5)

・年2回の防災訓練は、3館合同で実施された。
・停電、盗難、けが人や病人の発生等に備えた防災マニュアルも整備していく必要がある。

(7-6、7-7)

・16年9月に策定した「徳島県立博物館の中期活動目標」に基づき、19年度事業の自己点検・評価を行い、16～20年度の第1期の活動の総括も併せて行った。その内容を年報やホームページに掲載した。また、9月の博物館協議会において討議いただいた（外部評価）。
・第2期中期活動目標を策定し、新たな目標に沿って活動を始めた。中期活動目標に基づく実践、自己点検・評価をきちんと行い、博物館活動の改善・活性化に結びつけるために、全職員がいま一層の意識統一を図ることが大切である。

Ⅸ 観覧者統計

平成14年度から小・中・高校生の土曜、日曜、祝日及び長期休業中は、常設展、企画展とも無料になったため、無料観覧者数が大きく増えている。そのために、13年度までの無料入館者とまったく同質の表示はできなくなった。累計表においてはすべての区分での入館者数を表示するのは困難であるため、13年度までの方式で表示したものである。

●平成21年度 博物館常設展観覧者数

(単位：人)

月	開館日数	有料観覧者											無料観覧者											観覧者総数					
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料観覧者計	学校教育						個人					無料観覧者計				
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	大人			高校・大学生	小・中学生		幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校		計	小学生	中学生			高校生	その他		
								高齢者	障害者	計					校	人数	校	人数	校	人数								校	人数
4月	26	561	12	14	24	0	0	76	17	93	0	1	705	1	14	1	110	5	451	1	333	8	908	684	34	37	708	2,371	3,076
5月	27	623	22	3	39	0	1	106	23	129	0	0	817	3	89	28	2,341	2	127	0	0	33	2,557	1,829	143	67	3,335	7,931	8,748
6月	25	631	29	11	77	0	0	128	21	149	0	0	897	1	27	1	38	1	40	1	65	4	170	466	38	48	280	1,002	1,899
7月	27	714	30	1	51	0	0	178	65	243	0	0	1,039	1	14	1	36	1	13	1	9	4	72	813	36	36	746	1,703	2,742
8月	26	1,413	51	0	114	0	0	165	32	197	0	0	1,775	2	92	0	0	0	0	1	5	3	97	1,265	129	92	727	2,310	4,085
9月	26	517	32	4	50	35	0	54	31	85	0	0	723	0	0	4	348	0	0	1	42	5	390	620	39	22	1,136	2,207	2,930
10月	27	436	24	6	67	0	0	107	13	120	0	1	654	7	262	13	957	1	42	0	0	21	1,261	407	55	21	590	2,334	2,988
11月	25	461	12	10	101	0	0	121	51	172	0	0	756	6	394	10	585	4	145	0	0	20	1,124	909	43	31	1,884	3,991	4,747
12月	24	383	9	3	16	0	0	58	10	68	0	0	479	0	0	5	262	0	0	0	0	5	262	304	23	22	334	945	1,424
1月	24	554	45	0	51	1	0	108	16	124	0	0	775	2	194	1	39	0	0	0	0	3	233	493	50	20	588	1,384	2,159
2月	24	639	42	8	26	0	0	141	21	162	1	0	878	5	97	4	167	0	0	0	0	9	264	1,270	87	23	1,907	3,551	4,429
3月	26	676	49	11	45	2	0	88	25	113	0	0	896	5	214	1	9	1	10	0	0	7	233	722	86	78	1,187	2,306	3,202
計	307	7,608	357	71	661	38	1	1,330	325	1,655	1	2	10,394	33	1,397	69	4,892	15	828	5	454	122	7,571	9,782	763	497	13,422	32,035	42,429

●常設展観覧者数累計(平成2年度～平成21年度)

(単位：人)

年	開館日数	有料観覧者											無料観覧者											観覧者総数					
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料観覧者計	学校教育						第2・4土	その他	無料観覧者計							
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	大人			高校・大学生	小・中学生		幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校				計						
								高齢者	障害者	計					校	人数	校	人数	校						人数	校	人数		
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722					55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282					202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568		2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861					114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	2,871	20,537	69,480		
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	1,080	16,778	52,147		
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	7,493	23,325	56,373		
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	19,839	34,687	57,121		
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	14,258	26,147	44,720		
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	14,209	22,301	38,891		
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	13,846	23,018	37,888		
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	13,744	23,280	38,132		
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	98	5,541	2,275	12,017	19,833	32,038		
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373	9,766	27,315	37,349		
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	93	6,488	11,732	10,264	28,484	39,797		
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532	11,705	31,705	44,669		
17	306	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432	9,157	25,372	35,637		
18	307	8,917	413	46	566	5	0	1,451	176	1,627	0	1	11,575	39	1,579	61	4,472	12	605	5	511	117	7,167	11,252	11,481	29,900	41,475		
19	308	7,651	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	10,448	13,497	30,320	40,632		
20	306	6,785	386	54	474	37	0	1,122	177	1,299	0	2	9,037	33	1,364	56	3,241	6	543	2	54	97	5,202	10,352	12,580	28,134	37,171		
21	307	7,608	357	71	661	38	1	1,330	325	1,655	1	2	10,394	33	1,397	69	4,892	15	828	5	454	122	7,571	11,042	13,422	32,035	42,429		
計	5,906	331,106	24,636	99,358	29,577	2,132	4,971	51,357	5,126	56,483	167	213	548,643	479	22,473	1,539	131,043	299	37,910	141	16,654	2,458	208,080	106,115	196,638	510,833	1,059,476		

●平成21年度 博物館企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者										無料観覧者										観覧者総数							
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)				有料観覧者計	学校教育					個人					無料観覧者計						
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	障害者	計	高齢者		障害者	計	小・中学生	高校	計	小学生	中学生	高校生	その他								
																									園	人数	校	人数	校	人数
第1回企画展「シーラカンス展」	H21.4.25 H21.6.14	44	5,212	202	46	202	1	1	628	139	767	1	1	6,433	4	110	32	2,647	5	325	2	377	43	3,459	3,230	296	151	1,907	9,043	15,476
第2回企画展「守住貫魚」	H21.10.17 H21.11.23	33	755	16	3	32	0	0	635	43	678	0	1	1,485	0	0	10	562	3	65	0	0	13	627	529	35	23	982	2,196	3,681
合計		77	5,967	218	49	234	1	1	1,263	182	1,445	1	2	7,918	4	110	42	3,209	8	390	2	377	56	4,086	3,759	331	174	2,889	11,239	19,157

●企画展観覧者数累計(平成3～21年度)

(単位：人)

企画展名	開催日数	有料観覧者										有料観覧者計	無料観覧者	観覧者総数	
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)							
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	障害者	計	高校生				小・中学生
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,541	84	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,176	50	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	980	28	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成6年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,264	36	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成7年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	862	55	917	0	3	15,332	17,213	32,545
平成8年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,054	64	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101
平成9年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	53	1,315	4	1	10,219	1,981	12,200
平成10年度	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	660	71	731	0	15	12,565	3,476	16,041
平成11年度	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	2,773	12,738
平成12年度	145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	24,581	33,415
平成13年度	90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	2,070	12,159
平成14年度	93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	7,756	13,235
平成15年度	102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	18,664	24,877
平成16年度	99	12,474	310	118	65	35	0	1,211	94	1,305	0	3	14,310	18,500	32,810
平成17年度	98	6,331	271	26	12	12	0	1,385	63	1,448	0	0	8,100	10,344	18,444
平成18年度	125	7,765	248	34	140	0	0	1,245	136	1,381	0	0	9,568	13,717	23,285
平成19年度	115	13,178	286	60	452	4	2	1,633	321	1,954	0	0	15,936	22,327	38,263
平成20年度	97	6,376	209	6	185	2	0	1,026	175	1,201	3	0	7,982	13,225	21,207
平成21年度	77	5,967	218	49	234	1	1	1,263	182	1,445	1	2	7,918	11,239	19,157
総合計	1,956	150,938	9,178	32,888	3,032	344	6,925	24,001	1,731	25,732	65	56	229,158	183,581	412,739

●特別陳列観覧者数累計(平成4～21年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第1回館蔵品展	平5.2.16～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平6.2.1～2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平7.1.13～2.5	21	3,165
第2回館蔵品展	平8.2.16～3.17	27	5,358
第3回館蔵品展「自然コレクション」	平11.7.17～8.29	38	22,372
写生大会作品展	平12.12.5～12.24	18	1,850
勝瑞時代—細川・三好氏と阿波—	平13.10.25～11.25	32	5,766
丹波マンガン鑛山の記録—在日コリアンの労働史—	平14.6.25～7.7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平15.1.21～3.2	36	4,655
知里幸恵生誕100年記念巡回展 自由の天地を求めて—知里幸恵【アイヌ神謡曲集】への道—	平15.7.19～7.27	8	1,317
日本刀の美—赤羽刀とその他の館蔵品—	平16.1.27～3.7	35	8,698
収蔵品展	平16.6.18～7.19	28	5,703
ひまわり作品展	平16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平18.1.8～1.29	19	3,475
吉野川の渡し	平18.2.18～3.19	26	3,848
旅と祈りの道—阿波の巡礼—	平19.1.19～3.18	51	7,200
徳島城下町の世界	平20.1.17～3.2	40	5,168
空から見た徳島	平21.1.27～3.15	42	7,517
蝶に魅せられて—愛好家たちのコレクション—	平21.7.18～8.30	38	9,777
八万町の昔を探ろう	平21.9.19～10.4	14	1,886
マンダラ—チベット・ネパールの仏たち—	平21.12.12～平22.2.7	44	13,118
合計		584	126,091

●移動展観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
昆虫の世界(海陽町立博物館)	平14.10.26～11.24	26	1,328
日本画書展—江戸から昭和まで—(藍住町歴史館の館)	平16.12.2～12.27	26	898
戦争体験(藍住町立図書館)	平17.8.3～8.18	14	2,342
昆虫展(藍住町立図書館)	平17.8.19～9.11	21	3,210
北アメリカの植物(松茂町歴史民俗資料館)	平18.2.4～3.5	26	1,867
海陽町の指定植物・北アメリカの植物(海陽町立博物館)	平18.7.22～8.27	32	481
牟岐大島の考古資料(牟岐町海の総合文化センター)	平19.4.26～5.15	20	353
阿波の板碑(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平19.6.5～7.22	42	197
中世阿波の板碑(藍の館)	平19.8.2～8.27	24	4,540
くらしの中の藍染め(東かがわ市歴史民俗資料館)	平19.10.20～11.18	26	291
丹波恐竜フェスティバル(兵庫県立人と自然の博物館)	平20.5.3～5.5	3	4,339
和泉群層の化石(東かがわ市歴史民俗資料館)	平20.7.19～8.31	38	523
海部郡の古代・中世(日和佐図書・資料館)	平20.7.19～9.7	44	431
那賀川平野の貝化石(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平20.9.25～11.9	41	956
達磨絵百態 横山天然の世界(藍の館)	平21.4.4～4.29	22	250
知らせる道具・広告(東かがわ市歴史民俗資料館)	平21.7.18～8.31	39	425
浜辺の植物(海陽町立博物館)	平21.7.25～8.30	32	401
国会議事堂の石(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平21.9.25～11.5	36	318
世界の昆虫(吉野川市美郷ほたる館)	平21.11.21～平22.1.25	52	220
合計		564	23,370

●博物館利用者総数年度別一覧

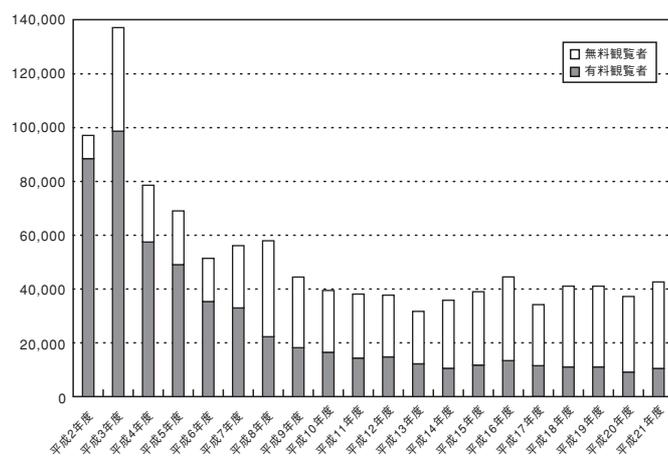
	常 設 展		常 設 展 観覧者合計	企 画 展 観覧者	特 別 陳 列 観覧者	移 動 展	普 及 行 事 参加者	そ の 他	利 用 者 総 数
	有料観覧者	無料観覧者							
2 年 度	88,722	8,555	97,277	0	0		646		97,923
3 年 度	99,282	37,835	137,117	24,237	0		1,387		162,741
4 年 度	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712		1,718		110,655
5 年 度	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090		1,686		94,431
6 年 度	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165		2,843		77,913
7 年 度	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358		4,132		98,408
8 年 度	22,434	34,687	57,121	16,101	0		2,419		75,641
9 年 度	18,573	26,147	44,720	12,200	0		2,232		59,152
10 年 度	16,590	22,301	38,891	16,041	0		1,890		56,822
11 年 度	14,870	23,018	38,888	12,738	22,372		2,461		75,459
12 年 度	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850		4,513	1,561	79,471
13 年 度	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766		3,634	2,137	55,734
14 年 度	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15 年 度	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015		4,501	2,628	81,818
16 年 度	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	95,822
17 年 度	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	79,396
18 年 度	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	85,347
19 年 度	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	170,438
20 年 度	9,037	28,134	37,171	21,207	7,517	6,249	6,041	11,963	90,148
21 年 度	10,394	32,035	42,429	19,157	24,781	1,614	8,535	35,260	131,776
累 計	548,643	510,833	1,059,476	412,739	126,091	23,370	72,971	147,359	1,842,006

※特別陳列は、自主事業のみの観覧者数。その他は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数。

●人権啓発展等観覧者数

展 示 会 名	開催期間	開催日数	観覧者総数
2000年度同和問題啓発展	平12. 8. 26～9. 8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平13. 8. 4～8. 12	8	1,290
〃 第 2 回	平13. 12. 4～12. 9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平14. 7. 27～8. 4	8	1,066
〃 第 2 回	平14. 12. 3～12. 8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平15. 8. 2～8. 10	8	1,414
〃 第 2 回	平15. 12. 2～12. 7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平16. 8. 7～8. 15	8	1,568
〃 第 2 回	平16. 12. 7～12. 12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平17. 8. 6～8. 14	8	1,594
〃 第 2 回	平17. 12. 6～12. 11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平18. 8. 5～8. 13	8	1,532
〃 第 2 回	平18. 12. 5～12. 10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平19. 12. 4～12. 9	6	589
2008年度人権問題啓発展	平20. 12. 2～12. 7	6	599
2009年度人権問題啓発展	平21. 12. 1～12. 6	6	430
合 計		114	16,068

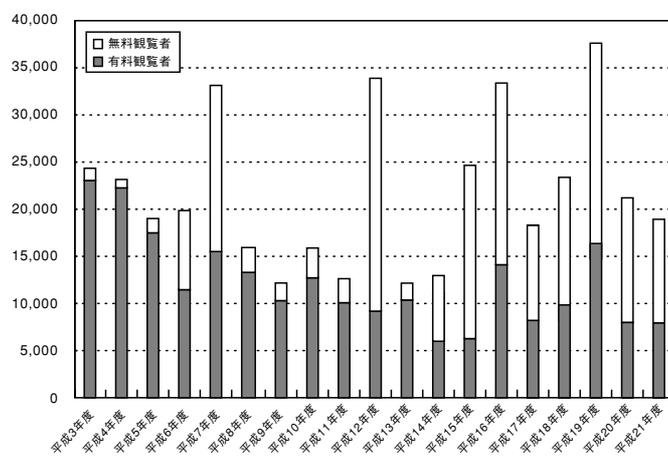
●常設展観覧者数（平成2～21年度）



●その他(啓発展を除く共催事業)観覧者数(平成15年度～)

展 示 会 名	開催期間	開催日数	観覧者総数
21世紀館との共催事業(アイヌ工芸品展)	平15. 7. 19～8. 31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平16. 7. 30～8. 3	5	2,508
人形ウィーク	平17. 8. 20～8. 28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平18. 3. 25～3. 26	2	555
子どもの絵	平18. 4. 29～5. 7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平18. 5. 5	1	950
日本古生物学会	平19. 2. 2～2. 3	2	325
バラタクソノミスト養成講座	平19. 2. 17～2. 18	2	26
第22回国民文化祭・とくしま2007	平19. 10. 27～11. 4	9	71,244
「天正の落日と曙光—守護町勝瑞から城下町徳島へ—」(徳島城博物館)	平19. 12. 4～平20. 1. 27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平20. 8. 3	1	42
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平20. 8. 9～8. 10	2	1,192
2008年度鳴門史学会研究大会	平20. 10. 18	1	80
かんさい自然フェスタ2008(大阪市立自然史博物館)	平20. 11. 15～11. 16	2	10,050
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平21. 8. 8～8. 9	2	1,212
スタジオジブリ・レイアウト展(21年度)	平22. 2. 20～3. 31	34	33,618
合 計		174	131,291

●企画展観覧者数（平成3年～21年度）



X 施設の概要

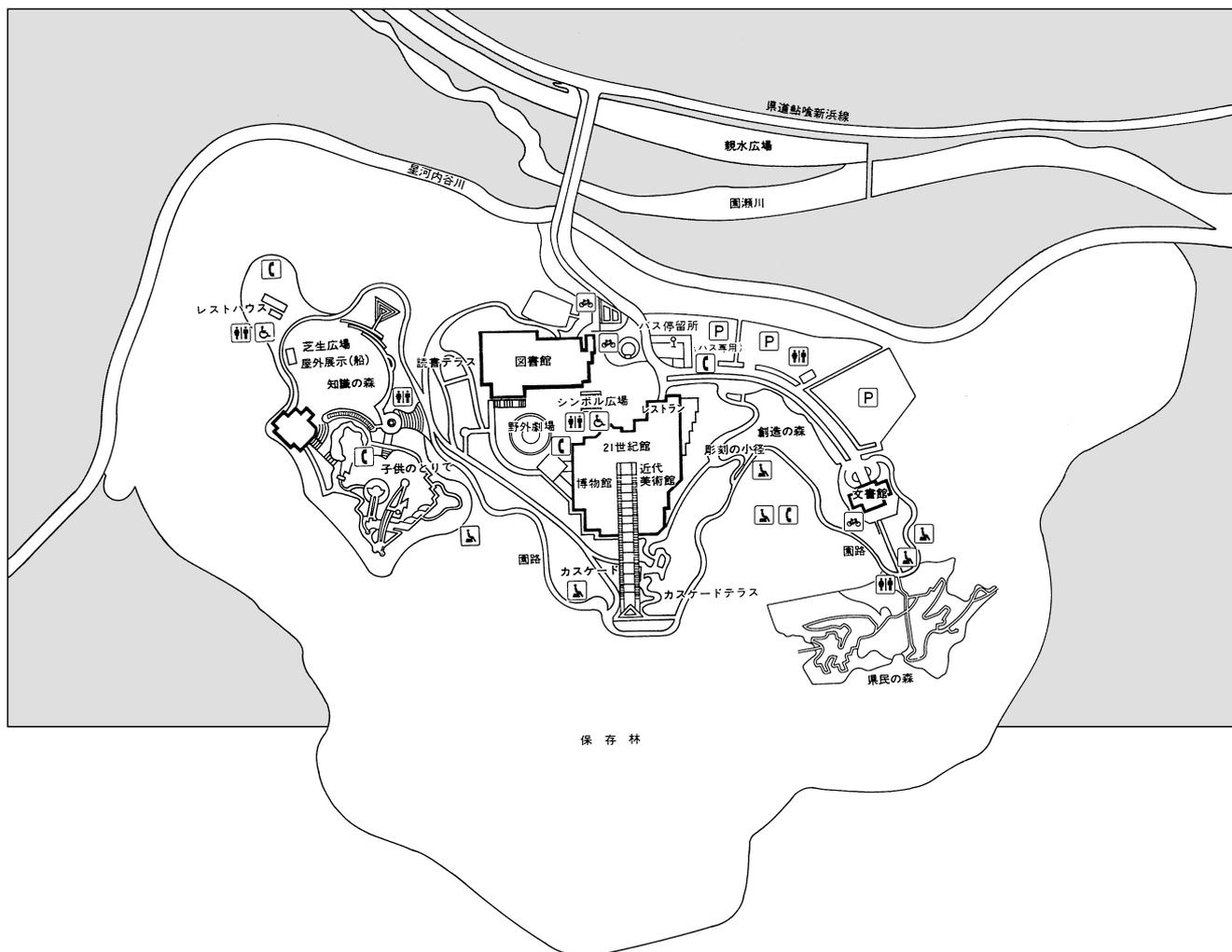
1. 沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照）
昭和55年1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年7月	博物館展示工事着手
平成元年4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・21世紀館棟本体工事竣工
平成2年3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成3年2月	博物館資料収集委員会設置
平成4年3月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成8年4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施
平成15年7月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される

2. 施設の概要

- 所在地 徳島市八万町向寺山
- 敷地面積 40.6ha（文化の森総合公園全体）
- 建築面積 8,363m²（3館棟）
- 延床面積 22,382m²（3館合計－積層部分を含めると23,814m²）
8,133m²（博物館占用スペース）
- 構造規模 鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階

- 設計 (株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
- 施行
- 建築 ----- 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
- 電気 ----- 四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
- 空調 ----- 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
- 管 ----- 朝日工業社・大成設備 共同企業体
- エレベータ ----- (株)東芝
- 家具 ----- 富士ファニチア(株)
- 移動展示ケース ----- (株)三井
- 展示 ----- (株)丹青社



3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
鳥居博収蔵庫	70
その他共用部分※	771
小計	2,043

2 階	
室名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫 1	37
特別収蔵庫 2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

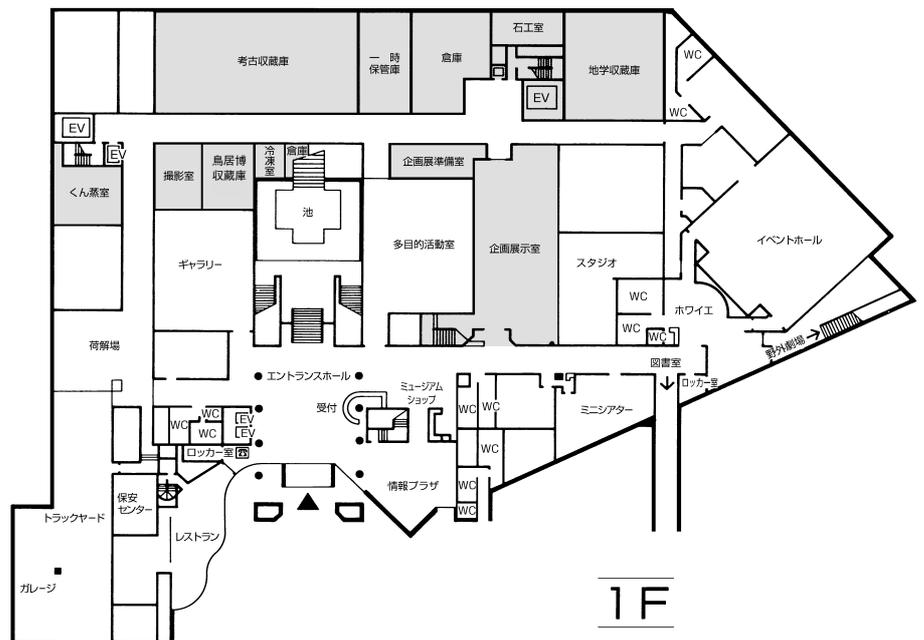
3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室 1	64
分析室 2	48
X線撮影室	48
保存処理室 2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

屋 1 階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

合 計	
8,133㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館および21世紀館との案分面積。

博物館占用スペース



Ⅵ 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例 [抜粋]

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号

最近改正 平成22年3月30日 徳島県条例第15号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料(鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立二十一世紀館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の業務は省略)

(利用の許可)

第3条 (省略)

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料又は美術館が展示する美術館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 (省略)

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それ

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(4館の各協議会の所掌事務は省略)

それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

- 2 協議会は、委員10人以内で組織する。
- 3 (省略)
- 4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 委員は、再任されることができる。
- 6 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。
(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区分	単位	金額			
		常設展		企画展	
		個人	団体(20人以上をいう。以下同じ。)	個人	団体
小学校の児童及び中学校の生徒	1人1回	50円	40円	知事はその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1人1回	100円	80円		
その他の者(学齢に達しない者を除く。)	1人1回	200円	160円		

●徳島県立博物館管理規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第9号

改正 平成8年3月29日 徳島県教育委員会規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

2 徳島県立博物館長(以下「館長」という。)は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第6条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

●徳島県立博物館協議会規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第6項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成22年3月31日 徳島県教育委員会規則第1号

第1章 総則（省略）

第2章 事務局（省略）

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に普及課、自然課及び人文課を置く。

2 前項の課の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料(鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(所長等の職務)

第32条 総合教育センター、少年自然の家及び埋蔵文化財総合センターの所長、文書館及び二十一世紀館の館長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(次長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館

(総合教育センターその他の次長は省略)

- 2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、教育委員会が指定する職員が、その職務を代行する。ただし、やむを得ない事由により教育委員会が教育機関の長の職務を代行する職員を指定することができないときは、当該機関に属する次長又は副館長（二人以上置かれているときは、当該教育機関の長が指定する次長又は副館長）が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
課 長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
課 長 補 佐	上司の命を受け、特に高度の知識又は経験を必要とする事務、技術又は専門的事務に従事する。
専 門 学 芸 員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。
主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は技術若しくは専門的事務に従事する。
主 任 学 芸 員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館又は美術館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

第4章 附属機関

(附属機関)

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	庶務を担当する課又は教育機関
徳島県立博物館協議会	博物館

(事務局の各審議会、他館の協議会等は省略)

徳島県立博物館年報 第19号（平成21年度）

平成22年（2010）8月31日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

（文化の森総合公園内）

TEL (088) 668-3636 FAX (088) 668-7197

Eメール museum@mt.tokushima-ec.ed.jp

ホームページ <http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/>

印 刷：(株)教育出版センター
